

第8図 1区 S1101出土遺物実測図

遺構内からは古式土師器の破片・石製品・種実が出土した。このうち、図化したものは1～5・S1である。

1は壺で、口縁端部は上下に拡張し面を形成する。2～4は庄内式壺で、2・3は生駒山地西麓産である。2はK-4から、4はK-1から出土した。5は大型の鉢で、口縁部外面に凹線を、体部の内面はヘラケヅリを施す。この鉢は、加賀地域で出土する壺【出土の類例には漆町遺跡II図版107の38(田嶋1988)、戸水ホコダ遺跡第99図の233(出越1999)などがある。】に施す調整や、頸部から口縁部にかけての形状が似ていることから加賀地域で作り搬入された可能性が高いと考えられる。S1は石製品で、敲打痕跡が数箇所あり、焦げ跡もある。また、桃と思われる種が1点(W1)出土した。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

#### 参考文献

- ・田嶋明人 1988『漆町遺跡II』石川県立埋蔵文化財センター
- ・出越茂和 1999『戸水ホコダ遺跡I 戸水ホコダ遺跡』金沢市埋蔵文化財センター

**S K101**

I-25-4・5C地区で検出した。平面形状は半円形を呈し、東西2.0m、南北1.2m以上を測る。断面形状は皿形で、深さ0.15mを測る。埋土は5B2/1青黒色細粒砂混粘土で、古式土師器の破片が出土した。このうち図化したものは6である。

6は山陰系の器台で、凸帯を1条施す。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

**S K102**

I-25-4・5B・C地区で検出した。平面形状は半楕円形を呈し、東西5.8m、南北3.4m以上を測る。断面形状は逆台形で、深さ0.3mを測る。埋土は上からa層5B3/1暗青灰色粗粒シルト混粘土(炭を少量含む)、b層10BG3/1暗青灰色粗粒シルト混粘土、c層5B3/1暗青灰色粘土である。a層からは古式土師器が出土した。このうち図化したものは7~11である。

7・8は直口壺である。9・10は甕で、9は右上がりのタタキを施し、内面に施すヘラケズリは屈曲部に及ぶ庄内式甕である。10の体部内面のヘラケズリは屈曲部におよんでいない。11は椀形高杯で、外面は黒く、表面は光沢がある。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

**S K103**

I-25-4B地区で検出した。平面形状は半楕円形を呈し、東西3.3m以上、南北2.2mを測る、断面形状は逆台形で、深さ0.25mを測る。埋土は上からa層5B2/1青黒色粗粒シルト混粘土(炭を少量含む)、b層10BG3/1暗青灰色粘土である。a層からは古式土師器が出土した。このうち図化したものは12~15である。

12・13は短い脚が付く低脚の高杯である。14・15は器台である。14は貫通する器台である。庄内式期の古相に比定できる。15は突帯を1条施し、山陰系の可能性がある。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代初頭の庄内式新相に比定できる。

**S K104**

I-25-4B地区で検出した。平面形状は円形を呈し、径2.0mを測る。断面形状は皿形で、深さ0.1mを測る。埋土はa層5B2/1青黒色細粒シルト混粘土、b層5B5/1青灰色粘土である。古式土師器の破片が少量出土した。このうち図化したものは16~19である。

16~18は甕である。16・17は庄内式甕で、16は生駒西蘿童である。18は山陰系の可能性がある。19は鉢で、口縁外面には凹線を施す。口縁端部が欠損しており不明ではあるが、残存している輪郭から有段口縁になると思われる。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代初頭の庄内式新相に比定できる。

**S K105**

I-25-4B地区で検出した。平面形状は円形を呈し、径0.5mを測る。断面形状は皿形で、深さ0.1mを測る。埋土は5B2/1青黒色細粒シルト混粘土である。古式土師器の破片が少量出土したが、図化できたものはなかった。

**S K106**

I-25-4B地区で検出した。平面形状は南西-北東に長い楕円形を呈し、長径1.6m、短径1.1

mを測る。断面形状は皿形で、深さ0.05mを測る。埋土は5B2/1青黒色細粒シルト混粘土である。古式土師器の破片が少量出土した。このうち図化したものは20である。

20は鉢か楕円高杯と思われる。内面には丁寧に放射状のミガキを施している。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代初頭の庄内式新相に比定できる。

#### S K107

I-25-4 B地区で検出した。この遺構はS I 101を切る。平面形状は東西に長い楕円形を呈し、長径1.0m、短径0.6mを測る。断面形状は皿形で、深さ0.08mを測る。埋土は5B2/1青黒色粗粒シルト混粘土(炭を含む)である。古式土師器の破片が少量出土した。このうち図化したものは21である。

21は庄内式甕で、器面表部の色は白っぽく、硬い。高温で焼きしめた結果と思われる。生駒西麓産である。

#### S K108

I-25-4 B地区で検出した。平面形状は東西方向に長い楕円形を呈し、長径0.8m、短径0.6mを測る。断面形状は皿形で、深さ0.07mを測る。埋土は5B2/1青黒色細粒シルト混粘土である。古式土師器の破片が少量出土した。このうち図化したものは22である。

22は庄内式甕で、生駒西麓産である。

#### S K109

I-25-3・4 B・C地区で検出した。平面形状は半楕円形を呈し、東西2.2m、南北2.4m以上を測る。断面形状は皿形で、深さ0.1mを測る。埋土は5B3/1暗青灰色粗粒シルト混粘土(炭を少量含む)である。古式土師器の破片が出土した。このうち図化したものは23~27である。

23は甕、24は甕、25・26は鉢、27は器台である。23は讃岐か阿波系の可能性がある。25は直口の口縁で、内面はヘラケヅリを施す。26は焼成後に施された貫通しない孔が口縁部外面に1箇所ある。生駒西麓産である。

#### S K110

I-25-4 B地区で検出した。平面形状は円形を呈し、径0.4mを測る。断面形状は皿形で、深さ0.05mを測る。埋土は5B2/1青黒色細粒シルト混粘土である。古式土師器の破片が出土した。このうち図化したものは28である。

28は布留式甕。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定される。

#### S K111

I-25-4 B地区で検出した。平面形状は東西に長い楕円形を呈し、長径0.6m、短径0.4mを測る。断面形状は逆台形で、深さ0.13mを測る。埋土はa層5B6/1青灰色粗粒シルト混粘土、b層5B2/1青黒色細粒砂混粘土(炭を多量含む)、c層5BG5/1青灰色粘土である。c層からは古式土師器の破片が出土した。このうち図化したものは29である。

29は高杯で、筒状の脚部である。

#### S K112

I-25-3・4 B地区で検出した。北側はS K114に切られる。平面形状は東西に長い楕円形を呈し、東西1.0m、南北1.8mを測る。断面形状は皿形で、深さ0.1mを測る。埋土はa層5B3/1暗青灰色粗粒シルト混粘土(炭化した自然木を多く含む)、b層5B5/1青灰色細粒シルト混粘土であ

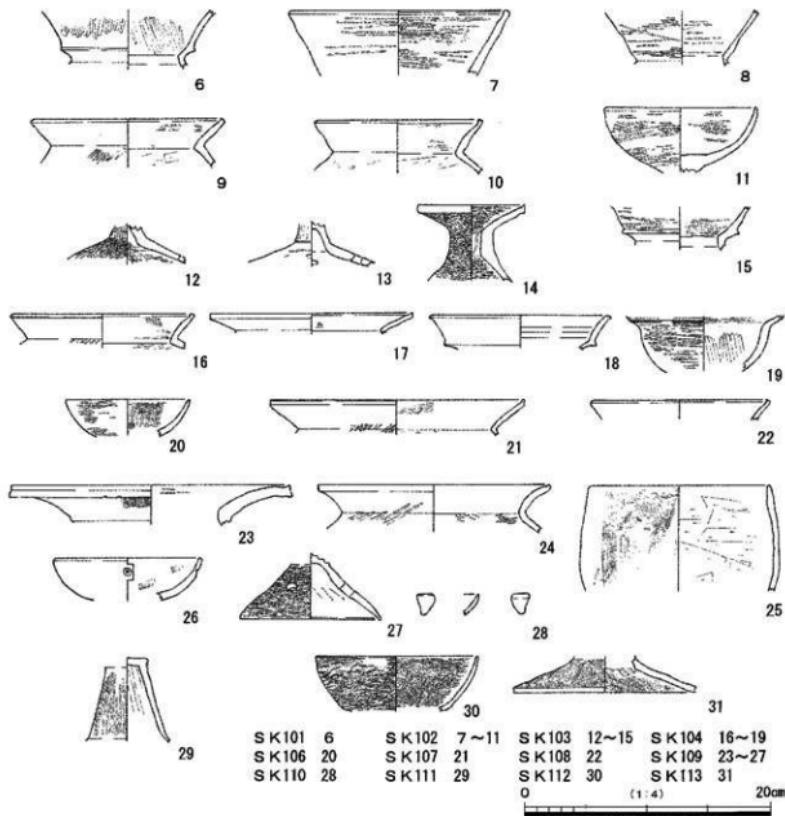
る。a層からは古式土師器の破片が出土した。このうち図化したものは30である。

30は楕形の高杯で、内外面は丁寧にヘラミガキを施し、内面は黒漆と思われる黒色物質を塗布。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古棺に比定される。

### S K113

I-25-4B地区で検出した。S K101、S K114を切る。平面形状は南北方向に長い不定形を呈し、長径1.1m、短径0.8m以上を測る。断面形状は逆台形で、深さ0.12mを測る。埋土は5B3/1暗青灰色粗粒シルト混粘土(炭を含む)である。古式土師器の破片が出土した。このうち図化したものは31である。

31は高杯で、裾部の外面には縦方向のヘラミガキを丁寧に施している。



第9図 1区 S K101~104・S K106~113 出土遺物実測図

表2 出土遺物観察表(2)

遺物 番号	退損 順序	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
6	S K 101	古式土師器 盤?		受部は外反する。受部の外面下位に突唇を1条施す。受部の内面は右上がりのヘラミガキ、外面は右上がりのヘラミガキを施す。	内外面7.5YR7/8 黄褐色	1~3mmの砂粒含む。	良好	山陰系
8	S K 102	古式土師器 壺?	口径17.4	口縁部は直線的に外上方へひらく。端部は内側へ肥厚し丸く終わる。口縁部の内面はハケナダのヘラミガキを施す。	内外面7.5YR7/6 橙色	1~3mmの砂粒含む。	良好	
8	S K 102	古式土師器 壺?	口径15.2	口縁部は直線的に外上方へひらく。口縁部の内外面はヘラミガキを施す。	内外面7.5YR7/6 橙色	1~2mmの砂粒含む。	良好	
9	S K 102	古式土師器 壺?	口径15.2	口縁部は直線的に外下方へひらく。端部はつまみ出し面を形成する。口縁部の内面はハケナダのちヨコナダ、外面はヨコナダを施す。体部灰色の内面はヘラケズリ、外面は右上がりのタキのち左上がりのケズリを施す。	内外面7.5YR8/1 灰 内外面7.5YR7/1 褐色	1~5mmの砂粒含む。(硬く角閃石を多含き緑色で古む生産する。)西楚風	良好	
10	S K 102	古式土師器 壺?	口径13.0	口縁部は船底と外反する。端部は上方へつまみ出し丸く終わる。口縁部の内面はハケナダのちヨコナダ、外面はヨコナダを施す。体部の内面はヘラケズリ、外面は右上がりのタキのち左上がりのケズリを施す。	内面7.5YR5/3 灰 外面7.5YR4/2 灰	1~3mmの砂粒含む。	良好	
11	S K 102	古式土師器 碗形高杯	口径12.2	口縁部は平らな外輪部から内溝する。端部は尖りぎみに丸く終わる。口縁部の内面はヘラミガキのちヨコナダ、外面はヨコナダを施す。体部の内面はヘラケズリを施す。ヘラケズリは飴曲輪までおよんでいない。外面は左上がりのハケナダを施す。	内面7.5YR7/4 灰 外面7.5YR6/3 褐色	1~5mmの砂粒含む。	良好	
12	S K 103	古式土師器 高杯		脚部は直立立ち上がる。肩部は内溝ぎみに外下方へひらく。脚部の内面はユビナダのちヘラミガキを施し、シリオリ目がある。外面白色は横方向のヘラミガキのちユビナダを施す。肩部の内面はヘラミガキを施す。 verracosa状工具による鋸歯状の押さえが散在所ある。外側は褐色の内面はヘラミガキを施す。底部のスカラシ孔は4個あり、焼成前にあけている。脚部と握縁の坑に爪で留した跡がある。	内外面7.5YR5/2灰 白 内外面7.5YR7/4 褐色	1~2mmの砂粒含む。	良好	
13	S K 103	古式土師器 高杯		脚部は直立立ち上がる。脚部は内溝ぎみに外下方へひらく。脚部の内面はユビナダ、外面は横方向のヘラミガキのちユビナダを施す。握縁の内面はユビナダ、外面はヘラミガキのちユビナダを施す。握縁のスカラシ孔は4個あり、焼成前にあけている。	内面7.5YR6/1 灰 外面7.5YR7/2 褐色	1mmの砂粒含む。	良好	
14	S K 103	古式土師器 器台?	口径8.55	裏溝する器台で、口縁端部は上下には盛り高さを形成する。器台の内外面はヘラミガキを施す。器台の内面はユビナダを施し、粘土質合成分が上位にある。また、内面は部分的に横方向に割れいる。受部の外側はヘラミガキを施す。端部はユビナダを施す。	内外面10YR7/3 灰 内外面10YR7/2 褐色	1~4mmの砂粒含む。	良好	
15	S K 103	古式土師器 器台?		口縁部は外上方へ外反する。外面に突唇を1条施す。突唇はユビナダ、口縁部の内面はハケナダのちヘラミガキ、外側は横方向のヘラミガキを施す。	内外面7.5YR6/1 灰 内外面7.5YR6/8 褐色	1~2mmの砂粒含む。	良好	山陰系
16	S K 104	古式土師器 壺?	口径11.3	口縁部は直線的に外反する。端部は上方へつまみ出し、面を形成する。体部の内面はヘラケズリ、外面は右上がりのタキのちユビナダを施す。口縁部の内面はハケナダのちユビナダ、外面はユビナダを施す。	内外面10YR6/1 褐色 内外面10YR2/1 黑色	1~2mmの砂粒含む。(硬く角閃石を多含き緑色で古む生産する。)西楚風	良好	
17	S K 104	古式土師器 壺?	口径16.5	口縁部は直線的に外反する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。端部は凹縁状にくぼむ。口縁部の内面はハケナダのちユビナダ、外面はユビナダを施す。	内外面10YR4/1 褐色 内外面10YR6/6 明黄色	1mmの砂粒含む。	良好	
18	S K 104	古式土師器 二重口縁 壺?	口径14.0	口縁部は外反し殺をもち、さらに外反する。端部は外へつまみ出しだして形成する。口縁部の内外面はヨコナダを施す。外面には直唇が付いている。	内外面2.5YR7/4 白色 内外面10YR6/1 褐色	1~2mmの砂粒含む。	良好	山陰系
19	S K 104	古式土師器 壺?		体部は内溝する。口縁部は外反する。口縁部の内面はヘラミガキ、外面は横方向の回線文を施す。体部の内面は横方向のヘラミガキの後、放射状のヘラミガキ、外面は横方向のヘラミガキを施す。	内外面10YR7/4 白色 内外面10YR6/6 明黄色	1~2mmの砂粒含む。	良好	
20	S K 106	古式土師器 壺? 碗形高杯?	口径10.0	口縁部は内溝する。端部は尖りぎみに丸く終わる。口縁部の内面はヘラミガキの後、放射状のヘラミガキ、外面は横方向のヘラミガキを施す。	内外面10YR7/4 白色 内外面10YR6/6 明黄色	1~2mmの砂粒含む。	良好	

表3 出土遺物観察表(3)

遺物番号 図版番号	遺構層序	器種	法量(cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
21 S K 107	古式土師器 甕	口径20.6	口縁部は外反する。端部は上方につまみ出し面を形成する。端部の内面には凹状にくぼむ。口縁部の内面はヘナナデのちヨコナデ、外側のト位はタタキのちヨコナデ、上位はヨコナデを施す。体部の内面はヘタケズリ、外側は右上がりのタタキを施す。	内外面10YR7/1灰白色	1~2mmの良好砂粒含む。(硬く(角閃石を多発き細く含む生割まる。)西面)			
22 S K 108	古式土師器 甕	口径14.0	口縁部は外反する。端部は上方につまみ出し面を形成する。口縁部の内外面はヨコナデを施す。	内外面10YR5/1褐色	1~2mmの良好砂粒含む。(硬く(角閃石を多発き細く含む生割まる。)西面)			
23 S K 109 8	古式土師器 甕	口径22.5	口縁部は外反する。端部は上方につまみ出し面を形成する。端部には凹状を1周設し、下端はキザミ目を施す。口縁部の内面は横方向のヘラミガキ、外側は輪方向のヘラミガキを施す。	内面SYR6/8橙色 外面7.5YR6.4に付ぶい橙色	1~5mmの良好砂粒含む。			讃岐か阿波系?
24 S K 109	古式土師器 甕	口径18.8	口縁部は外反する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。口縁部の内面はヨコナデを施す。体部の内面はユビナデを施し、端部の内外面にはヘラ状で具による板筋がある。外耳は太底のタタキ(1cm)を右上がりに施す。	内面10YR7/6明黄色 外面10YR6/2反黄褐色	1~3mmの良好砂粒含む。			
25 S K 109 8	古式土師器 甕	口径14.5 底径最大 高さ16.2	口縁部は直線的に上方へ伸びる。口縁部の外側には粘土接合の痕、内面10YR7/2にぶついた跡がある。体部の内面は横方向へのヘタケズリを施す。ヘタケズリの方向は右から左と思われる。体部の外腹の中には横方向のハケナナデ、上位は左上がりのヘナナデ後。ヘナナデとヘラミガキを部分的に右上がりに施す。	内面10YR7/2にぶついた跡 内面10YR6/2反黄褐色	1~2mmの良好砂粒含む。			
26 S K 109 8	古式土師器 甕	口径11.8	口縁部は内凹する。端部は尖りぎみに丸く終わる。口縁部の外側には施成後、貫通しない孔がある。二様部の内面はヘナナデのちユビナデ、外側はユビナデを施す。	内面10YR6/1褐色 内面10YR6/3にぶついた黄褐色	1~3mmの良好砂粒含む。(硬く(角閃石を多発き細く含む生割まる。)内側)			
27 S K 109	古式土師器 甕	口径11.4	端部は「ハ」の字に直線的に外へひらく。端部の中央にはスカシが孔が3方向にあけられている。器部の内面はユビナデを施し、ヘビイ黄褐色	内外面10YR7/2にぶついた跡 内面10YR7/2にぶついた跡	1~3mmの良好砂粒含む。			
28 S K 110	古式土師器 甕		口縁部は内凹する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。口縁部の内外面はヨコナデを施す。	内外面2.6YR7/2灰黄色	1mmの砂粒含む。			
29 S K 111	古式土師器 高杯		端部は直線的にひろがる脚部から后曲し外へ伸びる。杯部の内面はヨビナデを施す。脚部の内面はヨビナデで、全体的にしばり目が確認できる。上端には軽井澤合の抜跡がある。外耳は横方向のヘラミガキを施す。	内面7.5YR7/1明褐色 外面7.5YR7/8黄褐色	1~3mmの良好砂粒含む。			
30 S K 112 8	古式土師器 高杯	口径13.1	口縁部は内凹する。杯部の内面には、段がある。口縁部および杯部の内面は横方向のヘラミガキのち放射状ヘラミガキを施す。外耳は左上がりのヘナナデのち横方向のヘラミガキを施す。外耳5YR6/6褐色	内面SYR7/4にぶついた跡 内面5YR6/6褐色	1~3mmの良好砂粒含む。			
31 S K 113	古式土師器 高杯	口径14.8	端部は「ハ」の字にひらく。端部は底を形成する。器部の内面は横方向のハケナナデ、外側は横方向のヘナナデを施す。	内外面10YR6/6褐色	1~3mmの良好砂粒含む。			

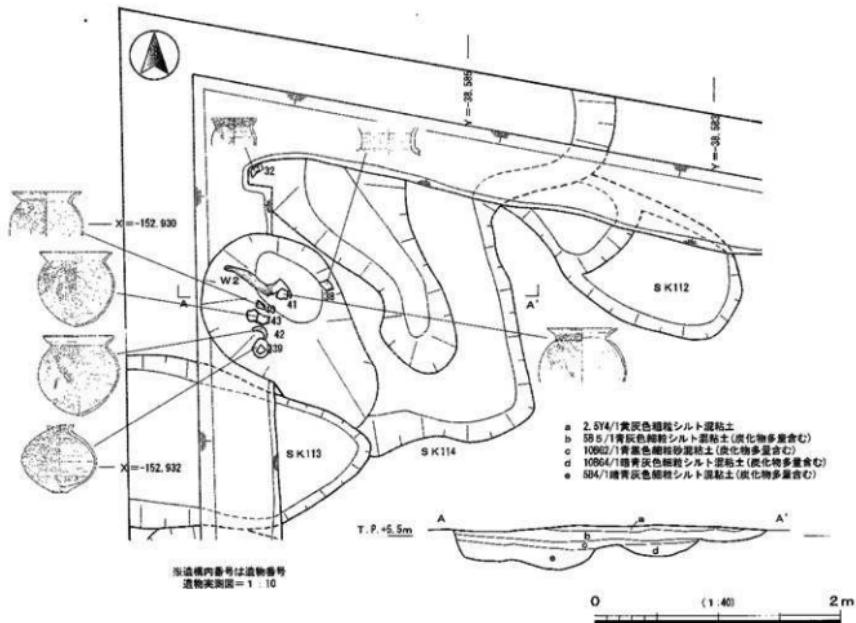
## S K114

I-25-3・4B地区で検出した。この遺構はSK112を切り、SK113に切られる。平面形状は東西に長い不定形を呈し、東西4.0m以上、短径3.3m以上を測る。断面形状は皿形で、深さ0.2mを測る。上からa層2.5Y4/1黄灰色粗粒シルト混粘土、b層5B5/1青灰色細粒シルト混粘土(炭を多量に含む)、c層10BG2/1青黒色細粒砂混粘土(炭を多量に含む)。b層からは古式土師器が出土した。また、遺構底面の中央部分には南東-北西方向に長い楕円形の窪みが2箇所ある。北側の窪みは長径2.2m、短径0.6m、底面からの深さ0.15mを測る。埋土は10BG4/1暗青灰色細粒シルト混粘土(炭を含む)で、古式土師器が出土した。南側の窪みは長径1.8m、短径1.1m、底面からの深さ0.2mを測る。埋土は5B4/1暗青灰色粗粒シルト混粘土(炭を含む)で、古式土師器が出土した。このうち図化したものは32~48・W2である。

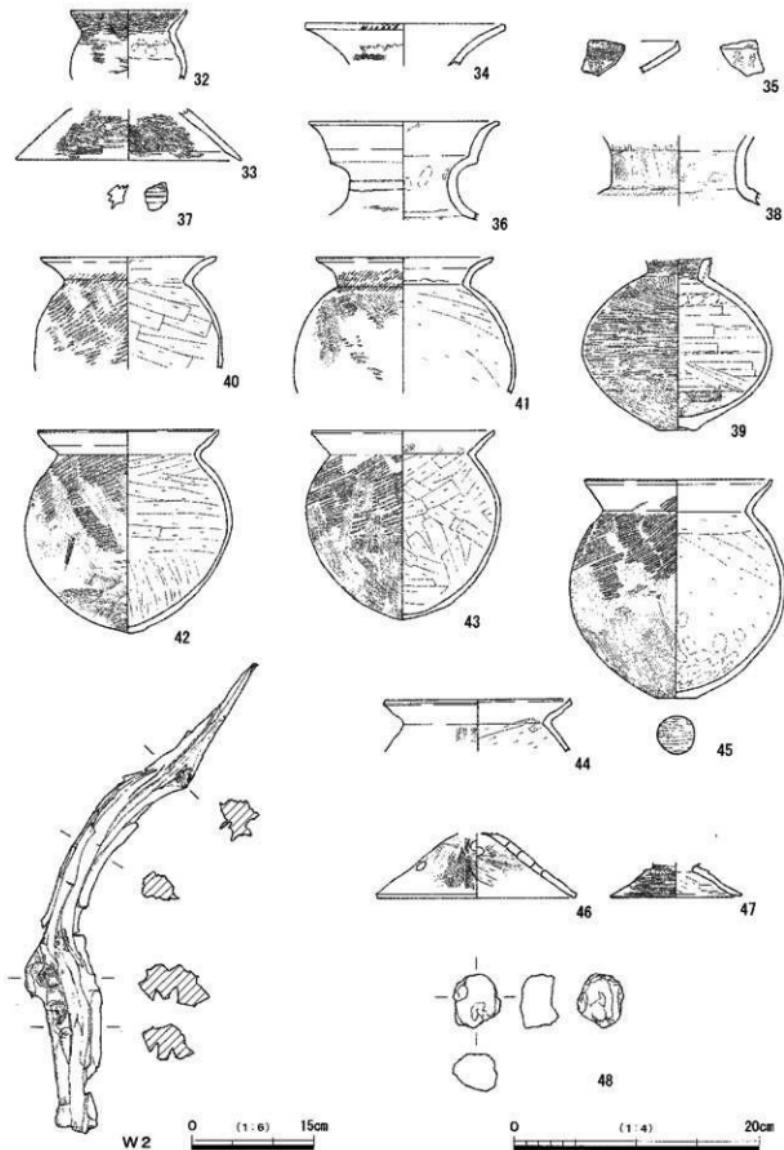
32は小型壺である。内面は、表面を丁寧にナデ調整していないため粘土接合痕が顕著に残る。

34～39は壺である。34は外面に波状文を施す。35は口縁端部と内面に波状文を施す。36は複合口縁で、頸部に沈線を2条施す。山陰系の可能性がある。37は外面に回線を3条+αを施す。

40～45は壺である。40・41は体部最大径が中位にあり、外面のタタキは太く、口縁部まで達している。42・43の端部は上方へつまみ出し面を形成する。体部最大径は上位にあり、口径を上回る。タタキのち施されるハケナデは上位まで達しているが全面には施していない。内面は全体をヘラケズリしている。45は体部最大径が中位にあり、球形の体部である。底部は平らで、外面にハケナデを施す。体部内面下位はヘラケズリを行ったのちナデを施し、指圧痕が顕著に残っている。40・41・45は生駒山地西麓産の胎土である。40～45の体部内面のヘラケズリは屈曲部までおよぶ。46は高杯で、裾部には2段にスカシ孔を施す。33・47は山陰系の器台である。47は、裾部の上位に1条の突帯を施す。48は粘土の塊である。W2は自然木で、伐採したのち、細かい枝は切りおとしている。加工痕はなく、用途は不明である。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代初頭の庄内式新相に比定できる。



第10図 1区 SK114 平・断面図



第11図 1区 SK114出土遺物実測図

表4 出土遺物觀察表(4)

遺物 番号 国別 分類	遺構 層序	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
32	S.K. 114	古式土師器 小型盤	口径 9.1 体部最大 径 9.2	口縁部は丸い体部から弧曲し直線的に外上方へ伸びる。端部はやや 内側へ凹出し、尖りぎみに丸く終わる。口縁部の内面は横方向への ミガキ、外縁は横方向へのハラミガキを施す。体部の内面はエビナ デを施し、粘土合板の痕跡が顕著に残る。外縁ハケナデの中へラ ミガキを施す。	内面10YR6/1褐色 外面10YR8/3によ り黄褐色	1 ~ 2 mm の 砂粒含む。	良好	
33	S.K. 9	古式土師器 新台	口径18.0	口縁部は外方に直線的にひらく、縁部の内面に面を形成する。 口縁部の内面はハケナデの中へラミガキを施す。受部の内面は横 方向へのハラミガキを施す。外面は横方向へのハラミガキを施した 後、ハラミ工具による痕跡が見られる。受部の内外面には部分的 に黒斑がある。	内面 7.5YR7/2 外縁側灰褐色 外縁にキヤミ目、外面に波状 文を2条+△施す。内面には擦が付着している。	1 ~ 3 mm の 砂粒含む。	良好	山陰系
34	S.K. 9	古式土師器 壺	口径15.8	口縁部は外反する。肩部は上方につまみ出し面を形成する。口縁部 の内面はヨコナナデ。下縁部にキヤミ目、外面に波状文を2条+△ 施す。内面には擦が付着している。	内面10YR5/2灰黃 色 外面10YR7/1灰白 色	2 mm の砂粒良好 含む。		
35	S.K. 9	古式土師器 壺		口縁部は直線的に外側へ伸びる。端部は上方につまみ出し面を形 成する。内面は縱方向のハラミガキを、縁部と内面には波状文 を施す。	内外面 2.5YR7/3 黄色	3 mm の砂粒良好 含む。		
36	S.K. 9	古式土師器 壺合口縁蓋	口径15.0	口縁部は内方に直線的に伸びた後、外上方へ曲がり底を有し外 反する。端部は丸をもつ。口縁部の内外面はヨコナナデを施す。頂 部に沈鉢を2条+△施す。体部の内面はハラミガキ、外縁はエビナ デを施す。	内面10YR7/2によ り黄褐色 外縁10YR7/1灰白 色	3 mm の砂粒良好 含む。	山陰 系?	
37	S.K. 9	古式土師器 複合口縁蓋		口縁部は外反す。口縁部の外縁に凹溝を3条+△施す。内面は ヨコナナデを施す。	内外面 2.5YR5/4 にぶい赤褐色	1 mm の砂粒良好 含む。		
38	S.K. 114	古式土師器 壺		口縁部は直線し直線的に上方へ伸びたのち反する。口縁部の内 面はハケナデの中へヨコナナデ、外縁はハケナデを施す。体部20cm 外にはハケナデを施す。	内面 2.5YR3/3灰黃 色 外縁10YR6/1褐色	3 mm の砂粒良好 含む。		
39	S.K. 9	古式土師器 壺	体部最大 径15.1 高 さ 3.1	底部は突出する上げ底である。体部は無平面球形で、体部最大径 は下位にある。頭部は軽く直線的にみこへ伸び、屈曲し外上方 へ広がる口縁部が付くと思われる。頸部の外縁部はハラミガキを 施す。体部の内面は左位ハケナデ、中位はハラミT.具による ハラミガキ、上位はヨビナデを施す。体部の外縁下位は左上がりのハ ラミガキ、中位は横方向へのハラミガキ、上位は左上がりのハ ラミガキを施す。底部は右上がりのタキツのち左上がりのハ ケナデ、上位は右上がりのタキツのち左上がりのハケナデを施す。 体部の外縁には擦が付着している。	内面10YR7/1灰白 色 外縁10YR7/4によ り黄褐色	1 ~ 5 mm の良好 砂粒含む。	良好	
40	S.K. 9	古式土師器 壺	口径14.0 体部最大 径15.0 高 さ 15.0	体部は瓶形の壺になると思われる。口縁部は屈曲し外反する。 端部は尖りぎみに丸く終わる。口縁の内面はハケナデのヨコナ ナデ、外縁はタキツ(4本/1cm)のヨコナナデを施す。体部の内面 は左上がりのハラケズリを施す。ハラケズリは屈曲部までおよ ぶ。外縫の中位は右上がりのタキツのち左上がりのタキツの ハケナデ、上位は右上がりのタキツのち左上がりのハケナデを施す。 体部の外縁には擦が付着している。	内面 2.5V5/4灰黃 色 外縁 7.5YR6/2灰 色	1 ~ 2 mm の良好 砂粒含む。( 稲 く 角閃石を多量に 含むやけ嗣まる。 ) 西夏	良好	
41	S.K. 9	古式土師器 壺	口径14.0 体部最大 径17.7	口縁部は瓶形の壺になると思われる。口縁部は屈曲し直線的に外 上方へ伸びたのち外反する。端部は丸みのある面を形成する。口 縁部の内面ありヨコナナデを施し、粘土合板の痕跡がある。外縁はタ キツ(4本/1cm)のヨコナナデを施す。体部の内面は左上がりの ハラケズリを施す。ハラケズリは屈曲部までよじる。体部の外 縫は横方向へのタキツ、中位は左上がりのハラケズリを施すが、 ハケナデにより消されている。上位は右上がりのタキツ(3.6本/1 cm)のち左上がりのハケナデを施す。外縫全体に擦が付着してい る。	内面 2.5V5/4灰黃 色 外縁10YR5/2灰黃 色	1 ~ 3 mm の良好 砂粒含む。( 便 く 角閃石を多量に 含むやけ嗣まる。 ) 西夏	良好	
42	S.K. 9	古式土師器 壺	口径14.0 体部最大 径18.6	底部は尖り底である。体部下位は丸みがありが直線的に外上方へ 伸びる。高さはひらく。体部最大径は上位にある。口縁部は直線し外反する。端 部は上上がりのヨコナナデを施す。口縁部の内面はハケナデの ヨコナナデ、外縫はヨコナナデを施す。体部の内面下位は左上 りのハラケズリ、上位は左上りのハラケズリを施す。中位は左上 りのハラケズリを施す。体部の外縫の下位はハケナデ、中位は左上 りのハラケズリを施す。上位は右上がりのタキツ(3.6本/1cm) のち左上がりのハケナデを施す。外縫全体に擦が付着してい る。	内外面 5Y7/2灰 色	1 ~ 3 mm の良好 砂粒含む。	良好	床内式 発 他地域 の胎土 か?
43	S.K. 9	古式土師器 壺	口径14.0 体部最大 径15.65	底部は尖り底である。体部下位は丸みがありが直線的に外上方へ 伸びる。高さはひらく。体部最大径は上位にある。口縁部は直線し外反する。端 部は上上がりのヨコナナデを施す。口縁部の内面はハケナデの ヨコナナデ、外縫はヨコナナデを施す。体部の内面下位は左上 りのハラケズリを施す。上位は右上がりのタキツ(3.6本/1cm) のち左上がりのハケナデを施す。外縫全体に擦が付着してい る。	内外面10YR8/2灰 色	1 ~ 3 mm の良好 砂粒含む。	良好	庄内式 発 他地域 の胎土 か?

表5 出土遺物観察表(5)

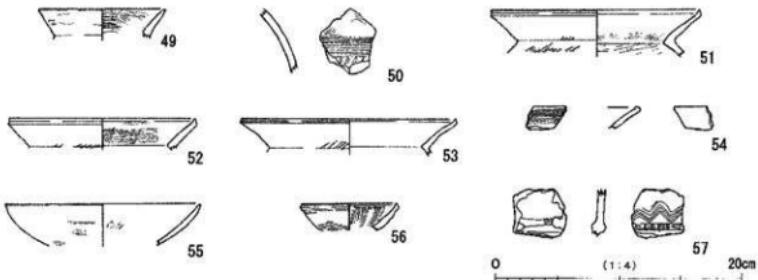
遺物 番号	遺構 層序	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
44	SK 114	古式土師器 壺	口径14.7	口縁部は「く」の字に反曲し外反する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。端面は凹縫状のくぼみがある。口縁部の内面は右上がりのハケナデのらヨコナデ、外面はヨコナデを施す。体部の内面はヘラケズリ、外面は瓶方向のハケナデのちユビナデを施す。	内面5YR6/8褐色 外面5YR6/2灰褐色 砂粒含む。	1~2mm	良好	庄内式 甕 他地域 の胎土 か?
45	SK 114	古式土師器 壺	口径14.8 高さ17.8 体部最大 径17.2底 部径5.0	底部は突出しない平底である。体部は接長の球形で、体部最大径は中位にある。口縁部は横曲し外反する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。端面は凹縫状のくぼみ、口縁部の内面は左上 がりのハケナデのちヨコナデ、外面はタキのちヨコナデを施す。体部の内面下位は左上がりのヘラケズリのちユビナデ、中位は左上がりのヘラケズリ、上位は横方向のヘラケズリを施す。ヘラケズリは瓶曲部までおよぶ。体部の外下位は左上がりのハケナデ、中位は横方向のタキのち左上がりのハケナデ、上位は右上がりのタキ(5人/1cm)を施す。底面の外面はハケナデを施す。外面の全体に擦が付着している。	内面10YR4/6褐色 外面10YR5/8黄褐色 砂粒含む。 (底く (角閃石を多 く含む生 岩まる。) 西面)	1~4mm	良好 好 砂粒含む。	
46	SK 114	古式土師器 高杯	直径15.8	端部は「く」の字にひらく。端部は仄を形成する。スカシは4方向?のそれを2段に施す。端部の内面はハケナデ、外側はハケナデのち縦方向のヘラミガキを施す。	内外面2.5Y8/1灰 白色	1~3mm	良好	
47	SK 114	古式土師器 小型台	直径10.4	端部は「く」の字にひらく。端部の内面は仄を形成する。端部の内面はハケナデ、外側はハケナデのち縦方向のヘラミガキを施す。	内面10YR5/1褐色 外面10YR6/1褐色 砂粒含む。	1~2mm	良好	山陰系
48	SK 114	粘土塊		不定形の粘土の塊である。焼いた痕跡はない。	内外面2.5Y8/1黄 灰色	1~3mm 度	良好 の砂粒含 む。	土器を 作る粘 土か?
W2	SK 114	用途不明 製品	長さ60.6 幅8.6 厚み4.6	找探時の切り跡は確認できるが、加工の痕跡はない。	10YR2/1黒色			

## SD101

I-25-4C地区で検出した。南北方向にはほぼ直線に伸びる。検出長7.0m、幅1.1~1.7mを測り、北側が広くなる。断面形状は皿形で、深さ0.1mを測る。埋土はa層5Y5/1灰色細砂、b層5B3/1暗青灰色細砂混粗粒シルトである。a層から古式土師器の破片が出土した。このうち図化したもののは49~57である。

49~50は壺で、49の内外面には粘土接合痕が顕著に見られる。50は大型壺の体部になると思われる。外面には上から波状文、直線文、刺突文を施す。51~54は甕である。51~53は生駒山地西麓産の庄内式甕である。54の端部は内側へ肥厚せず上部に面をもつ布留式甕である。55は浅い碗形の高杯で、表部磨耗のため調整不明瞭であるが、杯部の内面に縦方向のヘラミガキ、外面横方向のヘラミガキを施している部分が見られる。56は器台である。受部の内面には横方向のヘラミガキのち放射状のヘラミガキ、外面には横方向のヘラミガキを施す。57は手焙形土器と思われる体部の破片である。外面には刻み目を施した突帯を1条貼り付ける。突帯の下には波状文を施している。

また桃と思われる種が6点(W3-1~6)出土した。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代初頭の庄内式新相~同時代前期の布留式古相に比定できる。



第12図 1区 SD 101出土遺物実測図

表6 出土遺物観察表(6)

遺物 番号	遺構 層序	器種	法量 (cm)	形態・隕蓋等	色調	胎土	焼成	備考
49	S D 101	古式土器部 小型壺	口径10.3	口縁部は内渦する。端部は外側へつまみ出し面を形成する。端面はハケナデのちヨコナダ。外面はハケナデのちヘラミガキを施す。口縁部の内外面には輪柱接合の痕跡がある。	内面5YR6/6褐色 外面5YR8/1灰褐色	1 mm の砂粒良好含む。		
50	S D 101	古式土器部 壺		球形の体部になるとと思われる。体部の外側は波状又・扭織文・削次文を、内面はハケナデのちユビナデを施す。内面には墨跡がある。	内面N4/0灰色 外面5Y7/2灰白色	1 ~ 3 mm の良好砂粒含む。		
51	S D 101	古式土器部 壺	口径16.8	口縁部は外反する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。端面は内面5Y5/1灰褐色 外側は同様状にくぼむ。口縁部の内面はハケナデのちヨコナダ。外面は色タキ (6本 / 1 cm) のちヨコナダを施す。体部の内面は右上がりのヘラケズリを施す。ヘラケズリは屈曲部までおよぶ。外面は右上がりのタキ後ヨコナダを施す。	内面5Y5/1灰褐色 外側は同様状にくぼむ。 下位はタキ (6本 / 1 cm) のちヨコナダ。 上位はヨコナダを施す。体部の内面はヘラケズリを施す。ヘラケズリは屈曲部までおよぶ。	1 ~ 4 mm の灰褐色 好含む。(硬く (角閃石を多めに含む。) (角閃石を多めに含む。)) (角閃石を多めに含む。))		
52	S D 101	古式土器部 壺	口径15.2	口縁部は外反する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。端面は内面10YR5/2灰褐色 外側は同様状にくぼむ。口縁部の内面はハケナデのちヨコナダ。外側は火黄褐色 下位はタキ (6本 / 1 cm) のちヨコナダ。上位はヨコナダを施す。体部の内面は右上がりのタキを施す。外側には縦が付着している。	内面10YR5/2灰褐色 外側は同様状にくぼむ。 下位はタキ (6本 / 1 cm) のちヨコナダ。 上位はヨコナダを施す。体部の内面は右上がりのタキを施す。外側には縦が付着している。	3 mm の砂粒良好含む。(硬く (角閃石を多めに含む。) (角閃石を多めに含む。)) (角閃石を多めに含む。))		
53	S D 101	古式土器部 壺	口径17.4	口縁部は外反する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。端面は内面10YR5/2灰褐色 外側は同様状にくぼむ。口縁部の内面はヨコナダ。外側はタキ (6本 / 1 cm) のちヨコナダ。上位はヨコナダを施す。体部の内面は右上がりのタキを施す。外側には縦が付着している。	内面10YR5/2灰褐色 外側は同様状にくぼむ。 上位はヨコナダ。 下位はヨコナダを施す。体部の内面は右上がりのタキを施す。外側には縦が付着している。	2 mm の砂粒良好含む。(硬く (角閃石を多めに含む。) (角閃石を多めに含む。)) (角閃石を多めに含む。))		
54	S D 101	古式土器部 壺		口縁部は外反する。端部は内側へ肥厚させ面を形成する。口縁部の内面はハケナデのちヨコナダ。外側はヨコナダを施す。外側に白色。外側は5Y3/2灰白色	内面10YR7/1灰褐色 外側は5Y3/2灰白色	1 mm の砂粒良好含む。		
55	S D 101	古式土器部 高杯	口径15.9	口縁部は内渦し、端部は丸く終わる。口縁部の内外面はヨコナダを施す。杯部の内面は横方向、外側は横方向のヘラミガキを施す。	内面5Y7/2灰白色	3 mm の砂粒良好含む。		
56	S D 101	古式土器部 高台	口径7.6	口縁部は内渦し、端部は上方へつまみ出し面を形成する。端面は内面5Y7/2灰白色 外側は7.5YR7/3灰褐色	内面7.5YR7/3灰褐色	1 ~ 2 mm の良好砂粒含む。		
57	S D 101	古式土器部 下垂形土器		体部の内面は球形である。体部の内面はハケナデのちユビナデ、外側はユビナデを施す。体部の外側に突起を貼り付けた。突起上にはキザミ目を施す。また、突起より上部には波状文を施している。	内面2.5Y6/1灰褐色 外側5Y8/2灰褐色	1 ~ 2 mm の良好砂粒含む。		
W S D 3-1 101	桃?種		長さ1.9 幅1.7 厚み0.7 半分残存。端が尖る倒卵形である。	10YR3/2黒褐色				図版10 に実物 大写真 を掲載
W S D 3-2 101	桃?種		長さ1.9 幅1.3 厚み0.7 半分残存。端が尖る倒卵形である。	10YR3/2黒褐色				
W S D 3-3 101	桃?種		長さ2.0 幅1.5 厚み0.7 半分残存。端が尖る倒卵形である。	10YR3/2黒褐色				
W S D 3-4 101	桃?種		長さ2.2 幅1.5 厚み0.5 半分残存。端が尖る倒卵形である。	10YR3/2黒褐色				
W S D 3-5 101	桃?種		長さ2.7 幅2.1 厚み0.8 半分残存。端が尖る倒卵形である。	10YR3/2黒褐色				
W S D 3-6 101	桃?種		長さ2.8 幅2.2 厚み0.8 半分残存。端が尖る倒卵形である。	10YR3/2黒褐色				

### 遺構に伴わない出土遺物

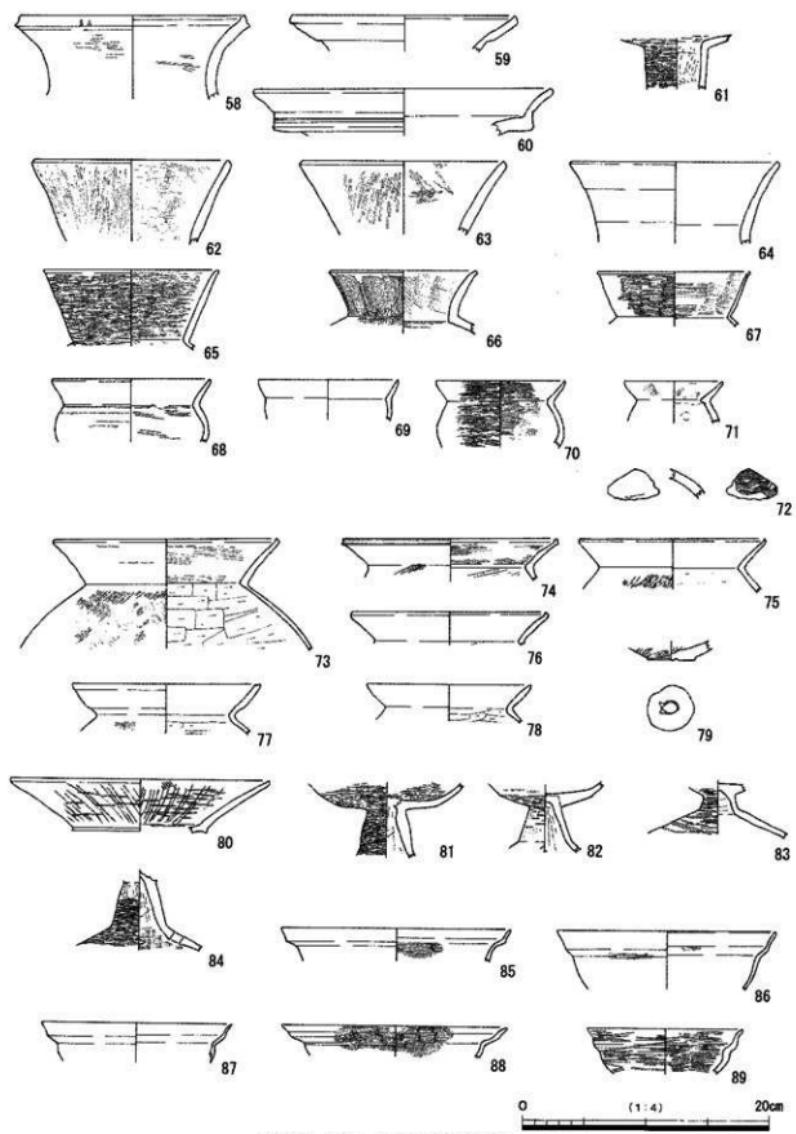
8層からは古式土師器が出土した。このうち図化したものは58~95である。  
58~72・80は壺で、58は口縁端部にキザミ目を施している。60・80は複合口縁で、60は讀崎か阿波系である。62~65は直口壺、66・67は小型の直口壺である。68~71は小型丸底壺で、69は口径が部最大径を上回る。72は体部上位の破片で、外面に直線文と波状文を施す。73~79は壺。73は大型の庄内式壺である。79は突出する底部で、外面に右上がりの太筋のタタキを施す第V様式系のものである。73~76は生駒西麓産の胎土である。81~84は高杯。81・82是有稜高杯で、脚部から裾部の外面に横方向のヘラミガキを施す。85~89は有段口縁鉢で、89はやや小形である。90~93は小形の器台で、皿状の受部を持つ。受部と脚部は貫通しない。94は鉢である。端部にキザミ目があり、体部下位には突帯を貼り付け、突带上にはキザミ目を施している。形状から手焙形土器の可能性も考えられる。95は棒状の土製品である。8層から出土した遺物は古墳時代初頭の庄内式新相~同時代前期の布留式古相に比定できる。

9層からは弥生土器が出土した。このうち図化したものは96である。

96は壺で、受口状の口縁部で、弥生時代後期後半頃に比定できる。

表7 出土遺物觀察表(7)

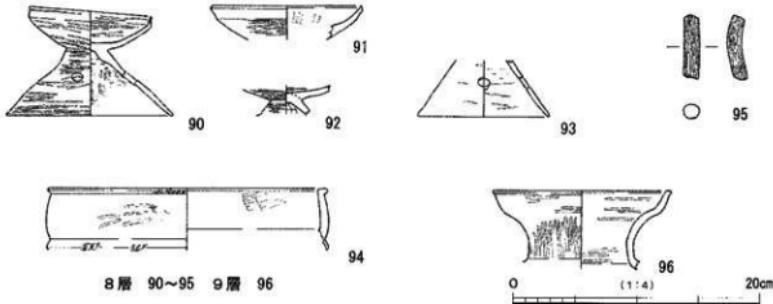
遺物 番号	遺構 層序 図版 番号	種類	法量 (cm)	形態、調整等	色調	地土	焼成	備考
58	8層	古式土師器 壺	口径18.1	口縁部は外反する。縦部は上下方につまみ出し面を形成する。縦面にはキザミリを施す。口縫部の内側面はヘラミガキを施し、内面のほぼ全体と外沿の一帯に黒斑がある。	内面 黒2.0 黒色 外周10VRB/1灰白色	1~5mmの砂粒含む。	良好	
59	8層	古式土師器 壺	口径18.0	口縁部は外反する。縦部は腰状形形成する。口縫部の内外面はヘラミガキと思われるが、表面は細かい擦痕である。外側には粘土接合の痕跡がある。	内面10VR/1灰白色 外周10/7/6褐色	1~2mmの砂粒含む。	良好	
60	8層 10	古式土師器 複合口壺	口径24.0	口縫部は段をもつ。外反する。口縫部の外右下部には凹凸感を施す。外側はロコナを施し、外面には粘土接合の痕跡がある。	外周2.5Y7/2灰黄色	1~2mmの砂粒含む。	良好	鐵岐か阿波系
61	8層	古式土師器 複合口壺		頸部は簡便で、肩部と水平方向にひらく縦部が付く。頸部の内面は右上がりのビュニダゲを施し、粘土接合の痕跡がある。外側は腰状向のハケナダメの模様と、肩部のヘラミガキを施す。口縫部の内外面は横筋のヘラミガキを施す。	内面 7.5VR/6 橙色 外周10VR/2灰黃褐色	1mmの砂粒含む。	良好	
62	8層	古式土師器 直口壺	口径15.6	口縫部は直線的に外上方へ伸びる。口縫部の内面は左上がりのハナダ、外側は右上がりのハケナダのも腰方向のヘラミガキを施す。	内面 7.5VR/7/3に 付い褐色 外周 7.5VR/1明褐色	1~3mmの砂粒含む。	良好	
63	8層	古式土師器 直口壺	口径16.2	口縫部は直線的に外上方へ伸びる。縦部は面を形成する。口縫部の内面はヘラミガキ、外側は觀方底と右上がりのヘラミガキを施す。	内面外周10VR/3に 付い黃褐色	1mmの砂粒含む。	良好	
64	8層	古式土師器 壺	口径16.6	口縫部は外反する。口縫部の内外面はヨコナデを施す。内外面ともにつよいヨコナデによる擦痕が入る。	内外面3Y7/2灰白色	1~2mmの砂粒含む。	良好	
65	8層	古式土師器 直口壺	口径14.0	口縫部は曲面、外「L」方に直線に伸びる。縦部は外側へのつまみ出し丸く終わる。体部の内面はハケナダメのビュニダゲ、外側は腰方向へのヘラミガキ、外側は横方向へのヘラミガキを施す。	内外面10VR/7/3に 付い黃褐色	1mmの砂粒含む。	良好	
66	8層	古式土師器 壺	口径11.6	口縫部は直角と外上方へ外反する。縦部は側面から側へつまみ出し丸く終わる。体部の内面はビュニダゲ。外側はヘラミガキを施す。口縫部の内外面は横筋のハケナダメ、外側は腰方向へのヘラミガキを施す。内面には粘土接合の痕跡がある。	内外面 7.5YR/4 に付い褐色	1~5mmの砂粒含む。	良好	
67	8層	古式土師器 壺	口径12.3	口縫部は直角と直線的に外上方へ伸びる。縦部は外側へのつまみ出し丸く終わる。口縫部の内面はハケナダメのビュニダゲ、外側はヘラミガキを施す。体部の内外面はビュニダゲを施す。外側のほぼ全体に焦げ付着している。	内面2.5Y7/1灰白色 外周3Y/0灰色	1~2mm程度の砂粒含む。	良好	
68	8層	古式土師器 壺	口径12.6	口縫部は丸い体部から直角に外反する。全体の外側はヘラミガキを施す。外側のヘラミガキは、煮沸処理のため小剥離がある。口縫部の内外面はビュニダゲを施す。底由当の内面には粘土接合の痕跡がある。	内面10VR/7/1灰白色 外周10VR/1褐色	1~2mmの砂粒含む。	良好	



第13図 1区 8層出土遺物実測図

表8 出土遺物観察表(8)

遺物 番号	遺構 回版 順序 番号	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
69	8層	古式土師器 小型壺	口径11.2	口縁部は丸く唇面とし内湾する。体部の内外面および口縁部の内外面にはヘラミガキと思われるが、表面磨粧のため不明瞭である。	内面10YR7/1灰白色 外面5YR6/6褐色	1 mmの砂粒良好含む。		
70	8層	古式土師器 小型壺	口径10.4	口縁部は丸い体部から唇面とし内湾する。体部の内面はハケナデ、外面部はハケナデのちミガキ、下部はヘラケズリのちヘラミガキを施す。口縁部の外側はヘラミガキを施す。	内面7.5YR7/1 明褐色	1 ~ 2 mmの良好砂粒含む。		
71	8層	古式土師器 小型壺	口径9.4	口縁部は丸く唇面とし内湾する。体部の内外面はコビナデを施し、内面には横方向の施痕がある。口縁部の内面はヘラミガキ、外側はヘラケナデのちユビナデを施す。	内面7.5YR7/3 明褐色	1 ~ 2 mmの良好砂粒含む。		
72	8層	古式土師器 壺		体部上部の破片である。外側には油墨文と旋状文、内面はコビナデを施す。内面には粘土接合の痕跡がある。	内面2.5Y7/1灰白色 外面5Y6/2灰白色	1 ~ 3 mmの良好砂粒含む。		
73	8層	古式土師器 壺	口径18.0	大型の壺である。口縁部は唇曲し外反する。壺底は上方への主み引出しが形成する。口縁部の内面はハケナデのちコビナデ、外側はユビナデを施す。外側には粘土接合の痕跡がある。体部の内面は横方向と右上がりのヘラケズリ、外側は右上がりのタキ(6余1cm)のちハケナデを施す。内面のヘラケズリは唇曲部において標有している。	内面7.5YR7/1明褐色 外面7.5YR6/3に 付いた褐色	1 ~ 3 mmの良好砂粒含む。(標有(角閃石を多発き締く含む)焼成度)(西面底)		
74	8層	古式土師器 壺	口径19.4	口縁部は丸く唇面とし外反する。壺底は上方への主み引出しが形成する。壺底部の内面には丸みのある凹面をもつ。唇曲部の内面はコビナデのちコビナデ、外側はヨコナデを施す。体部の内面はヘラケズリを施し、壺曲部におよぶ。外側は右上がりのタキ(7cm/1cm)を施す。外側全体には焼け付着している。	内面7.5YR5/4に 付いた褐色	1 ~ 2 mmの良好砂粒含む。(標有(角閃石を多発き締く含む)焼成度)(西面底)		
75	8層	古式土師器 壺	口径18.0	口縁部は丸く唇面とし外反する。壺底は上方への主み引出しが形成する。口縁部の内面にはヨコナデを施す。体部の内面はヘラケズリ、外側は右上がりのタキ(7cm/1cm)を施す。内面のヘラケズリは壺曲部におよんでいる。外側の全体には焼け付着している。	内面10YR5/5に 付いた褐色	1 ~ 2 mmの良好砂粒含む。(標有(角閃石を多発き締く含む)焼成度)(西面底)		
76	8層	古式土師器 壺	口径15.8	口縁部は丸く唇面とし外反する。壺底は上方への主み引出しが形成する。口縁部の内面にはヨコナデを施す。体部の内面はヘラケズリを施す。内面のヘラケズリは壺曲部におよんでいる。外側の全体には焼け付着している。	内面5Y4/1灰色	1 ~ 3 mmの良好砂粒含む。(標有(角閃石を多発き締く含む)焼成度)(西面底)		
77	8層	古式土師器 壺	口径15.3	口縁部は内湾する。壺底は内上方への主み引出しが形成する。縫隙は圓錐状にくぼむ。体部の内面はヘラケズリを施す。ヘラケズリは壺曲部におよんでない。外側はヘラミガキを施す。口縁部の外側はヨコナデを施す。	内面7.5YR6/3に 付いた褐色	1 ~ 2 mmの良好砂粒含む。		
78	8層	古式土師器 壺	口径13.3	口縁部は丸く唇面とし外反する。壺底は丸く唇面とし内湾する。体部の内面はヘラミガキを施す。外側はヨコナデを施す。口縁部の外側はヨコナデを施す。	内面10YR7/2に 付いた褐色 外面10YR3/1黒褐色	1 mmの砂粒良好含む。		
79	8層	古式土師器 壺	3.8	底削は突出する上げ底である。粘土の輪を積みあげて作っている。体部の外側は右上がりのタキ(3本/1cm)を施す。内面はユビナデを施し、ヘラチ状工具による痕跡が底部の中央に見られる。外側には横方向の施痕がある。	内面2.5Y8/2灰白色 外面N3/0暗灰色	1 ~ 5 mmの良好砂粒含む。		
80	8層	古式土師器 複合口縁壺	口径21.0	口縁部は平らな杯部から唇面し外反する。壺底は丸く唇面とし内湾する。口縁部の内面は横方向の右上がりのヘラミガキ、外側は横方向の左上がりのヘラミガキを施す。杯部の内外面は横方向のヘラミガキを施す。	内面外10YR7/4に 付いた褐色	1 mmの砂粒良好含む。		
81	8層	古式土師器 有柄高杯		壺部は脚状部から唇面し伸びる。杯部は平らである。脚部の内面はヨコナデを施し、しづり目と粘土接合の痕跡がある。外側の下位はヘラミガキ、上位はヘラケズリのちヘラミガキを施す。杯部の内面はヘラミガキ、外側はヘラケズリのちヘラミガキを施す。杯部の内面は部分的に赤いことから赤色顔料を塗布か?	内面10YR7/3に 付いた褐色 外面10YR7/2に 付いた褐色 新部内面の一部 2.5TR5/8 明赤褐色	1 ~ 2 mmの良好砂粒含む。		
82	8層	古式土師器 有柄高杯		壺部は脚状部から唇面し伸びる。杯部は平らである。脚部の内面はユビナデを施し、しづり目と粘土接合の痕跡がある。外側はヨコナデのち横方向のヘラミガキを施す。杯部の内面は赤色顔料を塗布しておらず不明瞭である。外側はヘラケズリのちヘラミガキを施す。	内面7.5YR6/4に 付いた褐色	1 mmの砂粒良好含む。		
83	8層	古式土師器 高杯		壺部は脚状部から「L」字に広がる。杯部にはカシキが4方にあけられている。脚部の内面はユビナデを施し、しづり目と粘土接合の痕跡が見られる。外側の内面はヘラミガキを施す。	内面外10YR7/2に 付いた褐色	1 ~ 3 mmの良好砂粒含む。		
84	8層	古式土師器 高杯		壺部は脚状部から「L」字に広がる。杯部にはスカラシが4方にあけられている。脚部の内面はユビナデを施し、しづり目と粘土接合の痕跡が見られる。外側の内面はヘラミガキを施す。	内面外10YR7/3に 付いた褐色	1 ~ 2 mmの良好砂粒含む。		



第14図 1区 8層・9層出土遺物実測図

表9 出土遺物観察表(9)

遺物 番号	造構 圖版 層序	器種	径量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
85	8層	古式土師器 有底口縁鉢	口径18.6	口縁部は段をもち外反する。口縁部の内外面はヨコナデを施す。体部の内面はヘラミガキ、外芯はユビナデを施す。	内面7.5YR6/2灰褐色 外面6YR1/1褐灰色	1mmの砂粒含む。	良好	
86	B圖	古式土師器 有底口縁鉢	口径17.6	口縁部は段をもち外反する。体部の内外面および口縁部の内外面はヘラミガキと思われるが、表部磨耗のため不明瞭である。	内面10YR7/4 外面6YR1/1褐灰色	1~4mmの砂粒含む。	良好	
87	8層	古式土師器 有底口縁鉢	口径15.4	口縁部は段をもち外反する。口縁部の内外面とともにミガキと思われるが、表部磨耗のため不明瞭である。	内面10YR6/1褐灰色 外面10YR7/3に 付く黄褐色	1mmの砂粒含む。	良好	
88	8層	古式土師器 有底口縁鉢	口径18.3	口縁部は段をもち外反する。口縁部の内外面は横方向のヘラミガキを施す。	内面10YR5/1褐灰色	1mmの砂粒含む。	良好	
89	8層	古式土師器 有底口縁鉢	口径12.6	口縁部は段をもち外反する。口縁部および体部の内外面は横方向のヘラミガキを施す。内面には黒斑がある。	内面7.5YR3/1墨褐色 外面7.5YR7/2明褐色	1mmの砂粒含む。	良好	
90	8層	古式土師器 器台	口径9.85 高. 8.9 底 領 13.4	受部は緩やかに外上方へ伸びる。端部は上方へつまみ出し面を形成する。脚部の内面上にはユビナデ、下位はケナデを、外側面はヘラミガキを施す。受部の内外面はヘラミガキを施す。	内面2.5Y7/2 外側面2.5Y7/2 灰黄色	1~2mmの砂粒含む。	良好	
91	8層	古式土師器 器台	口径12.0	受部は緩やかに外上方へ伸びる。端部は上方へつまみ出し面を形成する。受部の内面は瓶状のヘラミガキ、外側面は横方向のヘラミガキを施す。	内面10YR7/3に 付く黄褐色 外面10YR5/1褐灰色	1mmの砂粒含む。	良好	
92	8層	古式「脚部 器台		受部はゆるやかに内凹する。脚部は「ハ」の字にひらく。脚部の内面にはユビナデを施し、しぼり目がある。外側面はヘラミガキを施す。脚部の内面はヘラミガキ、外側面はヘラクゼリのちヘラミガキを施す。	内面10YR7/2に 付く黄褐色	1~3mmの砂粒含む。	良好	
93	8層	古式土師器 器台	底 領 10.6	脚部は「ハ」の字にひらく。脚部にはスカラ乳が4方向にあけられれている。脚部の内面上位はヘラケナデ、下位はヘラミガキを施す。外側面はヘラミガキを施す。	内面10YR7/2に 付く黄褐色	1mmの砂粒含む。	良好	
94	8層	古式「脚部 鉢?	口径22.2	口縁部は内凹する。脚部に窪みを形成する。端部の上面と外側に内面10YR7/2に付く 刻み目を施す。体部の外下部に突起を貼り付ける。突起上に付く黄褐色は刻み目を施す。体部の内面はケナデのユビナデ、外側面下面墨黒部分 ヘラミガキのちハケナデを施す。外側には黒斑がある。	N2/2黒色	1~5mmの砂粒含む。	良好	
95	8層	古式土師器 棒状土製品 10	長さ 5.2 幅1.3	口縫部口縁の蓋である。縫部は外側へつまみ出し、端部は面を横方向に形成する。口縫部の内外面は横方向のヘラミガキを施す。縫部の内面は横方向のヘラミガキ、外側は瓶状のヘラミガキを施す。外側の内面にはユビナデを施す。	内面2.5YR6/2灰白色 外面3YR1/1灰白色	1~5mmの砂粒含む。	良好	
96	9層	赤土土器 壺	口径14.4	受口部口縁の蓋である。縫部は外側へつまみ出し、端部は面を横方向に形成する。口縫部の内外面は横方向のヘラミガキを施す。縫部の内面は横方向のヘラミガキ、外側は瓶状のヘラミガキを施す。外側の内面にはユビナデを施す。	内面2.5YR6/2灰白色 外面3YR1/1灰白色	1mmの砂粒含む。	良好	

## 2区

## 第1面

6層上面(T.P.+5.8m前後)で調査を行ったが、遺構の検出および遺物の出土はなかった。

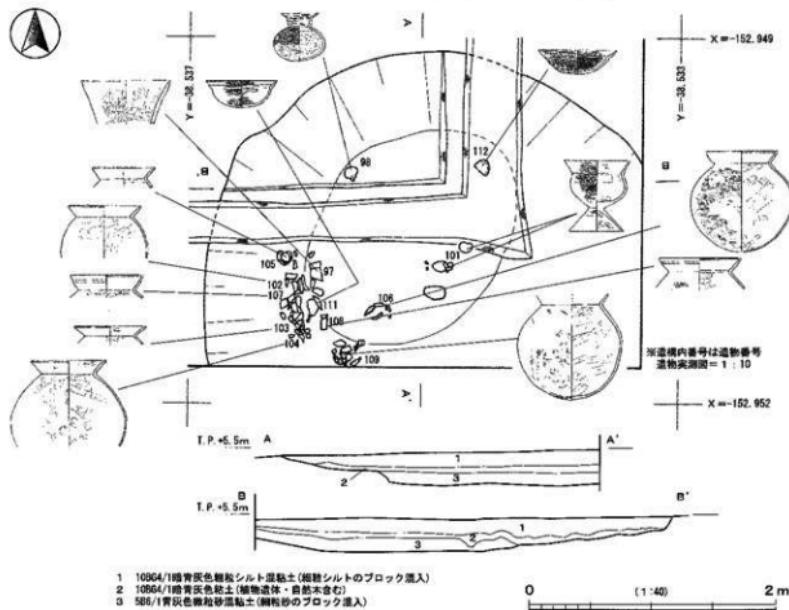
## 第2面

8層上面(T.P.+5.5m前後)で調査を行い、古墳時代初頭～前期の土坑15基(SK201～215)、溝1条(SK201)、小穴2個(SP201・202)を検出した。

## SK201

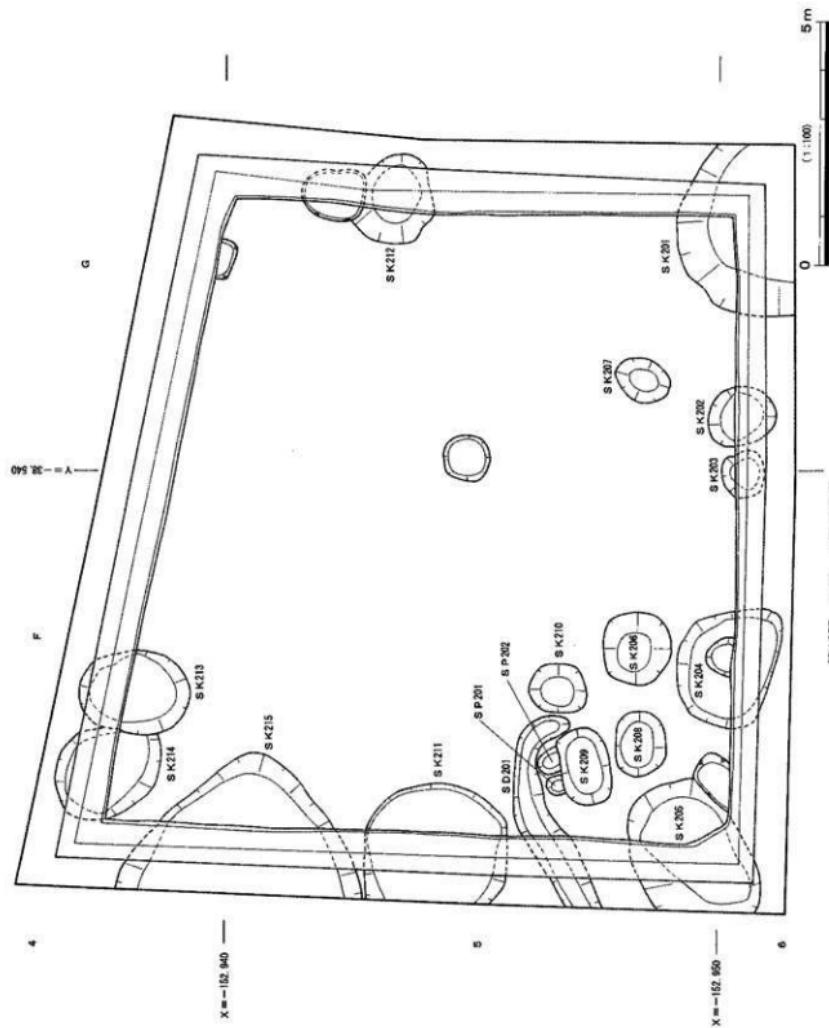
I-25-5・6G地区で検出した。遺構の南東側は調査区外に至るため不明である。検出した部分の平面形状は楕円形で、東西3.55m以上、南北2.6m以上を測る。断面形状は皿形で、深さ0.3mを測る。埋土は上からa層10BG4/1暗青灰色粗粒シルト混粘土(細粒シルトのブロック混入)、b層10BG4/1暗青灰色粘土(植物遺体・自然木含む)、c層5B6/1青灰色微粒砂混粘土(細粒砂のブロック混入)で、c層内の中央から北西肩にかけて、比較的密集した状態で古式土師器が出土した。このうち図化した遺物は97～112である。

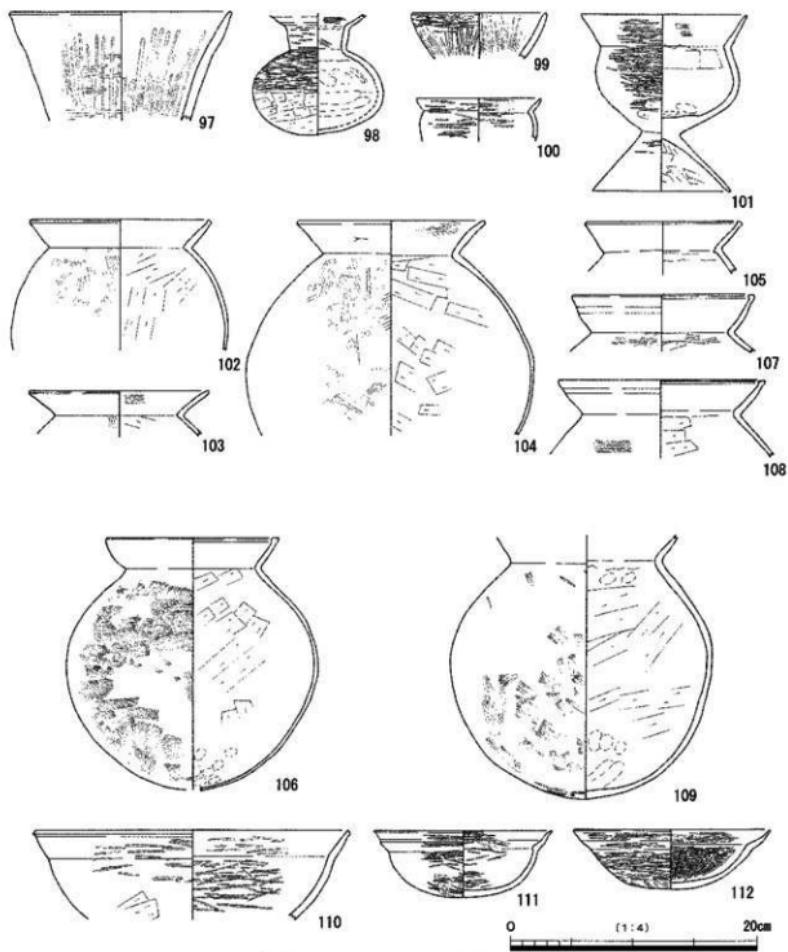
97は直口壺である。98は口縁部が欠損しているが、複合口縁壺になると思われる。99は小形壺。100は小型丸底壺である。101は台付の壺である。102～109は甌で、このうち107～109は布留式甌である。110～112は鉢である。111・112は有段口縁鉢で、112の内面には放射状ヘラミガキを施す。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定できる。



第15図 2区 SK201 平・断面図

第16圖 2區 2面平面圖





第17図 2区 SK201 出土遺物実測図

表10 出土遺物観察表(10)

遺物 番号	遺構 固版 番号	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
97	S K 201	古式土師器 直口壺	口径17.6	口縁部は直線的に外上方へ伸びる。腹部は丸く終わる。口縁部の内面下位へ中位は横方向のハケナデの中程方向のヘラミガキ、上位はコヨナデを施す。外面下位へ中位は横方向のヘラミガキの中程方向のヘラミガキを施す。	内面7.5V7/1灰白色 外面2.5V6/1黄灰色	1 ~ 4 mmの砂粒含む	良好	
98	S K 201	古式土師器 壺	体部最大径10.5	口縁部は球状をもち、外反ししながら伸びる。体部は横長の球形である。内面はビニナデを施す。二位は胎土接合の痕跡がある。外面下位へ中位はラケズリ、小位はラケズリの中程方向のヘラミガキ。上位は横方向のミガキを施す。瓶部の内外面は横方向のヘラミガキを施す。口縫部と頸部の屈曲部の内面には粘土接合の痕跡がある。体部下位には焼成後の穿孔が1箇所ある。体部の外面上には黒斑がある。	内面SYB6/6橙色 外面2.5V5/8明赤褐色	1 mmの砂粒含む	良好	
99	S K 201	古式土師器 直口壺	口径10.8	口縁部の内面兩方に上方へ伸びる。口縁部の内面は横方向のヘラミガキ、外面上は横方向へのヘラミガキの中程方向のビニナデを施す。	内外面2.5V7/1灰黄色	1 ~ 2 mmの砂粒含む	良好	
100	S K 201	古式土師器 小型丸底壺	口径10.0	口縁部は黒泥から内湾する。口縁部の内面は上方にハケナデを施す。口縫部と頸部の屈曲部の内面には粘土接合の痕跡がある。外面上は横方向のヘラミガキを施す。	内面7.5V7/4に ぶい點色 外面7.5V7/8黄褐色	1 mmの砂粒含む	良好	
101	S K 201 10	古式土師器 台付壺	口径13.3 高さ14.4	底部は「丁」の字にひらく楕部。体部は楕円の球形である。口縁部の内面は横方向のハラカズリ。体部最大径はナマのヨコナデ、外面上はヘラミガキを施す。体部の内面は板状11.5板状工具によるナダを施す。粘土接合の痕跡がある。体部の外面上位11.0下位はラケズリの中程方向のヘラミガキ。上位は横方向のヘラミガキを施す。脚部の内面はヘラミガキの中ヨニナデ、内面は板状工具によるナダを施す。脚部の外面上はヘラミガキの中ヨニナデ、内面は板状工具によるナダを施す。新邵二位にはシボリ目がある。体部の外面上には黒斑がある。	内外面10V7/2に ぶい點色	1 ~ 3 mmの砂粒含む	良好	
102	S K 201 10	古式土師器 壺	口径14.2 体部最大径17.6	口縁部は「丁」の字に開口し外反する。縫割は上方へつまり出しを形成する。口縁部の内外面はコヨナデを施す。体部の内面はラケズリを施す。ヘラケズリは口縫部に連している。外面上位には縫割と並んで横方向のヘケナデを施す。外面上の全体には縫割が付着している。	内面10V6/2灰 黄褐色	1 ~ 3 mmの砂粒含む(ぬく焼き 凹石を多く施す。)藍斑	良好	
103	S K 201	古式土師器 壺	口径14.4	口縁部の内面はハケナデの中ヨニナデ、外面上はコヨナデを施す。体部の内面はヘラケズリを施す。ヘラケズリは屈曲部に連していている。外面上は横方向のヘケナデを施す。体部と口縫部下位の外面上には縫割が付着している。	内面10V3/2灰 褐色	1 ~ 3 mmの砂粒含む(ぬく焼き 凹石を多く施す。)藍斑	良好	
104	S K 201 10	古式土師器 壺	口径15.0	口縁部は「く」の字に開口し外反する。縫割は丸みのある面を形成する。口縫部の内面はハケナデの中ヨニナデ、外面上はコヨナデを施す。粘土接合の痕跡がある。体部の内面はヘラケズリを施す。ヘラケズリは屈曲部に連している。外面上はヘケナデを施す。外面上の全体には縫割が付着している。	内面2.5T5/2暗 灰褐色	1 ~ 4 mmの砂粒含む(ぬく焼き 凹石を多く施す。)藍斑	良好	
105	S K 201	古式土師器 壺	口径12.1	口縫部は内湾ぎみに外上方へ伸びる。縫割は内側へ肥厚し面を形成する。口縫部の内面はコヨナデを施す。体部の内面は白色。ケナデを施す。粘土接合の痕跡がある。体部の外面上位はヘラケズリと口縫部に連していている。外面上はヘケナデを施す。外面上の全体には縫割が付着している。	内面10V7/1灰 褐色	1 ~ 2 mmの砂粒含む	良好	
106	S K 201 10	古式土師器 壺	口径14.0 高さ20.6 口径20.3	口縫部は丸底で、体部は、中位に最大底径がある球形である。口縫部は内側へ肥厚し面を形成する。外上方へ伸びる。縫割は大側面に厚化し、面を斜め白化させる。体部の内面はコヨナデを施す。ヘラケズリは屈曲部まで及ぶ。体部の外面上位はハケナデ、中位は筋状の上上がりのハケナデ、「丁」位は右上がりのハケナデを施す。口縫部との接合部はヘケナデによって消されている。体部の外面上全体には縫割が付着している。	内面2.5V7/1灰 褐色	1 ~ 4 mmの砂粒含む	良好	
107	S K 201	古式土師器 壺	口径14.6	口縫部は内湾しながら外上方へ伸びる。縫割は内側へ肥厚し面を形成する。口縫部の内面はコヨナデを施す。体部の内面は「丁」の黄褐色ヘラケズリを施す。ヘラケズリは屈曲部までおよんでもない。外面上位2に体部の外面上はハケナデを施す。口縫部と体部の外面上には縫割が付着している。	内面10V7/3に ぶい點色 外面10V7/2に	1 ~ 2 mmの砂粒含む	良好	
108	S K 201	古式土師器 壺	口径16.6	口縫部は内湾する。縫割は肥厚し面を形成する。縫割は仰鉢形、内面2.5V7/2灰にぼむ。口縫部の内面はコヨナデを施す。口縫部および体部の外面上には縫割が付着している。体部の内面はヘラケズリを施す。外面上位2.5V6/3に施す。ヘラケズリは屈曲部までおよんでもない。体部の外面上には縫割が付着する。	内面2.5V7/2灰 褐色	1 ~ 2 mmの砂粒含む	良好	

表11 出土遺物觀察表(11)

遺物 番号	遺構 層序	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	地土	機成	備考
109	S.K. 201	古式土師器 突	底鉢は丸底で、体部は中位に最大径がある球形である。口縁部内面2.5Y7/2灰 色で内側する。口縁部の外側はロコナギを施す。体部の内面下位はユビナゲ、中位へ上位へハラケズリを施す。ヘラケズリ内面2.5Y6/3に は幅曲面部までおよんでない。底面部の内面はユビナゲを施し、粘土接合の痕跡がある。体部の外山下凹で中位へハケナダ、上位はハケのちヨナダを施す。体部の外山上位にはヘラ状工具による圧痕がある。体部内面下位には焦げがある。外周全体には擦れ付着している。	1 ~ 4 mmの良好 砂粒含む				
110	S.K. 201	古式土師器 大型鉢	口径25.4	体部は内凹する。口縁部は屈曲し外反する。端部は上下につまみ出し面を形成する。体部の外下面下位はヘラケズリ、上位はヘラミガキを施す。内面はヘラミガキを施す。口縁部の外側面はヘラミガキを施す。	1 ~ 3 mmの良好 砂粒含む			
111	S.K. 201	古式土師器 有段口縁鉢	口径14.6 高さ8.5	体部は内凹する。口縁部は二段に屈曲する。口縁部の内面は横方向のハケナダの内側にヘラミガキを施す。体部の外側は横方向のハラミガキを施す。外底下位はヘラケズリ、2.5Y6/3にないもの部分的にヘラミガキ、上位は横方向のヘラミガキを施す。黄色 体部の外側には黒斑がある。	1 ~ 2 mmの良好 砂粒含む			
112	S.K. 201	古式土師器 有段口縁鉢	口径15.8 高さ4.9	体部は内凹する。口縁部は二段に屈曲する。口縁部の内外面は横方向のハラミガキを施す。体部の内面は横方向のヘラミガキのち放射状のヘラミガキを施す。外底下位はヘラケズリ、上位2.5Y6/3にないもの部分的にヘラミガキを施す。上位は横方向のヘラミガキを施す。	1 mmの砂粒良好 含む			
113	S.K. 202	古式土師器 壺	口径12.2	口縁部は直線的で上方へ伸びる。端部は尖りぎみに丸く終わる。内面は横方向のハラケズリ2.5Y6/2灰 色で内側する。口縁部の内面は横方向の内縫方向のヘラミガキ、外側は横 方向のヘラミガキを施す。内面には粘土接合の痕跡がある。	1 ~ 2 mmの良好 砂粒含む			
114	S.K. 202	古式土師器 甕	口径15.6	「く」の字に屈曲する口縁部。端部は上方へつまみ出し面を形成する。端部は屈曲状のくぼみがある。口縁部の内面は横方向の ハケナダのちヨナダ、外側はロコナギを施す。体部の内面は外面2.5Y7/1明 黄色で内側する。内面はヘラケズリと、底面部に違せていない。外側は上上がりのヘカナダのちヨナダを施す。	1 ~ 2 mmの良好 砂粒含む			
115	S.K. 202	古式土師器 有段口縁鉢	口径17.6	体部は内凹する。口縁部は二段に屈曲する。口縁部および体部の内面は横方向のヘラミガキのち放射状のヘラミガキ、外側は横 方向のヘラミガキを施す。	1 mmの砂粒良好 含む			
116	S.K. 202	古式土師器 鉢	口径28.6	体部は内凹する。口縁部は屈曲し外反する。端部は上方につまみ出し面を形成する。口縁部および体部の外側面は横方向のヘ ラミガキを施す。	1 ~ 2 mmの良好 砂粒含む			
117	S.K. 203	古式土師器 直口壺	口径14.6	口縁部は直線的で上方へ伸びる。端部は丸く終わる。口縁部の内外面は横方向のハケナダ、外側は横方向のハケナダのち横 方向のヘラミガキを施す。	1 ~ 3 mmの良好 砂粒含む(角く焼き 戻石を多く織 上げた跡西。) (焼戻)			
118	S.K. 204	古式土師器 複合口縁壺	口径18.4	口縁部は二段に屈曲し外反する。端部は丸く終わる。口縁部の内面は横方向のヘラミガキのち放射状のヘラミガキ、外側は横 方向のヘラミガキを施す。	1 ~ 3 mmの良好 砂粒含む			
119	S.K. 205	古式土師器 直口壺	口径14.8	口縁部は外反する。口縁部の内面は横方向のハケナダの右上 がりのヘラミガキ、外側は右上がりのハケナダのち横方向のヘ ラミガキを施す。体部の内面はヘナダ、外面は横方向のヘ ケナダのち横方向のヘラミガキを施す。	1 ~ 2 mmの良好 砂粒含む			
120	S.K. 205	古式土師器 直口壺	口径16.6	口縁部は外反する。端部は円形形成する。口縁部の内外面はロ コナギを施す。外底下位には網状のくぼみがある。	1 ~ 3 mmの良好 灰白色			
121	S.K. 205	古式土師器 小型丸底壺	口径8.0 10.35 体 部最大 径 10.55	底部は尖りぎみの丸底である。体部は橢圓形で最大径は中 高處にある。口縁部は直線的で上方へ伸びる。端部は丸く終わる。内面 はユビナゲ、外側下位はヘラケズリのち左上がりのヘラミガ キ、左位は横方向のヘケナダのちヘラミガキ、二位は横方向の ヘラミガキを施す。口縁部の底面には網状がある。	1 ~ 3 mmの良好 砂粒含む			

#### S K202

I - 25 - 5・6 G 地区で検出した。平面形状は南北に長い楕円形で、長径1.4m、短径1.2mを測る。断面形状は皿形で、深さ0.14mを測る。埋土は5B4/1暗青灰色粗粒シルト混粘土で、古式土師器の破片が少量出土した。このうち図化した遺物は113～116である。

113は直口壺。114は甌。115・116は鉢。115は有段の口縁をもつ。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

#### S K203

I - 25 - 6 F・G 地区で検出した。平面形状は円形で、径0.9mを測る。断面形状は皿形で、深さ0.14mを測る。埋土は5P3/1暗紫灰色微粒砂混粘土で、古式土師器の破片が少量出土した。このうち図化したものは117である。

117は直口壺で、外面に横方向のヘラミガキを施す。

#### S K204

I - 25 - 5・6 F 地区で検出した。平面形状は東西に長い楕円形で、長径2.6m、短径1.7mを測る。断面形状は逆台形で、深さ0.22mを測る。埋土は上から a 層10B4/1暗青灰色微粒シルト混粘土、b 層5B5/1青灰色粗粒シルト混粘土で、古式土師器の破片が少量出土した。うち図化したものは118である。

118は複合口縁壺。表面磨耗のため調整不明瞭ではあるが、横方向のヘラミガキを施している。古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

#### S K205

I - 25 - 5・6 F 地区で検出した。平面形状は南東一北西に長い楕円形を呈す。東西2.7m以上、南北2.5mを測る。断面形状は逆台形で、深さ0.25mを測る。埋土は a 層5P3/1暗紫灰色粗粒シルト混粘土(炭化物含む)、b 層5B3/1暗青灰色粗粒シルト混粘土(細砂のブロック混入)で、a 層からは古式土師器の破片が少量出土した。このうち図化したものは119～122である。

119・120は直口壺で、119の内面には右上がりのミガキを丁寧に施す。121は小型丸底壺。122は甌。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

#### S K206

I - 25 - 5 F 地区で検出した。平面形状は円形で、径1.4mを測る。断面形状は逆台形で、深さ0.2mを測る。埋土は上から a 層5B4/1暗青灰色粗粒シルト混粘土(細砂のブロック混入)、b 層5B5/1青灰色粗粒シルト混粘土(炭まばらに含む)で、古式土師器の破片が少量出土した。このうち図化したものは123である。

123は高杯で、杯部には明瞭な稜がある。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代初頭の庄内式古相に比定できる。

#### S K207

I - 25 - 5 G 地区で検出した。平面形状は南北に長い楕円形で、長径1.2m、短径0.9mを測る。断面形状は逆台形で、深さ0.15mを測る。埋土は5B4/1暗青灰色粗粒シルト混粘土(植物遺体含む)で、古式土師器の破片が少量出土した。このうち図化したものは124である。

124は直口壺で、内外面に横方向のヘラミガキを施す。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

表12 出土遺物観察表(12)

遺物 番号 図版 番号	退模 順序	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
122 SK 205	古式土師器 甕	口径16.1		口縁部は「く」の字に稍曲し外反する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。口縁部の内面は横方向のハケナデのちヨコナゲ、外面はヨコナゲを施す。体部の内面はヘラケズリ、外面はヘラケズリ。右上よりのタタキ(6本/1cm)を施す。口縁部および体部の外側には同樣が付着している。	内外面 2.5Y5/2 暗 灰青色	1~3 mmの 砂粒含む(角 閃石を多く含 む牛乳色。)	良好	
123 SK 206	古式土師器 高杯	口径20.4		杯部は平らである。口縁部は外反する。端部は面を形成する。内外面 7.5Y7/3 端面は凹窓状にくぼむ。口縁部の内面は左上よりのヘラミガキにぶい柱色 ギ、外面は縱方向のヘラミガキを施す。杯部の内外面はヘラミ ガキを施す。杯部の外側には粘土被合の痕跡がある。	内外面 7.5Y7/3 にぶい柱色	1~3 mmの 砂粒含む	良好	
124 SK 207 II	古式土師器 直口甕	口径11.1		口縁部は直進的に内外方に伸びる。口縁部の内外面は横方向の ヘラミガキを施す。	内外面 10YR7/2 にぶい黄褐色	1~2 mmの 砂粒含む	良好	
125 SK 208	古式土師器 甕	口径15.0		口縁部は「く」の字に稍曲し外反する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。口縁部の内面は左上よりのハケナデのちヨコナゲ、外面はヨコナゲを施す。体部の内面はヘラケズリ。外側 には右上よりのタタキ(6本/1cm)を施す。	内外面 10Y5/4 にぶい黄褐色	1~3 mmの 砂粒含む(角 閃石を多く含 む牛乳色。)	良好	
126 SK 209	古式土師器 高杯	口径12.1		杯部は「ハ」の字にひらく。底部の内面はハケナデ、外側はヘ ラミガキを施す。表面にはスカリ印がされている。破片である ため孔の量は不明である。	内外面 10YR7/2 にぶい黄褐色	1 mmの砂粒 含む	良好	
127 SK 208	古式土師器 有段口縁鉢	口径14.8		体部は内湾する。口縁部は二段に凹向する。口縁部および体部 の内外面は横方向のヘラミガキを施す。	内外面 5YR6/6 暗 灰色	3 mmの砂粒 含む	良好	

## SK208

I-25-5 F 地区で検出した。平面形状は東西に長い楕円形で、長径1.3m、短径1.0mを測る。断面形状は逆台形で、深さ0.2mを測る。埋土は上から、a層5B4/1暗青灰色細砂混粘土、b層5B5/1青灰色粘土で、古式土師器が出土した。このうち図化したものは125~127である。

125は庄内式甕である。126は高杯。127は有段口縁鉢で、内外面ともに密なミガキを施す。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

## SK209

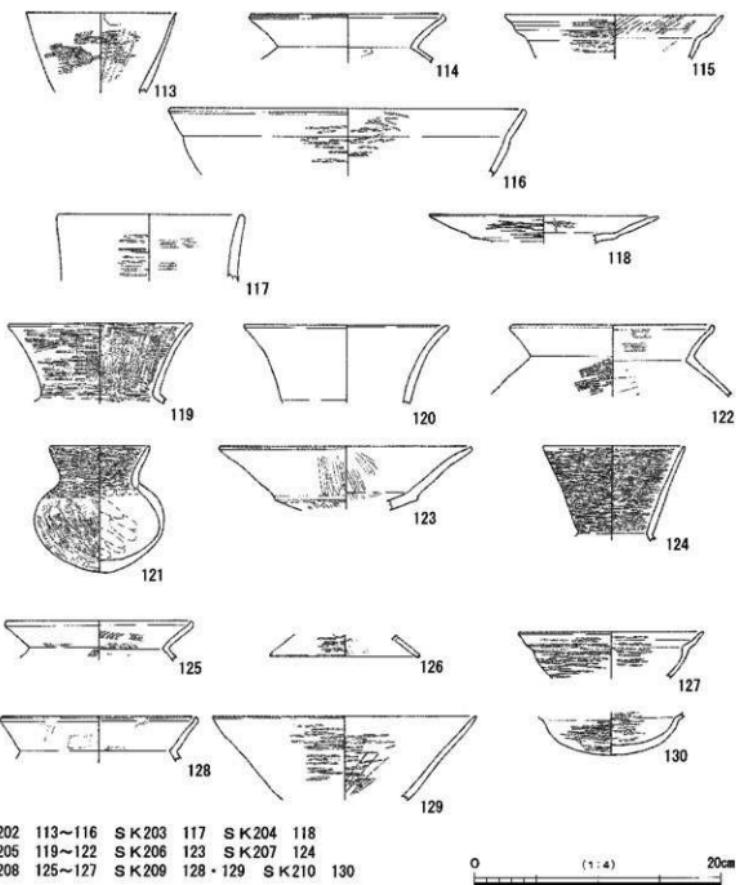
I-25-5 F 地区で検出した。北側でSP201とSP202を切っている。平面形状は東西に長い楕円形で、長径1.6m、短径1.0mを測る。断面形状は逆台形で、深さ0.25mを測る。埋土は上から、a層5B3/1暗青灰色粗粒シルト混粘土、b層5B2/1青黒色細粒シルト粘土(炭多く含む)、c層5PB2/1青黒色粘土、d層5B4/1暗青灰色粗粒シルト混粘土(植物遺体含む)、e層5B5/1青灰色細粒シルト混粘土で、古式土師器の破片が少量出土した。このうち図化した遺物は128・129である。

128は甕。129は高杯で、内面に放射状ミガキを施す。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

## SK210

I-25-5 F 地区で検出した。平面形状は円形で、径1.0mを測る。断面形状は皿形で、深さ0.15mを測る。埋土は上から、a層5B4/1暗青灰色細粒シルト混粘土(炭多く含む)、b層10BG4/1暗青灰色細粒シルト粘土で、a層からは古式土師器の破片が少量出土した。このうち図化したものは130である。

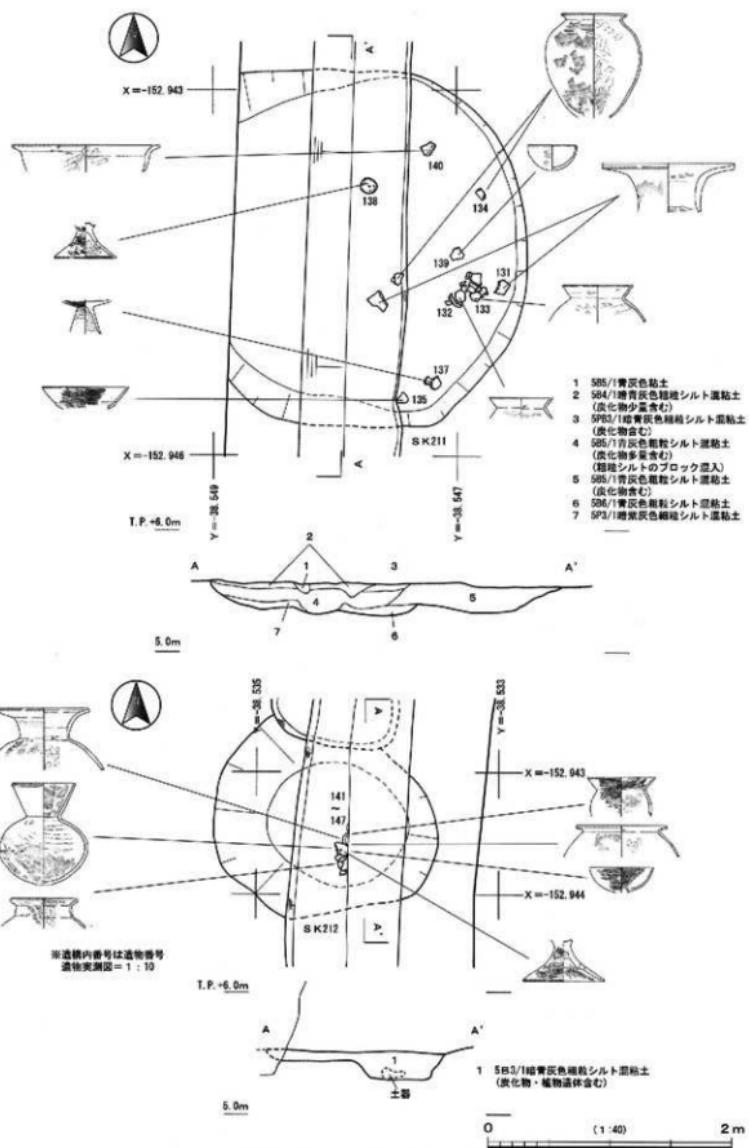
130は口縁部が欠損しているが、有段口縁鉢になると思われる。この遺構の時期は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定できる。



第18図 2区 SK202~210出土遺物実測図

表13 出土遺物観察表(13)

遺物 番号	遺構 層序	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
SK208	113~116	SK203	117	SK204	118			
SK205	119~122	SK206	123	SK207	124			
SK209	125~127	SK209	128~129	SK210	130			



第19図 2区 SK211・212平・断面図

### S K211

I-25-5 F 地区で検出した。平面形状は半円形で、東西2.4m以上、南北2.9mを測る。断面形状は逆台形で、深さ0.25mを測る。埋土は上から、a層5B5/1青灰色粘土、b層5B4/1暗青灰色粗粒シルト粘土(炭含む)、c層5PB3/1暗青灰色粗粒シルト混粘土(炭含む)、d層5B5/1青灰色粗粒シルト混粘土(粗粒シルトのブロック混入)(炭含む)、e層5B5/1青灰色粗粒シルト混粘土(炭含む)、f層5B6/1青灰色粗粒シルト混粘土、g層5P3/1暗紫灰色細粒シルト混粘土でd層とe層からは古式土師器が多く出土した。このうち岡化した遺物は131~140である。

131は壺で、水平近くまで伸びる口縁部で、阿波か讃岐系と思われる。132~134は甕で、134は器形や胎土から讃岐産と推測できる。135~138は高杯で、135は放射状のヘラミガキを内面に施している。139~140は鉢である。また桃と思われる種が1点(W4)出土した。この遺構は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相(布留I)に比定できる。

### S K212

I-25-5 G 地区で検出した。平面形状は南東-北西に長い楕円形で、長径2.0m、短径1.4mを測る。断面形状は皿形で、深さ0.2mを測る。埋土は5B3/1暗青灰色粗粒シルト混粘土(炭、植物遺体含む)で、古式土師器が出土した。このうち岡化した遺物は141~147である。

141~144は壺、145は甕である。141・143・145は阿波または讃岐系。146・147は高杯である。146は椀形の高杯で、放射状のヘラミガキを内面に施している。この遺構は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相(布留I)に比定できる。

### S K213

I-25-4 F 地区で検出した。西側でS K214を切る。平面形状は南北に長い楕円形で、長径2.2m、短径1.65mを測る。断面形状は逆台形で、深さ0.15mを測る。埋土は10BG4/1暗青灰色粗粒シルト混粘土で、古式土師器が出土した。このうち岡化したものは148~150である。

148・149は壺で、149の体部内面には赤色顔料が付着。150は甕で、体部内面のヘラケズリは屈曲部におよんでいない。この遺構は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

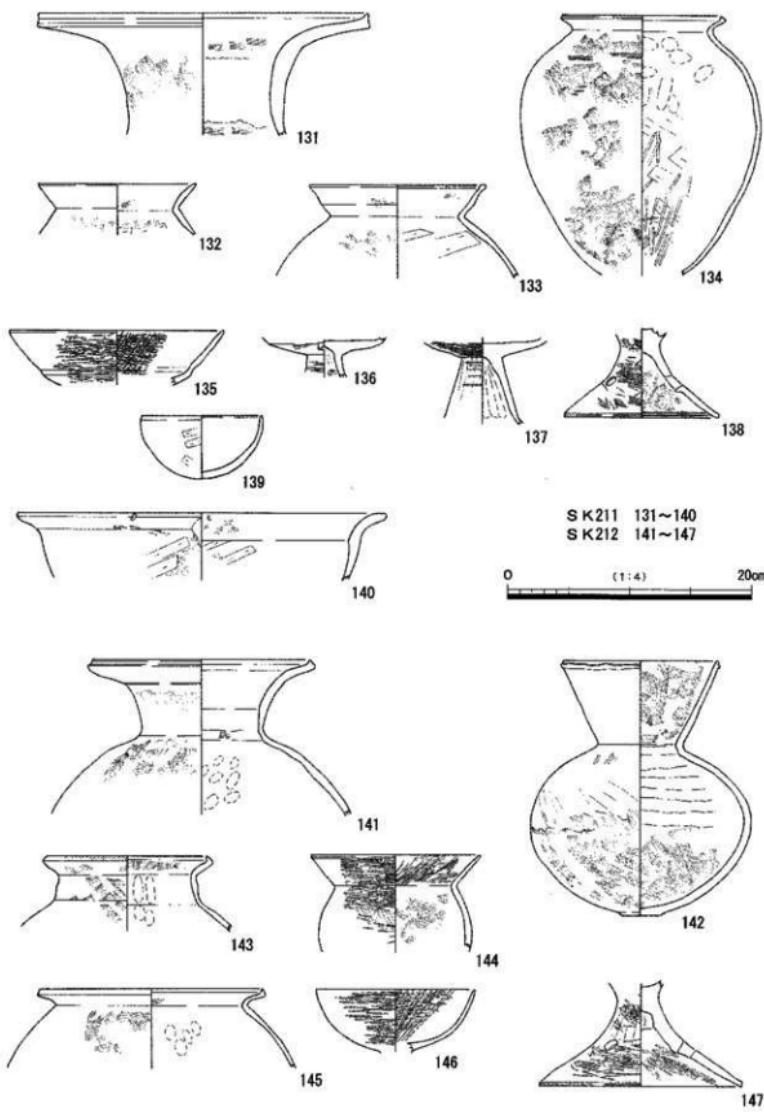
### S K214

I-25-4 F 地区で検出した。東側の一部はS K213で切られる。平面形状は南東-北西に長い楕円形で、長径2.4、短径1.7mを測る。断面形状は逆台形で、深さ0.15mを測る。埋土は上からa層5B5/1青灰色粗粒シルト混粘土(炭、植物遺体含む)、b層5B4/1暗青灰色微粒砂混粘土(炭含む)、c層5B5/1青灰色粘土で、古式土師器の破片が出土した。このうち岡化したものは151~154である。

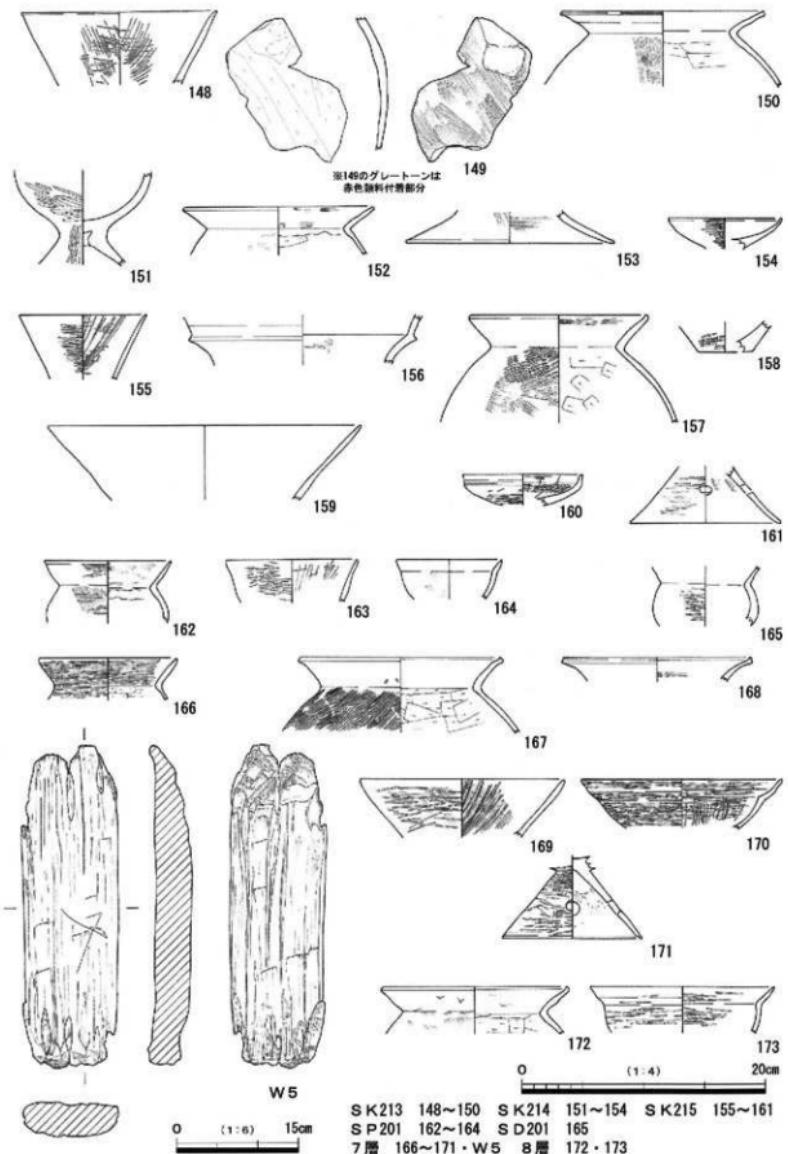
151は口縁部と探部が欠損しているが、器形から台付壺になると思われる。152は甕。153は高杯。154は器台。この遺構は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

### S K215

I-25-4・5 F 地区で検出した。平面形状は半楕円形で、東西2.9m以上、南北5.1m以上を測る。断面形状は逆台形で、深さ0.2mを測る。埋土はa層5B4/1暗青灰色粗粒シルト混粘土、b層5B3/1暗青灰色細粒シルト混粘土、c層5B5/1青灰色粗粒シルト混粘土(炭含む)、d層5B5/1青灰色粗粒シルト混粘土で、古式土師器の破片が少量出土した。このうち岡化したものは155~161である。



第20図 2区 SK211・212出土遺物実測図



第21図 S K213~215、S P201、S D201、7層、8層出土遺物実測図

155は直口壺で、内面に放射状のヘラミガキを施している。156は口縁端部が欠損しているため、器形の全容は不明であるが、おそらく複合口縁壺になると思われる。157・158は甕である。157は体部内面のケズリは屈曲部におよんでいない。158は突出する平底で、外面に太筋のタタキを施すV様式系の甕である。159は高杯。160・161は器台である。この遺構は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

## S P 201

I-25-5 F 地区で検出した。南側はSK209に切られる。平面形状は円形で、径0.5mを測る。断面形状は皿形で、深さ0.15mを測る。埋土は5BG2/1青黒色細粒シルト混粘土(炭含む)で、古式土師器の破片が少量出土した。このうち図化したものは162~164である。

162~164は小形壺である。162の体部外面には、左上がりの間隔の狭い5本のハケナデと1本のヘラミガキを交互に施したち横方向のヘラミガキを施している。この遺構は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

## S P 202

I-25-5 F 地区で検出した。南側はSK209に切られる。平面形状は円形で、径0.4mを測る。断面形状は皿形で、深さ0.1mを測る。埋土は5B4/1暗青灰色細粒シルト混粘土(炭含む)で、古式土師器の破片が少量出土した。このうち図化できるものはなかった。

## S D 201

I-25-5 F 地区で検出した。L字に曲がる溝で、西側は調査区外に至る。検出長2.5m、幅0.4~0.7mを測る。断面形状は形で、深さ0.15mを測る。埋土は上からa層5B4/1暗青灰色粗粒シルト混粘土(炭含む)、b層5B6/1青灰色細粒シルト混粘土(炭含む)で、古式土師器の破片が少量出土した。このうち図化したものは165である。

165は小形壺である。この遺構は、出土遺物から古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

## 遺構に伴わない出土遺物

7層からは遺物が少量出土した。このうち図化したものは166~171・W5である。

166は壺で、口縁部内外面は、丁寧なヘラミガキを施す。体部内面はヘラケズリを施す。167・168は庄内式甕である。169は高杯で、内面に放射状のヘラミガキを施す。170は有段口縁の鉢で内面に放射状のヘラミガキを施している。171は器台である。W5は板状木製品である。長さ40.1cmを測る。出土遺物は、古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

8層からは遺物が少量出土した。このうち図化したものは172・173である。

172は甕で、体部内面は横方向のヘラケズリで、一部は屈曲部までおよぶ。173は有段口縁鉢である。出土遺物は、古墳時代前期の布留式古相に比定できる。

表14 出土遺物観察表(14)

遺物 番号 図版 番号	遺構	器種	注量 (cm)	形態・模様等	色調	胎土	焼成	備考
131 11	S K 211	古式土師器 大型壺	口径27.9	口縁部は筒状の頸部から緩やかに外反する。端部は上方につまみ出し面を形成する。壺部は回線状にくぼむ。口縁部の内面は横方向のハケナダのちヨコナデ、外面はヨコナデを施す。頸部の内面下位は横方向のハケナダのちヨコナデ、上位はヨコナデを施す。頸部の内面には粘土接合の痕跡がある。外面は左上がりのハケナダを施す。口縁部の内外面には黒斑がある。	内外面SV5/2灰 色	1~6mmの砂粒含む	良好	鐵岐か 阿波系
132 11	S K 211	古式土師器 壺	口径12.8	口縁部は昂山し外反する。端部は上方へつまみ出し丸く終わる。口縁部の内面はヨコナデのちヨコナデ、外面はヨコナデを施す。頸部の内面はハケナダのちハラクナリ、外面は右上がりのハケナダを施す。粗筋部の内外面にはヨコナデを施す。	内外面7.5YR7/4 色	1~2mmの砂粒含む	良好	
133 11	S K 211	古式土師器 壺	口径14.4 径19.7	口縁部は内溝して伸びる。端部は内側へ折り返し丸みのある面を形成する。口縁部の内面はヨコナデのちヨコナデ、外面は左上がりのハラクナリを施す。体部の内面はハケナダのちハラクナリ、外面は右上がりのハケナダを施す。粗筋部の内面はヨコナデを施す。	内面10YR4/1 色 内外面10YR5/2灰 色	1~3mmの砂粒含む	良好	
134 11	S K 211	古式土師器 壺	口径13.0 径19.6	口縁部は御鉢形で、最大径は上位にある。口縁部は「く」の字に形成する。口縁部は内上方へつまみ出し面を形成する。端部は横方向のハケナダを施す。体部の内面下位はハラクナリのち一部はヘラミガキ、上位はヨコナデを施す。体部の内面下位へ上位は左上がりのハケナダを施す。下位には部分的に粗いハケナダが見られる。下位へ上位にはヘラ状工具による圧痕がある。	内外面10YR5/2 色 内外面10YR5/2灰 色	1~3mmの砂粒含む	良好	鐵岐系
135 11	S K 211	古式土師器 高杯	口径17.0	杯部はざらである。口縁部は屈曲し筒脚的に外上方へ伸びる。口縁部の内面はヨコナデを施す。外側には横方向のハラミガキを施す。外側には横方向のヘラミガキを施す。	内外面7.5YR6/6 色 内外面10YR6/6 色	1~2mmの砂粒含む	良好	
136 11	S K 211	古式土師器 高杯	口径18.0 径21.6	端部はやかに廣く円形である。杯部は平らである。杯部内外面2.5YR/2色	1~2mmの砂粒含む	良好		
137 11	S K 211	古式土師器 高杯	口径18.0 径21.6	端部は下方へひらく黄形状である。杯部は平である。杯部の内面は横方向のヘラミガキのち放射状のハラミガキ、外側は横方向のヘラミガキを施す。端部の内面はヨコナデ、外側は横方向のヘラミガキを施す。	内外面10YR7/2 色 内外面10YR7/2 色	1mmの砂粒含む	良好	
138 11	S K 211	古式土師器 高杯	口径18.0 径21.6	端部は「い」の字にならう。端部は面を削除し、端部は回線状にくぼむ。口縁部の内面はハケナダで、下位に沈涙2条、上位にヨコナデを施す。外側の上位はハケナダのちヘラミガキ、中位以下はヘラミガキを施す。口縁部にはヨコナデが3方向にある。	内外面7.5YR7/4 色 内外面10YR7/4 色	1~2mmの砂粒含む	良好	
139 11	S K 211	古式土師器 小型鉢	口径10.0 高さ5.5 底径10.0 体部最大径 10.0	端部は半球形である。体部へ底部の内面はヨコナデ、外側はヨコナデを施す。口縁部の内外面はヨコナデを施す。	内面10YR5/1 色 内外面10YR6/6 色 内外面10YR6/6 色	1~3mmの砂粒含む	良好	
140 11	S K 211	古式土師器 大型鉢	口径30.0	口縁部は外反する。口縁部の内面は横方向のハケナダのちヨコナデを施す。頸部にはヨコナデを施し、ヘラ状工具による痕跡がある。端部にはキザミが1箇所ある。体部の内面はハラクナリのちヨコナデ、外側は左上がりのハケナダのち右上がりのハラクナリを施す。体部の外側には擦付着している。	内外面10YR7/4 色 内外面7.5YR7/4 色	1~2mmの砂粒含む	良好	
W4 11	S K 211	鉢?	長さ1.9 幅1.7 厚み0.6	端部は半分残存。端部は尖る卵形である。	SYR2/1黒褐色			図版11 に实物 大写真 を掲載
141 12	S K 212	古式土師器 大型壺	口径17.8	口縁部は直線的に外上方へひらく背筋から水平近くまで開く。端部は上方へつまみ出し、面を形成する。壺部は回線状にくぼむ。口縁部の内面はヨコナデを施す。口縁部と頸部の内面に沈涙1条ある。頸部の内面下位は横方向のハケナダ、上位ヨコナデを施す。体部の内面はヨコナデ、外側は左上がりのハケナダのち右上がりのハケナダを施す。	内外面SY6/1 色	1mmの砂粒含む	良好	鐵岐か 阿波系
142 12	S K 212	古式土師器 広口壺	口径12.0 高さ20.0 底径18.1 体部最大 径18.1 底径3.0	端部は突出する。体部は蝶形である。口縁部は直線に伸びる。内面は10YR7/4に形成する。口縁部の内面は横方向のハケナダ、外側は右上がりのハケナダを施す。端部は右上がりのハケナダを施す。粗筋部の内面はヨコナデを施す。外側は右上がりのハケナダを施す。ハケナダは押しつけており、三角形にハケの痕跡が残る。体部の内面はヨコナデ、外側は右上がりのハケナダを施す。	内面10YR7/4 色 内外面7.5YR7/3 色	1~2mmの砂粒含む	良好	
143 12	S K 212	古式土師器 壺	口径13.0	口縁部は直立する。端部は直線から弧曲し外反する。端部は内側につまみ出し面を形成する。口縁部の内面は横方向のハケナダ、外側は右上がりのハケナダを施す。端部は右上がりのハケナダを施す。粗筋部の内面はヨコナデを施す。外側は右上がりのハケナダを施す。ハケナダは押しつけており、三角形にハケの痕跡が残る。体部の内面はヨコナデ、外側は右上がりのハケナダを施す。	内外面10YR6/2 色 内外面10YR6/2 色	1~3mmの砂粒含む	良好	鐵岐か 阿波系

表15 出土遺物観察表(15)

遺物 番号	遺構 層序 番号	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
144	S K 212	古式し鉢 小型盃	口径13.8 体部最大 径14.6	口縁部は球形の体部から屈曲し内凹ぎみに伸びる。端部は外側へつまみ出し丸く終わる。口縁部の内面はハケナデのち放射状にいり緑色のヘラミガキ、外面は横方向のヘラミガキを施す。体部の内面・外面5YR7/4によれば左上がりのハケナデの横放向のヘラミガキを施す。	内面7.5YR7/4に 1 ~ 3 mmの 砂粒含む。	良好		
145	S K 212	古式土師器 甕	口径18.2	口縁部は直面し短く外反する。端部は内側へつまみ出し面を形成する。口縁部の内面はハケナデのちヨコナデ、外面はヨコナデを施す。体部の内面はユビナデ、外面は左上がりのハケナデを施す。	内外面5Y5/1灰 1 mmの砂 粒含む。	良好	調査か 阿波系	
146	S K 212	古式土師器 碗形水杯	口径13.0	杯部は内湾する橢形である。端部は尖りぎみに丸く終わる。杯部の内面は横方向のち放射状のヘラミガキ、外面は横方向のヘラミガキを施す。内外面には黒色物質（墨跡？）を施してい る。	内面 外 7.5YR7/6橙色	1 mmの砂 粒含む。	良好	
147	S K 212	古式土師器 高杯	口径16.6	端部が「ハ」の字にひらく。端部は腹を形成する。端部は圓錐状にくぼむ。脚部の内面はユビナデを施し、シリカ目がある。外面は輪方向のち横放向のヘラミガキを施す。端部の内面はヘラミガキのちヨコナデ、外面は輪方向のハケナデのち横放向のヘラミガキを施す。脚部にはスカラシ孔が3方にあらむ。	内面 10YR8/2 灰白色 外面 2.5YR7/4 淡赤橙色	1 ~ 3 mmの 砂粒含む。	良好	
148	S K 213	古式土師器 直口盃	口径6.0	口縁部は直面的に外上方へ伸びる。口縁部の内面は横方向のち放射状のヘラミガキ、外面は横方向の右上がりのヘラミガキを施す。	内外面 2.5YR7/2 灰黄色	1 mmの砂 粒含む。精良		
149	S K 213	古式土師器 盃		盤の部の断面である。体部の内面・下位はユビナデ、下位は内面 2.5YR7/2灰 ラケナデを施す。内面には赤色顔料が付着している。外面はハ ケナデを施す。	内面 2.5YR7/2灰 外面 5Y7/2灰 色 分10R5/8赤色	1 ~ 3 mmの 良好 砂粒含む。		
150	S K 213	古式土師器 甕	口径16.9	口縁部は外反する。端部は上下方向につまみ出し面を形成する。端部は圓錐状にくぼむ。口縁部の内面はヨコナデを施す。体部の内面はハラケズリで、ケズリは端部部に違しない。肩部外面 2.5YR7/3灰 はケズリを施す。外面は左上がりのハケナデを施す。外面の全体は黄色には焼が付着している。	内面 10YR7/2 灰 外面 2.5YR7/3灰	1 ~ 4 mmの 良好 砂粒含む。		
151	S K 214	古式土師器 台付盃？		体部は球形である。脚部は外下方へ「ハ」の字に伸びる。体部 内外面 10YR8/1 の内面はユビナデ、外面は左上がりのヘラミガキを施す。脚部褐色 の内面はユビナデ、外面は右上がりのヘラミガキを施す。	内外面 10YR8/1 褐色	1 ~ 3 mmの 良好 砂粒含む。		
152	S K 214	古式土師器 甕	口径15.6	口縁部は直面し外反する。端部は腹を形成する。口縁部の内面はハケナデ のちユビナデを施す。	内面 10YR7/2 に ぶい黄褐色	1 ~ 2 mmの 良好 砂粒含む。		
153	S K 214	古式土師器 底 部 高杯	17.0	端部は「ハ」の字に外下方へ伸びる。端部の内面はハケナデ のちユビナデを施す。	内外面 10YR7/3 に ぶい黄褐色	1 mmの砂 粒含む。		
154	S K 214	古式土師器 器台	口径 9.2	口縁部は緩やかに外上方へ伸びる。口縁部は屈曲し短く上方へつ まみ出す。端部は腹を形成する。受部の内面はヘラミガキを施す と思われるが擦磨のため不明瞭である。外面は横方向のラ ミガキを施す。内面には墨跡がある。	内面 7.5YR5/6明 褐色 外面 2.5Y5/1 黄 色	1 ~ 2 mmの 良好 砂粒含む。		
155	S K 215	古式土師器 直口盃	口径10.4	口縁部は直面的に外上方へ伸びる。口縁部の内面はハケナデの ち横方向と放射状のヘラミガキを施す。外面は横方向のヘラミ ガキを施す。内面には黒斑がある。	内外面 10YR8/1 褐色	1 mmの砂 粒含む。		
156	S K 215	古式土師器 縫合口縁盃	口径18.6	口縁部は段をもたらし外反する。口縁部の内面下位はハケナデの ちヨビナデ、上位はヨコナデを施す。外面はヨコナデを施す。	内外面 2.5Y7/3 淡黄色	1 ~ 3 mmの 良好 砂粒含む。		
157	S K 215	古式土師器 甕	口径14.5	口縁部は丸みのある体部から屈曲し内凹ぎみに外反する。端部 は内側へ丸く膨脹し丸みのある頭を形成する。屈曲部の内面は は丸みをもち「K」の字に折れ曲がる。口縁部の内面はハケナ デのちヨコナデ、外面下位はタクタキのヨコナデ、上位はヨコ ナデを施す。体部の内面はヘラケズリを施す。ケズリは屈曲部 におよんでいない。外面は右上がりのタクタキ(4mm/1cm)のち 左上がりのハケナデを施す。	内外面 2.5Y5/3	1 ~ 3 mmの 良好 砂粒含む。		
158	S K 215	古式土師器 底 部	口径 4.4	底面は突出する平底である。体部の内面はユビナデ、外面は右 上がりのタクタキ(4mm/1cm)を施す。	内面 10YR5/2灰 黄褐色 外面 10YR4/1 灰 色	1 ~ 3 mmの 良好(硬 砂粒含む。 く 焼 き ま ぐ 合 む 生 鉄 西鐵)		

表16 出土遺物觀察表(16)

遺物 番号 図版 番号	遺様	器種	法量 (cm)	形態・調査等	色調	胎土	焼成	備考
159 S K 215	古式土師器 高杯	口径25.6	口縁部は直線的に外上方へ伸びる。口縁部の内外面はヘラミガキを施す。表面磨純のため不顯原である。	内面10R5/2灰 赤色 外面10R5/8金色	2 mmの砂粒 含む。			
160 S K 215	古式土師器 器台	口径9.8	受部は縦やかに外上方へ伸びる。口縁部は筋出し外反ぎみに伸びる。縦筋は面を形成する。口縁部の内外面はヨコナダを施す。口縁部の外面下位には横いヘラ状工具の先による直線文を部分的に2条旋す。受部の内面は横方向のち放射状のヘラミガキ、外面は横方向のヘラミガキを施す。	内面2.5Y7/3 淡黄色 外面4.5YR7/4 砂紋古む。良	1 ~ 2 mmの 砂粒含む。			
161 S K 215	古式土師器 器台	底径12.4	器底部は「H」の字に外下方へ伸びる。器底の内面はハケナダの中ヨビナダ。外面は横方向のヘラミガキを施す。器底にはスカシ孔が4方向にあいている。	内外面5YR6/6 藍色	1 mmの砂粒 良好含む。精良			
162 S P 201 12	古式土師器 小型鉢	口径10.4 底径10.0	休部は球形である。口縁部は内凹する。口縁部の内面はハケナダの中ヨコナダ、外面はヨコナダを施す。休部の内面はヨビナダ。休部の外縁には5本のハケナダと1本のヘラミガキを左上がりに交互に施したのち横方向のヘラミガキを施す。内面には黒斑がある。	内面N2/0黒色 外面5YR7/4に ヨビナダ	1 mmの砂粒 良好含む。			
163 S P 201	古式土師器 直口盃	口径10.8	口縁部は直線的に外上方へ伸びる。口縁部の内面は横方向のち放射状のヘラミガキ、外面は横方向のヘラミガキを施す。	内面2.5Y7/2 灰黄色	1 ~ 2 mmの 砂粒含む。			
164 S P 201	古式土師器 小型鉢	口径8.6	口縁部の内外面はヨコナダを施す。口縁部の内面はヨビナダ。外面は左上がりのハケナダの中ヨビナダを施す。	内面2.5Y7/1 灰白色	1 mmの砂粒 良好含む。			
165 S D 201	古式土師器 小直鉢	休部最大 径9.6	休部は球形の体部から直曲し内溝ぎみに伸びる。口縁部の内外面はヨコナダを施す。体部の内面はヨビナダ、外面は横方向のヘラミガキを施す。	内外面2.5Y7/3 灰黄色	1 mmの砂粒 良好含む。			
166 7層	古式土師器 小型鉢	口径11.2	口縁部は内溝は上方へつまみ出し面を形成する。口縁部の内外面はヨコナダを施す。休部の内面は横方向のヘラミガキ、外縁は左上りのハケナダの中ヨビナダを施す。休部の内面はヘラケズリ、外面は横方向のヘラミガキを施す。	内面7.5YR6/3 にヨビナダ 外曲7.5YR4/3 褐色	1 ~ 2 mmの 砂粒含む。			
167 7層	古式土師器 甕	口径16.4	口縁部は外反する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。端面は同様状にくぼむ。口縁部の内外面はヨコナダを施す。外面には黒斑が付着している。	内面10YR6/2灰 色	1 ~ 4 mmの 砂粒含む(外くぼ 底縁石が多くなる。 含む生駒西 龍庭)			
168 7層	古式土師器 甕	口径15.3	口縁部は外反する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。端面は同様状にくぼむ。口縁部の内外面はヨコナダを施す。外面には黒斑が付着している。	内面10YR6/1 灰 外面10YR5/1 灰	1 mmの砂粒 良好含む			
169 7層	古式土師器 高杯	口径16.6	口縁部は内溝ぎみに外上方へ伸びる。口縁部の内面は左上がりのハケナダの中放射状にヘラミガキを施す。外縁は左上がりのハケナダの中横方向のヘラミガキを施す。	内面7.5YR7/2 明褐灰色 外面7.5YR7/4 にヨビナダ	1 mmの砂粒 良好含む			
170 7層	古式土師器 有底口縁鉢	口径16.4 底径11.7 厚み4.3	体部は直筒である。口縁部は筋曲し内溝する。口縁部の内外面は横方向のヘラミガキを施す。体部の内面は横方向のち放射状のヘラミガキ、外面は横方向のヘラミガキを施す。器底にはスカシ孔が4方向にあっている。	内面10YR6/2 灰 外面10YR6/8 灰褐色	1 mmの砂粒 良好含む			
W5 7層	板状木製品 幅11.7厚 み4.3	長さ40.1	板状の木製品で、平底と断面の形状は異方形の形状である。燃え跡化した部分が数箇所認められる。	内外面5YR3/4 暗赤褐色				
172 8層	古式土師器 甕	口径15.0	口縁部は外反する。端部は上方へつまみ出し面を形成する。口縁部の内面はハケナダの中ヨコナダ、外面はヨコナダを施す。体部の内面はヘラケズリを施し、一部は追加部におよんでいる。腹曲部にはヨビナダを施す。体部の外縁は全周に墨が付着している。	内面7.5YR7/1 明褐灰色 外面7.5YR6/8 褐色	1 mmの砂粒 良好含む			
173 8層	古式土師器 有底口縁鉢	口径15.0	口縁部は底をもち、外反する。口縁部の内外面は横方向のヘラミガキを施す。体部の内外面は横方向のヘラミガキを施す。	内外面10YR7/1 灰白色	1 ~ 2 mmの 砂粒含む			

## 3区

調査の結果、現地表下約2.0m(T.P.+6.9m)で古墳時代前期に相当する土坑5基(SK301~305)、溝1条(SD301)を検出した。なおこの調査区の南側約1/3は、既存の排水施設により現地表下約2.5mまで埋められていたため、この部分についての調査はできなかった。

## SK301~305

平面形状は橢円形、不定形、隅丸方形に分けることができる。断面形状は皿状で、SK301は2層の埋土である。それ以外の土坑は単一の埋土であった。各土坑からの遺物の出土ではなく、遺構の詳しい時期は不明である。なお、検出した各土坑の詳細については表17にまとめた。

表17 3区土坑一覧表

遺構番号	地区	平面形状	長径 (m)	幅 (m)	深 (m)	断面形状	厚さ (m)	埋土	出土遺物
SK301	VI-18-9 I	SD301を切っている。隅丸 方形	1.2	1.2	-	皿形	0.1	上から10Y2/1黒色細粒シルト混 粘土、5B5/1暗灰色粗粒シルト混 粘土	なし
SK302	VI-18-9 I	東西に長い橢円形	0.45	0.35	-	皿形	0.06	10Y2/1黒色細粒シルト混粘土	なし
SK303	VI-18-9 I	南北に長い橢円形	1.8	1.0	-	皿形	0.06	2.5Y2/1黒色細粒シルト混粘土	なし
SK304	VI-18- 8・9 I	不定形	1.9	1.85	-	皿形	0.07	10Y2/1黒色細粒シルト混粘土	なし
SK305	VI-18- 8・9 I	南北に長い橢円形	1.2	0.9	-	皿形	0.08	30Y2/1黒色細粒シルト混粘土	なし

## SD301

VI-18-9 I 地区で検出した。西側の一部はSK301で切られている。検出長5.5mで、南北一北西にほぼ直線に伸びる。幅は約1.1~1.5mを測り、中央が幅広で、北西側と南東側が狭い平面形状である。断面形状は皿形で、深さ0.1mを測る。埋土はa層5Y2/1黒色細粒シルト混粘土、b層5B3/1暗青灰色粘土で、遺物の出土はなかった。

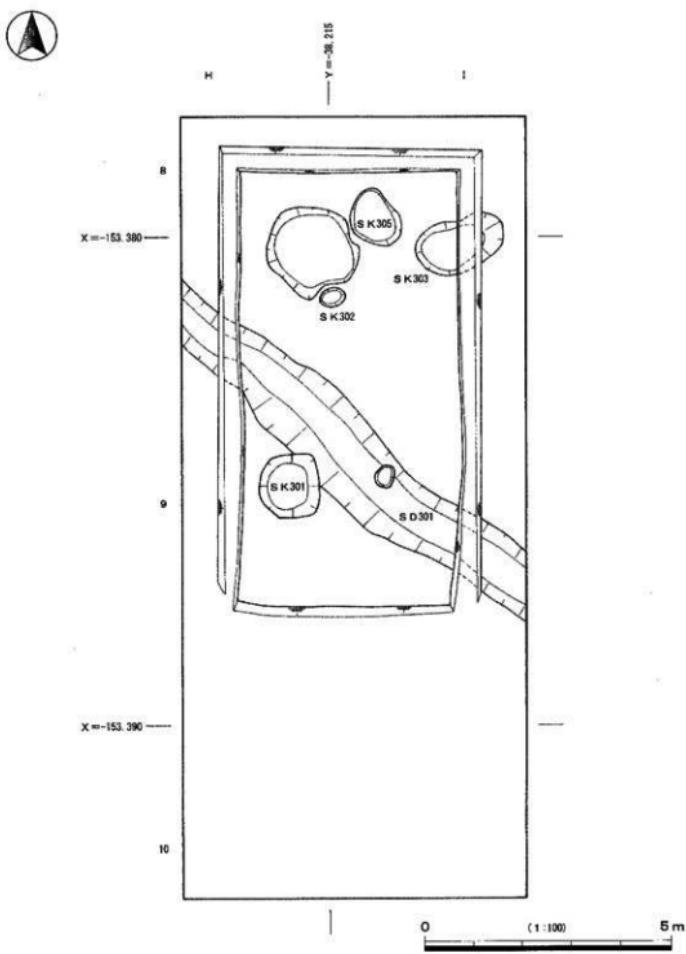
## 遺構に伴わない出土遺物

3層からは土師器の破片、石製品、種実などが少量出土した。このうち図化した遺物は174とSK2である。

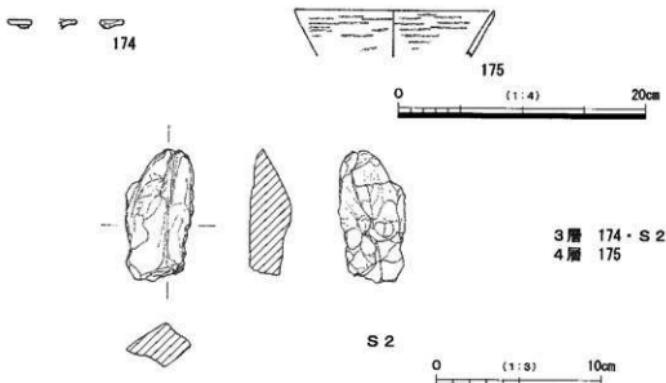
174は土師器の皿で平安時代頃に比定できる。SK2はサヌカイトの石製品で石槍か石剣の未製品と思われる。また、桃と思われる種が8点(W6-1~8)出土した。

4層からは土師器の破片が少量出土した。このうち図化した遺物は175である。

175は古式土師器の直口壺で、口縁部の内外面に横方向のヘラミガキを施す。



第22図 3区 平面図



第23図 3区 3層、4層出土遺物実測図

表18 出土遺物観察表(17)

遺物 番号	遺構 層序	器種	法量 (cm)	形態・模様等	色調	胎土	焼成	備考
174	3層	土師器Ⅱ		口縁部は外反する。縁部は内側へつまみ出しあく終わる。口縁部の内外面はヨコナデを施す。	内面7.5YR8/2 灰白色 外面7.5YR8/6 浅黄褐色	1mm程度の砂粒含む。	良好	
S 2	3層	石槍か石劍の未製品	長さ8.0 幅3.8 厚み2.6	細長の石材で、横断面は菱形である。表面は全体的に磨く。	5B2/1青黒色			
175	4層	古式土師器	口径16.0 底口直	口縁部は直線的に外上方へ伸びる。縁部は公りぎみに丸く終わる。口縁部の内外面は横方向のヘラミガキを施す。	内外面10W7/2 2mm程度の砂粒含む。	2mm程度の砂粒含む。	良好	
W 3層 6-1 12		桃?種	長さ1.7 幅1.6 厚み0.7 半分残存。端が尖る倒卵形である。		SYR2/1黒褐色			図版12に 美物大方 算を掲載
W 3層 6-2 12		桃?種	長さ1.7 幅1.6 厚み0.6 半分残存。端が尖る倒卵形である。		SYR2/1黒褐色			
W 3層 6-3 12		桃?種	長さ2.0 幅1.9 厚み0.7 半分残存。端が尖る倒卵形である。		SYR2/1黒褐色			
W 3層 6-4 12		桃?種	長さ2.1 幅1.8 厚み1.4 端が尖る倒卵形である。		SYR5/2灰褐色			
W 3層 6-5 12		桃?種	長さ2.0 幅1.9 厚み1.4 端が尖る倒卵形である。		SYR2/1黒褐色			
W 3層 6-6 12		桃?種	長さ2.1 幅1.9 厚み1.5 端が尖る倒卵形である。		SYR2/1黒褐色			
W 3層 6-7 12		桃?種	長さ2.3 幅1.9 厚み1.6 端が尖る倒卵形である。		SYR2/1黒褐色			
W 3層 6-8 12		桃?種	長さ2.1 幅1.9 厚み1.5 端が尖る倒卵形である。		SYR2/1黒褐色			

## 第3章　まとめ

### 1・2区

古墳時代初頭～前期の居住域を1区と2区のT.P.+5.8～5.85mで確認した。同時期における遺構は周辺の調査でも検出しており、おもな検出例を紹介し、古墳時代初頭から前期の居住域や墓域の位置を推測してみたい。

1・2区の西に隣接するセンター調査の亀井北遺跡A～C地区ではT.P.+5.6～6.0mで古墳時代初頭庄内式新相～前期布留式古相の遺構を多数検出している。特に1区と近接しているAトレンチでは古墳時代前期I（古墳時代初頭庄内式新相に比定）で、堅穴住居10棟と多数のピットを確認した。また、古墳時代前期III（古墳時代前期布留式古相に比定）では、土坑や溝を確認している（服部他1986）。

北東に隣接する研究会第22次調査地では、1調査区のT.P.+5.5～5.7mで古墳時代初頭～前期の居住域を、3調査区で同時期の墓域を検出している（原田2001）。また、北西部にあるセンター調査の久宝寺遺跡南地区ではH～J地区のT.P.+5.5m前後で古墳時代初頭～前期の居住域を、F地区で同時期の墓域を検出している（一瀬他1987　若林1998）。

南に隣接する研究会第1次調査地では、T.P.+5.8～6.0mで古墳時代前期布留式古相（布留Ⅰ期）の土器溜まりを2箇所で検出した（原田1993）。また、同第1次調査地の南隣では、同第9次調査地があり、T.P.+5.8～6.0mで古墳時代前期布留式古相の堅穴住居および井戸や溝を検出している（成海1992）。

これらの調査結果から、今回の調査地の1・2区で検出した古墳時代初頭～前期の居住域は、亀井北遺跡A地区、研究会第22次1調査区、久宝寺遺跡南地区のH～J地区、研究会第1次調査地および第9次調査地付近に存在し、その範囲は、1区を中心とした場合、半径100m程度であったと推測できる。また、同時期の墓域は、東部の研究会第22次調査地の3調査区付近と南西部の亀井北遺跡B地区付近にあったと推測できる。

### 3区

3区では、周辺で行った市教委調査〔久宝寺遺跡90・398〕（道1991）の結果から、G L -2.0mで古墳時代の砂層の検出が予想された。今回の調査では、予想通り砂層を検出し、その砂層の上層で、粘土層を3枚（第3～5層）確認した。確認した粘土層のうち一番下の第5層上面で遺構を検出した。検出した土坑には配置などの規則性は見られなかった。また断面形状は皿形を呈し、深さは0.1m未満で非常に浅く、遺物の出土がないことから、各土坑は遺構として捉えたが、水溜まり状の浅いくぼみが自然に埋まった可能性が考えられる。

### 他地域系の土器について

久宝寺遺跡内では、他地域系の土器が出土することがあり、特に古墳時代初頭～前期には比較的多くある。ここでは今回の調査で得た北陸系および讃岐、阿波系の土器に類似した例を紹介し遺跡内における出土地の分布を考えてみたい。

## 北陸系

北陸地域から搬入された可能性が高い古墳時代前期の布留式古相の鉢(5)は1区の竪穴住居(S I 101)から出土した。

S I 101と同時期の北陸系の土器には、研究会第22次調査のSD-3から出土した高杯(92)や鉢(94)が挙げられ、加賀南部からの搬入品とされている(原田2001)。この他、亀井北遺跡B地区の1号墓のマウンド上面からも北陸系の器台(243)が出土している(服部他1986)。

また、古墳時代初頭住内式古相の遺構からは北陸系の土器が出土した例がある。研究会第34次調査のSK502から出土した古墳時代初頭(庄内II)の甕(181)がその例で、この甕は石川県の漆町遺跡I(田島1986)による器種分類では「月影式」系在地甕形土器の甕A1類に分類されるもので、時期的には漆町5・6群土器に盛行する器種とされている(原田2007)。また、センターが実施した大阪竜華都市拠点地区竜華東西線建設に伴う発掘調査(以下センター竜華東西線調査)の1~5区においては、古墳時代初頭(庄内II)に比定される531井戸から北陸系の複合口縁壺(273)が出土した。この壺は、緩やかに外反する口縁部外面に直線文を巡らせ、体部外面に斜方向ハケ、内面にケズリを施し、口縁部には打欠きがある。同時期の408土坑からも口縁部の外面に直線紋を施し、体部は球形に近い北陸系の複合口縁壺(190)が出土している(西村2004)。

さらにセンターが実施した平成12~16年度の寝屋川流域下水道竜華水みらいセンター水処理施設等建設事業に伴う発掘調査(以下センター水処理調査)では、05272七坑から装飾器台(229頁図211-7)が、05421流路から複合口縁壺(476頁図499-23)が、第4~2層から甕(502頁図526-6)が出土し、これらも北陸からの搬入品とされている(亀井2007)。

以上から、北陸系の土器は古墳時代初頭(庄内式古相)には研究会第34次調査地とセンター竜華東西線調査の1~5区付近から多く出土しており、古墳時代前期(布留式期古相(布留I))には今回の1区と研究会第22次調査地、亀井北遺跡B地区付近で出土していることがわかった。

## 阿波系・讃岐系

2区で検出したSK211やSK212内からは布留式期古相(布留I)の時期の讃岐や阿波の特徴をもつ上器【SK211:壺(131)、甕(134) SK212:壺(141・143)、甕(145)】が出土した。

壺(131、141)の類例には、センター調査の久宝寺遺跡南地区(その1)の4B、Bトレンチで検出したK3号墓上層堆積から出土した壺(134頁図II-96-19)が挙げられる。また同遺構上層堆積からは、讃岐系の複合口縁壺(135頁図II-97-2)も出土している。さらに同遺構の周溝内下層からは阿波系の壺が出土し(若林1999)、この壺はおそらく、古墳時代初頭期の大坂府では、焼成前に穿孔された唯一の例であることを指摘している。一方、東四国地域(讃岐・阿波)では墳墓に焼成前穿孔の壺を供獻する事例が多いことが知られている(山田2006)。このことから、讃岐における墓制との共通点がある窯と見ることができるであろう。

甕(134)は器面に施す調整と器形が讃岐のものに酷似し、讃岐甕の土を使用した可能性が高いと思われることから、同地域からの搬入品であると言えるであろう。類例には、研究会第22次調査のSD-1から出土した甕(57)が挙げられ、この土器も東四国系とされている(原田2001)。

甕(143)の類例には、『動態VII』の久宝寺遺跡(その2)Iトレンチ第4-c地区SD45出土の(263頁図II-225-18)が挙げられる(若林他1999)。このほか、センター水処理調査の05272十坑か

ら出土した内傾する頸部から外へ開く口縁部を特徴とする阿波系の広口壺(230頁図212-8)（亀井他2007）も頸部～口縁部の形状が似ている。

壺(145)も器面に施す調整と器形が東四国地域の壺の特徴に似ていることから、讃岐か阿波系と判断できる。

これらから、古墳時代前期の布留式期古相(布留I)の讃岐・阿波系の土器は、今回の2区が位置する同遺跡西部で比較的多く出土する傾向にあると言えるであろう。

#### 参考文献

- ・服部文章他 1986『亀井北(その1)』(財)大阪文化財センター
- ・一瀬和夫他 1987『久宝寺南(その2)』(財)大阪文化財センター
- ・酒 真 1991「21.久宝寺遺跡(90-398)の調査」『八尾市内遺跡平成2年度発掘調査報告書I』 八尾市文化財調査報告22 八尾市教育委員会
- ・成海佳子 1992「13.久宝寺遺跡第9次調査(KH91-9)」『平成3年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会
- ・原田昌則 1993「II 久宝寺遺跡(第1次調査)」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告37 (財)八尾市文化財調査研究会
- ・原田昌則 2001『久宝寺遺跡第22次発掘調査報告書』-大阪竜華都市拠点地区区画道路2号線に伴う-(財)八尾市文化財調査研究会報告68 (財)八尾市文化財調査研究会
- ・若林邦彦 1998「弥生～古墳時代前期の久宝寺遺跡」『大阪の弥生遺跡の検討』平成9年度広域研究活動支援事業活動実績報告書 大阪の弥生遺跡検討会
- ・若林邦彦他 1999『河内平野遺跡群の動態VII』(財)大阪府文化財調査研究センター
- ・西村 歩他 2004『八尾市 久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書VI』-大阪竜華都市拠点地区竜華東西線建設に伴う発掘調査-(財)大阪府文化財センター調査報告書 第118集 (財)大阪府文化財センター
- ・山田隆一 2006「大阪府出土の讃岐・阿波・播磨系の土器」『邪馬台国時代の阿波・讃岐・播磨と大和』ふたかみ邪馬台国シンポジウム6 香芝市教育委員会
- ・原田昌則 2007『久宝寺遺跡第34次発掘調査報告書』(財)八尾市文化財調査研究会報告96 (財)八尾市文化財調査研究会
- ・亀井 聰他 2007『八尾市 久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書VII-寝屋川流域下水道竜華水みらいセンター水処理施設等建設事業に伴う発掘調査他-』 (財)大阪府文化財センター調査報告書 第156集 財団法人大阪府文化財センター

# 図 版



1・2区周辺(西から)【中央～左は国鉄電車操車場跡地 奥は生駒山地】



1区 機械掘削(北西から)



2区 機械掘削(西から)



3区 機械掘削(北東から)



2区 第1面調査状況(西から)



1区 第2面全景(西から)



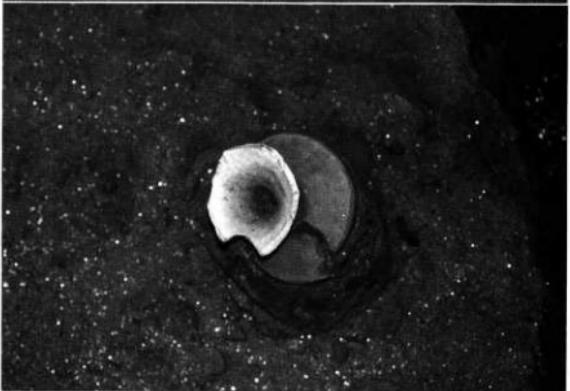
1区 SII01(北東から)



1区 SI101  
調査状況(南東から)

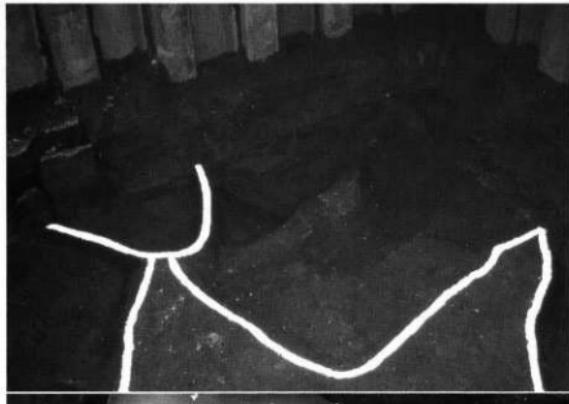


1区 SI101  
K-1遺物出土状況(西から)

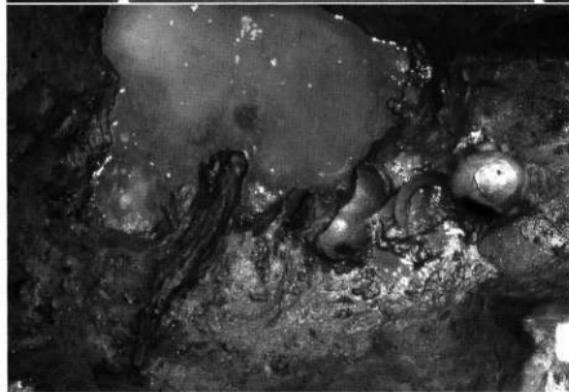


1区 SK103  
遺物出土状況(北から)

図版 4



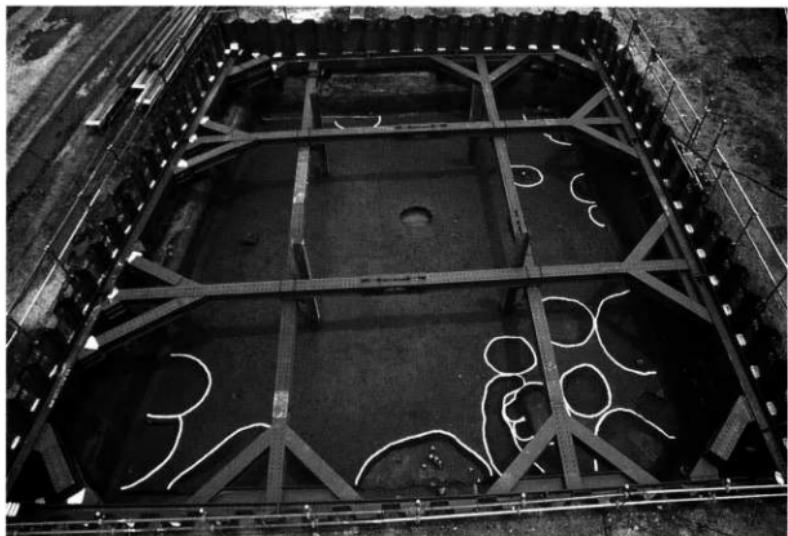
1区 SK113・114(南東から)



1区 SK114  
遺物出土状況(西から)



1区 SD101(南から)



2区 第2面全景(西から)



2区 SK201(北から)



2区 SK201遺物出土状況(北から)

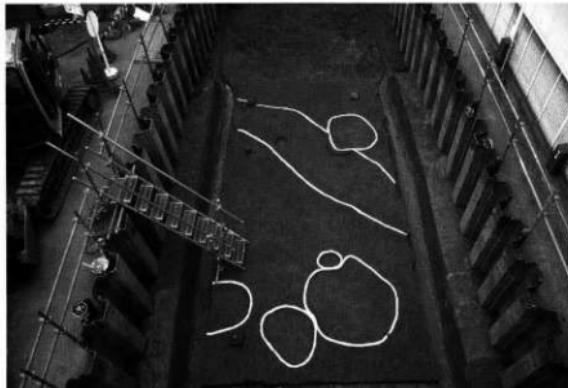


2区 SK211(東から)



2区 SK212(西から)

図版  
6



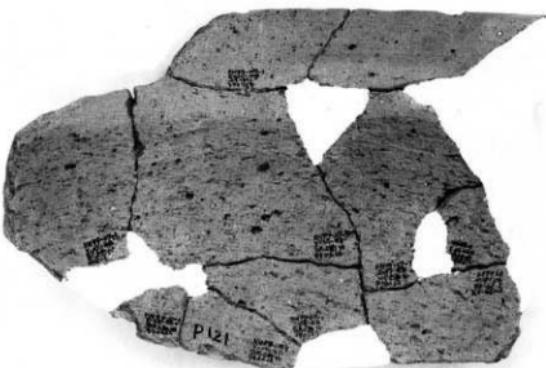
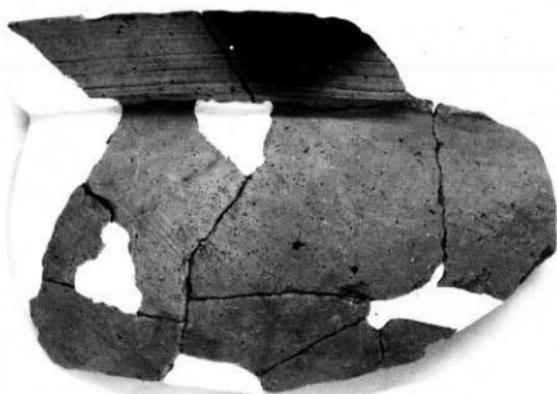
3区 全景(北から)



3区 挖削状況(南東から)



3区 調査状況(南から)



S 1

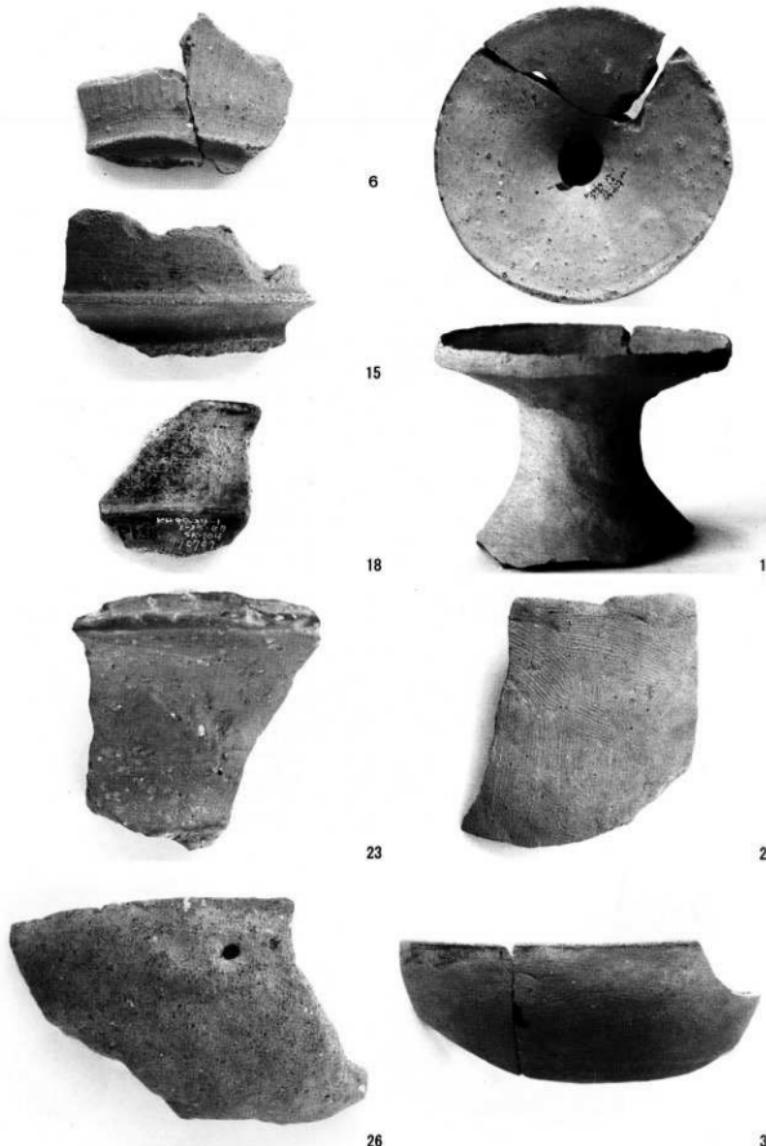


W 1

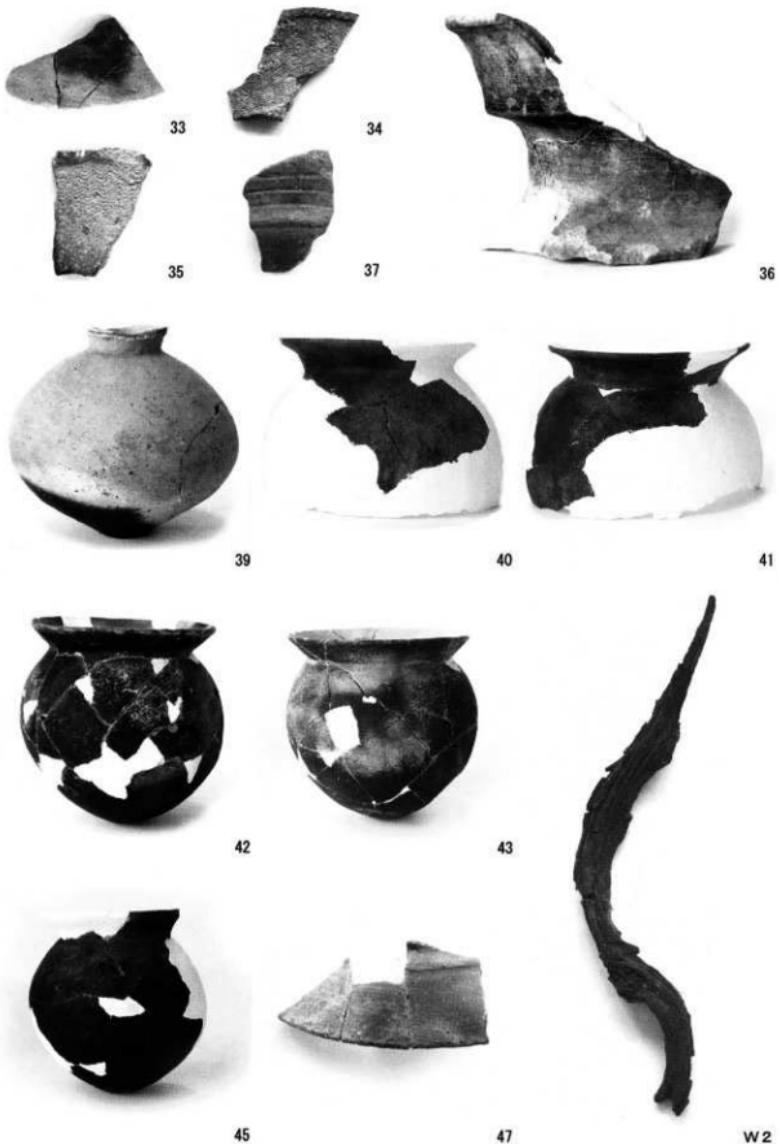
0 (1:1) 2cm

1区 S I 101(1・5・S 1・W 1)出土遺物

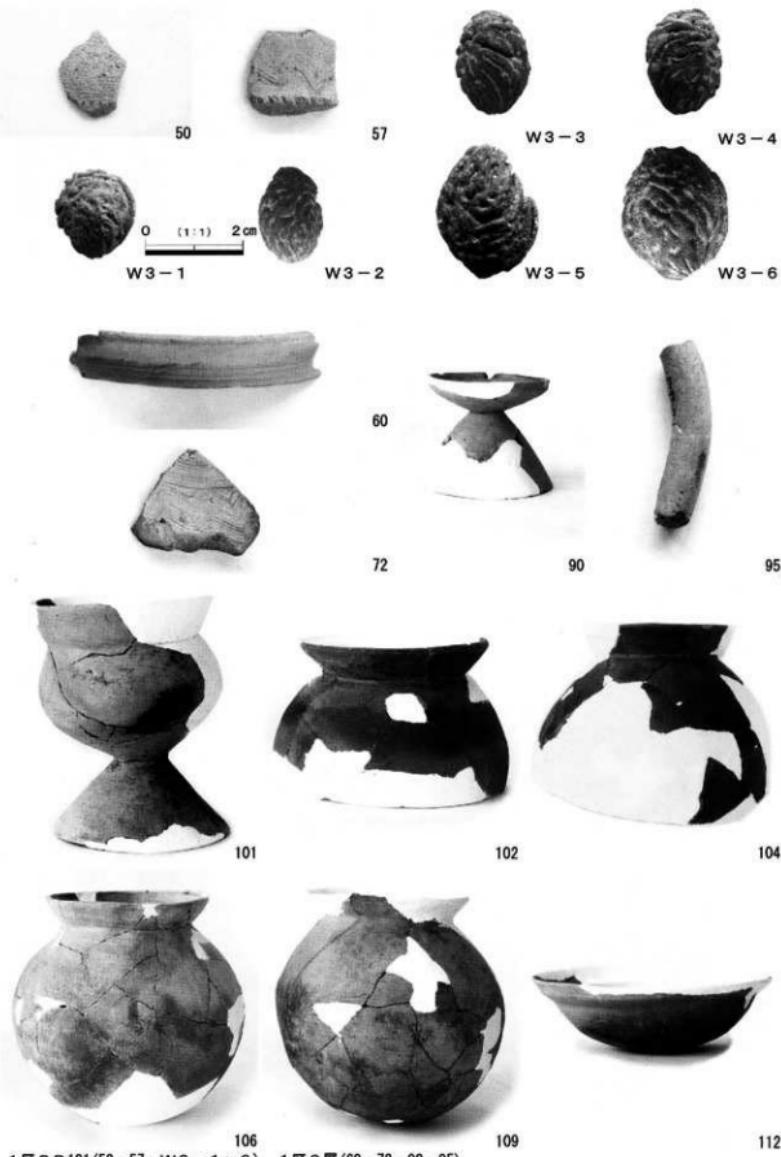
図版 8



1区SK101(6)、1区SK103(14・15)、1区SK104(18)、1区SK109(23・25・26)、1区SK112(30)出土遺物



1区SK114出土遺物



1区 S D 101(50・57・W3-1~6)、1区 8層(60・72・90・95)、  
2区 S K 201(98・101・102・104・106・109・112)出土遺物



119



121



124



134



138



131

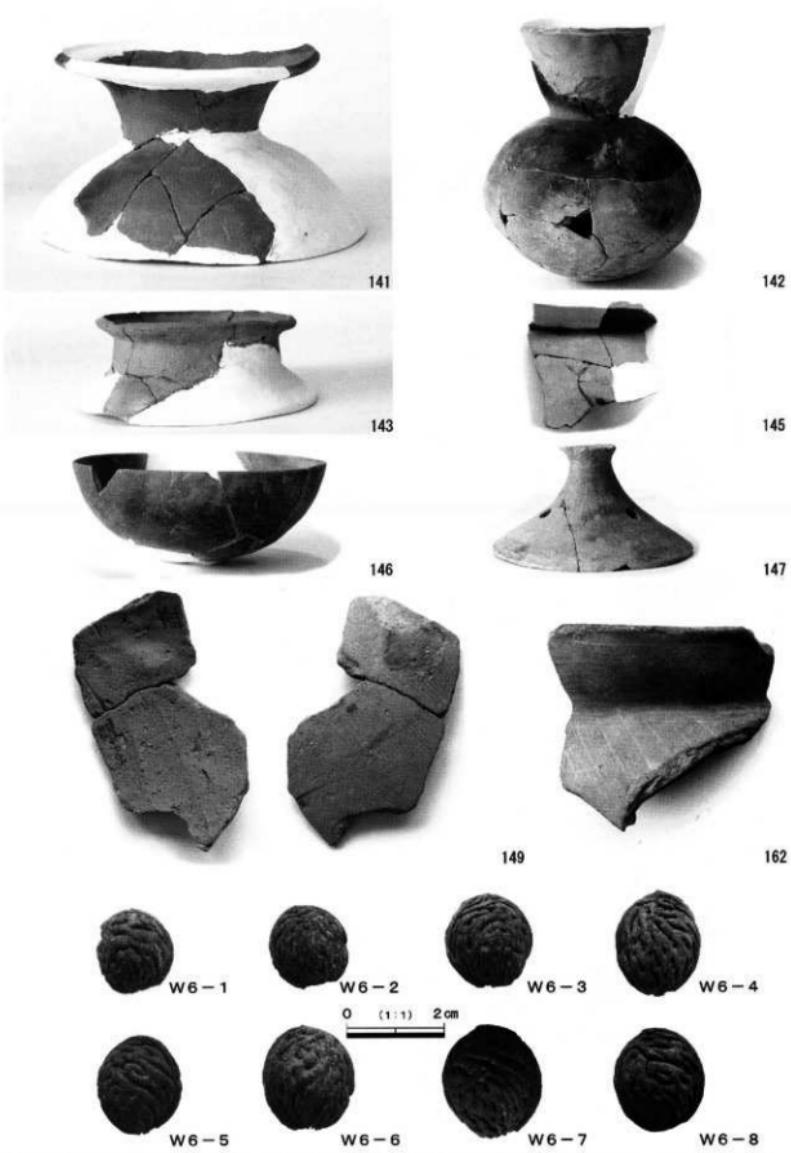


W4

0 (1:1) 2 cm

2区SK205(119・121)、2区SK207(124)、2区SK211(131・134・138・W4)出土遺物

図版 12



2区SK212(141~143・145~147)、2区SK213(149)、2区SP201(162)、3区3層(W6-1~8)出土遺物

V 久宝寺遺跡第59次調査 (KH2004-59)

## 例　言

1. 本書は大阪府八尾市大字亀井940-9(保留地3街区第1画地)で実施した共同住宅建設に伴う  
久宝寺遺跡第59次発掘調査(KH2004-59)の発掘調査報告書である。
1. 本調査は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財調査指示書に基づき財団法人八尾市文化財調査研  
究会が近鉄不動産株式会社から委託を受けて実施したものである。
1. 調査は当調査研究会　西村公助が担当した。
1. 現地調査は、平成16年8月5日に着手し、同年11月30日に終了した。調査面積は約1539m<sup>2</sup>で  
ある。
1. 現地調査には伊藤静江・岩沢玲子・川村一吉・竹田貴子・村井俊子・村田知子・若林久美子  
の参加を得た。(敬称略、五十音順)
1. 内業整理は下記が参加し、現地調査終了後に着手して平成20年8月31日をもって終了した。(敬  
称略、五十音順)  
遺物実測—市森千恵子・岩沢・中村百合  
図面トレースー市森・西村  
遺物写真撮影—木村健明・西村
1. 本書の執筆及び編集は西村が行った。

## 本　文　目　次

第1章　はじめに.....	151
第2章　調査概要.....	153
第1節　調査の方法と経過.....	153
第2節　層序.....	154
第3節　検出遺構と出土遺物.....	157
第3章　まとめ.....	187

## 挿 図 目 次

第1図	調査地周辺図	152
第2図	調査区設定図および地区割図	153
第3図	1・2区地層断面図	155・156
第4図	1区第1面平面図	158
第5図	1区水田101・103、SK201・204、SD201出土遺物実測図	159
第6図	1区第2面平面図	160
第7図	1区SK201平・断面図	161
第8図	1区SD201遺物出土状況平面図	161
第9図	1区第3面平面図	162
第10図	1区SE301平・断面図	163
第11図	1区SE301出土遺物実測図①	163
第12図	1区SE301出土遺物実測図②	164
第13図	1区SK304、SD301・307・308出土遺物実測図	166
第14図	1区SD308遺物出土状況平面図	166
第15図	1区NR401、1～3層出土遺物実測図	167
第16図	1区第4面平面図	168
第17図	2区SD122出土遺物実測図	171
第18図	2区SD201遺物出土状況平面図	172
第19図	2区第1面平面図	173
第20図	2区第2面平面図	174
第21図	2区SD201・202・213出土遺物実測図	176
第22図	2区SD301、NR401出土遺物実測図	178
第23図	2区第3面平面図	179
第24図	2区第4面平面図	180
第25図	2区NR601、畦畔701出土遺物実測図	181
第26図	2区第5面～第8面平面図	183
第27図	2区畦畔701、1・2・4層出土遺物実測図	184

## 表 目 次

表1	1区第1面島畠一覧表	157
表2	1区第1面水田一覧表	157
表3	1区第2面土坑一覧表	161
表4	1区第2面小穴一覧表	161

表5	1区第2面溝一覧表	161
表6	1区第3面土坑構一覧表	165
表7	1区第3面小穴一覧表	165
表8	1区第3面溝一覧表	167
表9	出土遺物観察表(1)	169
表10	出土遺物観察表(2)	170
表11	2区第1面井戸一覧表	172
表12	2区第1面土坑一覧表	172
表13	2区第1面溝一覧表	175
表14	2区第2面土坑一覧表	176
表15	2区第2面小穴一覧表	176
表16	2区第2面溝一覧表	176
表17	2区第3面土坑一覧表	177
表18	2区第3面小穴一覧表	177
表19	2区第3面溝一覧表	178
表20	出土遺物観察表(3)	185
表21	出土遺物観察表(4)	186

## 図版目次

- 図版1 調査地周辺(南西から)　調査地周辺(東から)　1区機械掘削(西から)  
 　　1区調査状況(南西から)　2区調査状況(南西から)
- 図版2 1区第1面全景(南から)　1区第2面全景(南から)
- 図版3 1区第3面全景(南から)　1区第4面全景(南から)
- 図版4 1区S D201遺物出土状況(西から)　1区S E 301遺物出土状況(南から)  
 　　1区S D308(西から)　1区S E 301(南から)　1区S D308遺物出土状況(南西から)  
 　　1区S E 301井戸枠検出状況(南から)　1区N R 401(南から)  
 　　1区S E 301調査状況(南西から)
- 図版5 2区第1面全景(西から)　2区第2面全景(西から)
- 図版6 2区第3面全景(西から)　2区第4面全景(西から)
- 図版7 2区S D201(北から)　2区S D201遺物出土状況(北から)　2区S D201調査状況(南から)
- 図版8 2区N R 401(北から)　2区下層トレンチNo.6 畦畔701遺物出土状況(北から)  
 　　2区下層トレンチNo.6 畦畔701遺物出土状況(南から)
- 図版9 1区 S D201、S E 301出土遺物
- 図版10 1区SK304、S D308、2層、3層、2区S D122、S D201、N R 401、畦畔701出土遺物

## 第1章 はじめに

久宝寺遺跡は、八尾市の西部に位置し、長瀬川と平野川に挟まれた沖積地に立地する。本遺跡は、市内の北西部に存在し、現在の行政区画では、北久宝寺・久宝寺・西久宝寺・南久宝寺・神武町・北龜井町・龍華町・渋川町の東西約1.8km、南北約1.7kmがその範囲である。

本遺跡の発見の契機は、1935年(昭和10年)に八尾市久宝寺正丁目で行われた道路工事中に、弥生～古墳時代の土器および丸木船の残片などが出土したことによる(吉岡1988)。しかしその後、発掘調査は実施されることなく、本遺跡の実態は十分把握できていなかった。

本遺跡における本格的な発掘調査は、本書Iに記載した通り昭和50年代に入ってからである。なかでも(財)大阪府文化財センター(以下センター)が行った近畿自動車道建設に伴う発掘調査(久宝寺遺跡北地区・久宝寺遺跡南地区・龜井北遺跡)では、弥生時代～近代までの夥しい数の遺構および遺物が発見され、集落を営んでいたことが判明した。

この調査以降、本遺跡内では大阪府教育委員会(以下府教委)、センター、八尾市教育委員会(以下市教委)、(財)八尾市文化財調査研究会(以下研究会)によって数多くの発掘調査が行なわれている。以下では、今回の調査地の近隣で行われた主な発掘調査について概略を紹介する。

今回の調査地から北西部約30mの地点では、センターが平成12～13年度に大阪竜華都市拠点土地区画整理事業(都市機能更新事業)に伴う発掘調査を行っており、縄文時代晚期から中世に至る遺構および遺物の検出があり、特筆できる遺構には古墳時代前期の久宝寺1号墳が挙げられる(西村2003)。さらに西部ではセンターが平成12～16年度に寝屋川流域下水道竜華水みらいセンター水処理施設等建設事業に伴う発掘調査を実施しており、縄文時代晚期から近世に至る遺構および遺物の検出が多数あった。中でも古墳時代初頭～前期には、周溝墓が密集して築いている状況を確認した(龜井他2007)。さらに、北西部の研究会第23次調査(原田他2006)、研究会第28次調査(原田他2004)でも同時代の墳墓を検出したことから、今回の調査地の北西部には、古墳時代初頭～前期の墓地が存在している結果を得た。

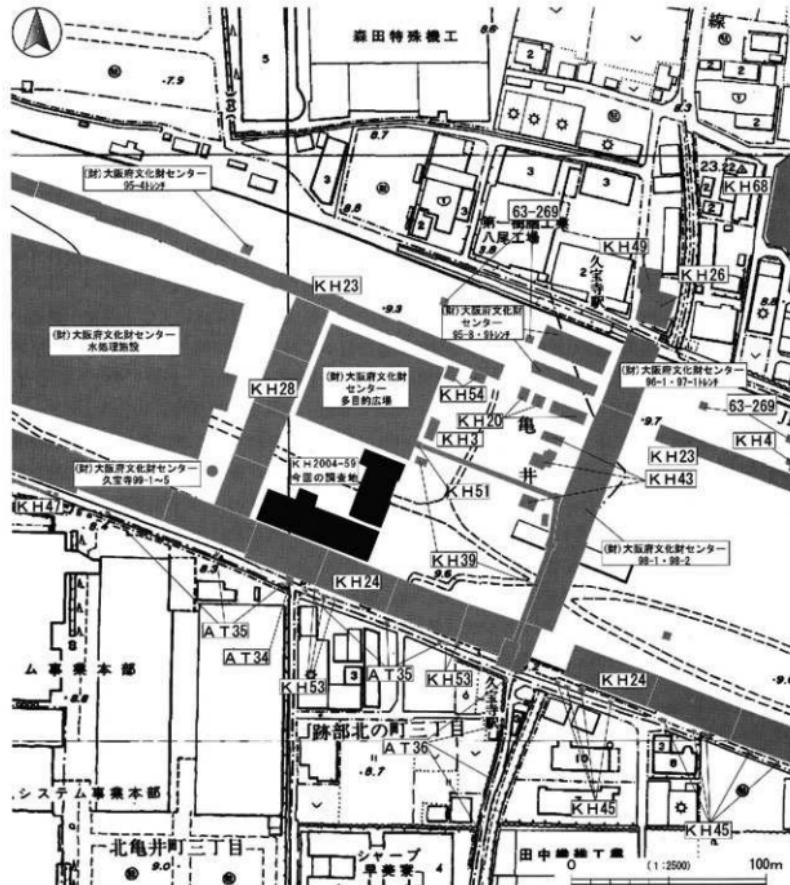
このほか、研究会第28次調査(原田他2004)では、飛鳥時代、平安時代の遺構を検出している(原田他2004)。さらに南約10mの地点の研究会第24次調査では、古墳時代中期、飛鳥時代、平安時代などの遺構を検出している(原田他2001)。

### 参考文献

- ・古岡哲 1988『考古編 第三章』『八尾市史(前近代)』本文編 八尾市役所
- ・寺川史郎他 1987『久宝寺北(その1～3)近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告』(財)大阪文化財センター
- ・松岡良憲他 1987『久宝寺南(その1)』大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター
- ・瀬和大他 1987『久宝寺南(その2)』(財)大阪文化財センター
- ・服部文彦他 1986『龜井北(その1)』(財)大阪文化財センター
- ・炎 和之他 1986『龜井北(その2)』大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター
- ・西村 歩他 2003『八尾市龜井地内所在 久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書V』-大阪竜華都市拠点土地区画整理事業(都市機能更新事業)に伴う発掘調査-(財)大阪府文化財センター調査報告書 第103集 (財)大阪府文化財センター
- ・原田昌則他 2001『久宝寺遺跡第24次発掘調査報告書-大阪竜華都市拠点地区竜華東西線3工区の掘削工事に伴う』(財)八尾市文化財調査研究会報告69 (財)八尾市文化財調査研究会
- ・原田昌則他 2004『I 久宝寺遺跡(第28次調査)』『久宝寺遺跡 (財)八尾市文化財調査研究会報告77』(財)八尾

市文化財調査研究会

- ・西村 歩徳 2004『八尾市 久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書VI』-大阪竜華都市拠点地区竜華東西線建設に伴う発掘調査-(財)大阪府文化財センター調査報告書 第118集 (財)大阪府文化財センター
- ・原田昌則他 2006「I 久宝寺遺跡(第23次調査)」『久宝寺遺跡 (財)八尾市文化財調査研究会報告89』 (財)八尾市文化財調査研究会
- ・亀井 聰徳 2007『八尾市 久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書Ⅷ-寝屋川流域下水道竜華水みらいセンター水処理施設等建設事業に伴う発掘調査他-』 (財)大阪府文化財センター調査報告書 第156集 財団法人大阪府文化財センター



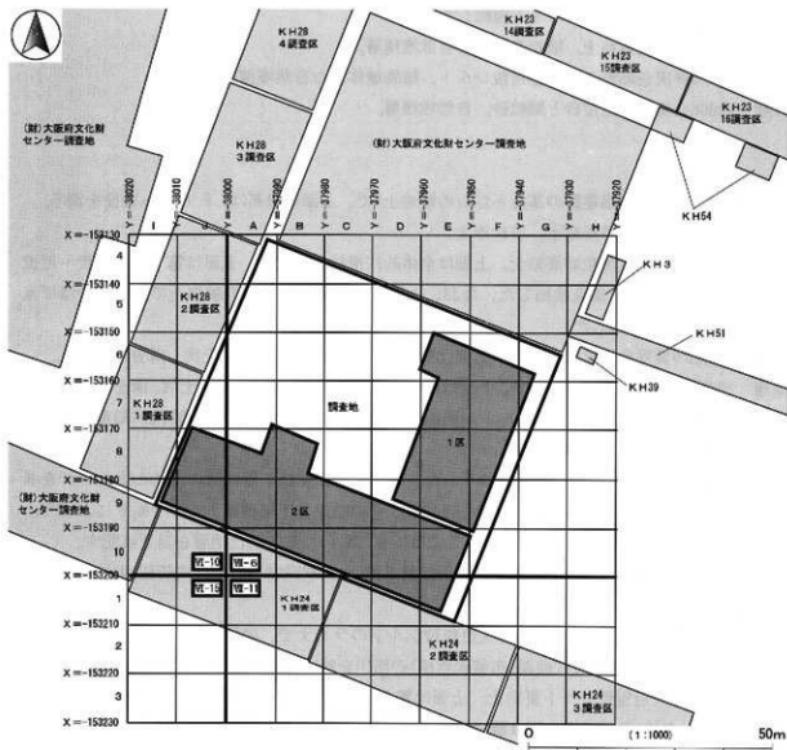
第1図 調査地周辺図

## 第2章 調査概要

### 第1節 調査の方法と経過

今回の発掘調査は共同住宅建設に伴う調査で、当研究会が久宝寺遺跡内で行った第59次調査にあたる。調査区は2箇所で、建物の南北棟を1区、東西棟を2区と呼称した。調査は1区、2区の順で行った。今回の調査地での地区割は、八尾都市計画事業大阪竜華都市拠点上地区画整理事業に伴う発掘調査を実施する際に研究会が区割りしたものを使用した。なお地区割りの詳細は研究会報告68(原田2001)を参考されたい。今回の調査地の1区はVII-6-6~10・D~G地区、2区はVII-6-8~10・A~E、VII-11-1・C~E、VI-10-8~10・I~J地区にあたる。

掘削は市教委の埋蔵文化財調査指示書に従い、現地表下約1.5m前後までを機械で掘削し、以下約0.4mの厚みの地層を人力で掘削し調査を進め、遺構および遺物の検出に努めた。出土遺物は、コンテナ(縦0.6m×横0.4m×深さ0.2m)20箱を数える。



第2図 調査区設定図および地区割図

## 第2節 層序

### 1区

- 0層 盛土(竜華操車場建設の基礎と以後の整地土)で、上面の標高はT.P.+9.0m前後を測る。
- 1層 5B3/1暗青灰色細粒砂混粘土。上面は全体的に攪拌を受ける。水田(A～C層)および島畠(I～VI層)の耕作土で地層の厚さは約0.6～0.7mである。上面は第1面。中世～近代の水田、島畠、近世の土坑を検出した。
- 2層 10YR5/6黄褐色細粒砂質粘土。上面は第2面。飛鳥～平安時代の土坑、溝を検出した。
- 3層 10YR4/2灰黃褐色細粒シルト。上面は第3面。古墳時代中期の井戸、土坑、溝を検出した。
- 4層 7.5YR5/3にぶい褐色細粒シルト～粗粒シルト。上面は第4面。古墳時代前期新相の河川を検出した。

以上で調査地全体の平面的な調査は終了した。さらに1区では下層確認のためのトレントを1箇所設定し、人力による調査を行った。その結果、遺構の検出および遺物の出土はなかった。ここでは確認した地層を以下に記す。

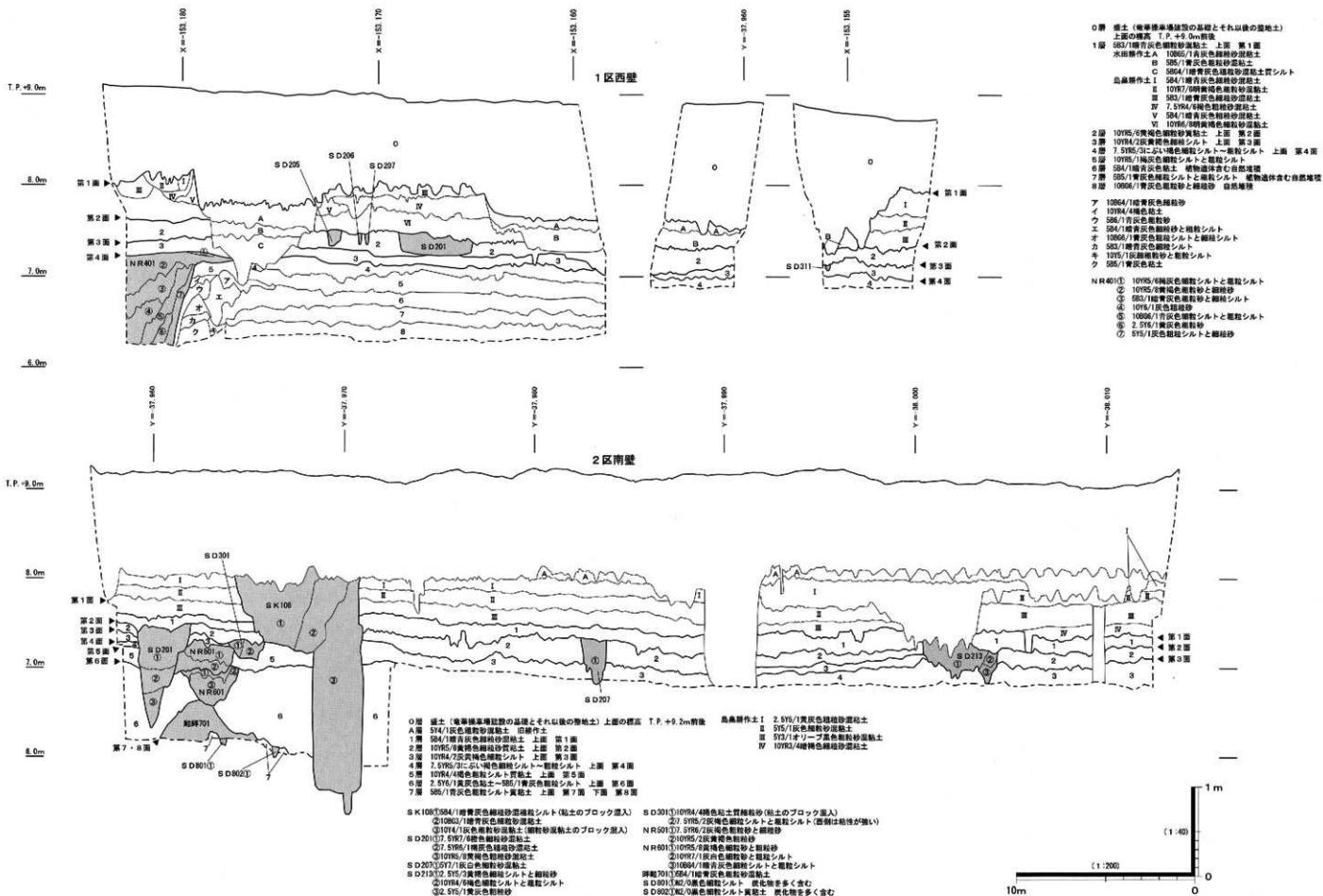
- 5層 10YR5/1褐色細粒シルトと粗粒シルト
- 6層 5B4/1暗青灰色粘土。植物遺体含む自然堆積層。
- 7層 5B5/1青灰色細粒シルトと粗粒シルト。植物遺体含む自然堆積層。
- 8層 10BG6/1青灰色粗粒砂と細粒砂。自然堆積層。

### 2区

- 0層 盛土(竜華操車場建設の基礎と以後の整地土)で、上面の標高はT.P.+9.2m前後を測る。
- A層 5Y4/1灰色粗粒砂混粘土。旧耕作土。
- 1層 5B4/1暗青灰色細粒砂混粘土。上面は全体的に攪拌を受ける。上面は第1面。中世～近世の井戸、土坑、溝を検出した。なお、1層とA層の間は島畠の耕作土で調査区のほぼ全域にわたり確認した。
- 2層 10YR5/6黄褐色細粒砂質粘土。上面は第2面。飛鳥～平安時代の土坑、溝を検出した。
- 3層 10YR4/2灰黃褐色細粒シルト。上面は第3面。古墳時代中期の井戸、土坑、溝を検出した。
- 4層 7.5YR5/3にぶい褐色細粒シルト～粗粒シルト。上面は第4面。古墳時代前期後半～中期前半の河川を検出した。

以上で調査地全体の平面的な調査は終了した。さらに2区では下層確認のためのトレントを8箇所(No.1～8)設定し、人力による調査を行った。その結果、下層確認トレントNo.6において、遺構を4面(第5面～第8面)検出した。ここではNo.6において確認した地層を以下に記す。

- 5層 10YR4/4褐色粗粒シルト質粘土。上面は第5面。古墳時代前期(布留式新相)の河川を検出した。
- 6層 2.5Y6/1黄灰色粘土～5B5/1青灰色粗粒シルトのラミナで、植物遺体含む自然堆積層。上面は第6面。古墳時代前期(布留式新相)の河川を検出した。
- 7層 5B5/1青灰色粗粒シルト質粘土。上面は第7面と第8面。第7面では古墳時代前期(布留式古～中相)の畦畔を、第8面では古墳時代前期(布留式古相)以前の溝を検出した。



第3図 1・2区地層断面図

### 第3節 検出遺構と出土遺物

#### 1区

1層上面(第1面)では、近代の土坑1基(SK101)、中世～近世の島畠4条(島畠101～104)、水田3筆(水田101～103)を検出した。2層上面(第2面)では、飛鳥時代～平安時代の土坑6基(SK201～206)・小穴2個(SP201・202)・溝11条(SD201～211)、3層上面(第3面)では、古墳時代中期の井戸1基(SE301)・土坑11基(SK301～311)・小穴19個(SP301～319)・溝11条(SD301～311)を、4層上面(第4面)で古墳時代前期後半～中期前半の河川1条(NR401)を検出した。

#### 第1面

##### SK101

VII-6-6・7E区で検出した。平面形状は南北方向に長い楕円形で、長径1.45m、短径1.1mを測る。断面形状は逆台形で、深さは0.3mを測る。中央に方形に木枠を組んでいた。枠内の埋土は10BG4/1暗青灰色粗粒砂混粘土、掘形の埋土は10YR4/4褐色細粒砂混粘土である。土坑内からは近世瓦や陶磁器の破片が出土した。

##### 島畠101～104

島畠は調査区内では東西方向に展開している。島畠の上面はT.P.+7.8～8.0mを測り、水田面からの高さは0.5～0.7mを測る。上面は攪拌を受け、砂やシルトと粘土が混ざった状態であった。検出した各島畠の詳細については表1にまとめた。

##### 水田101～103

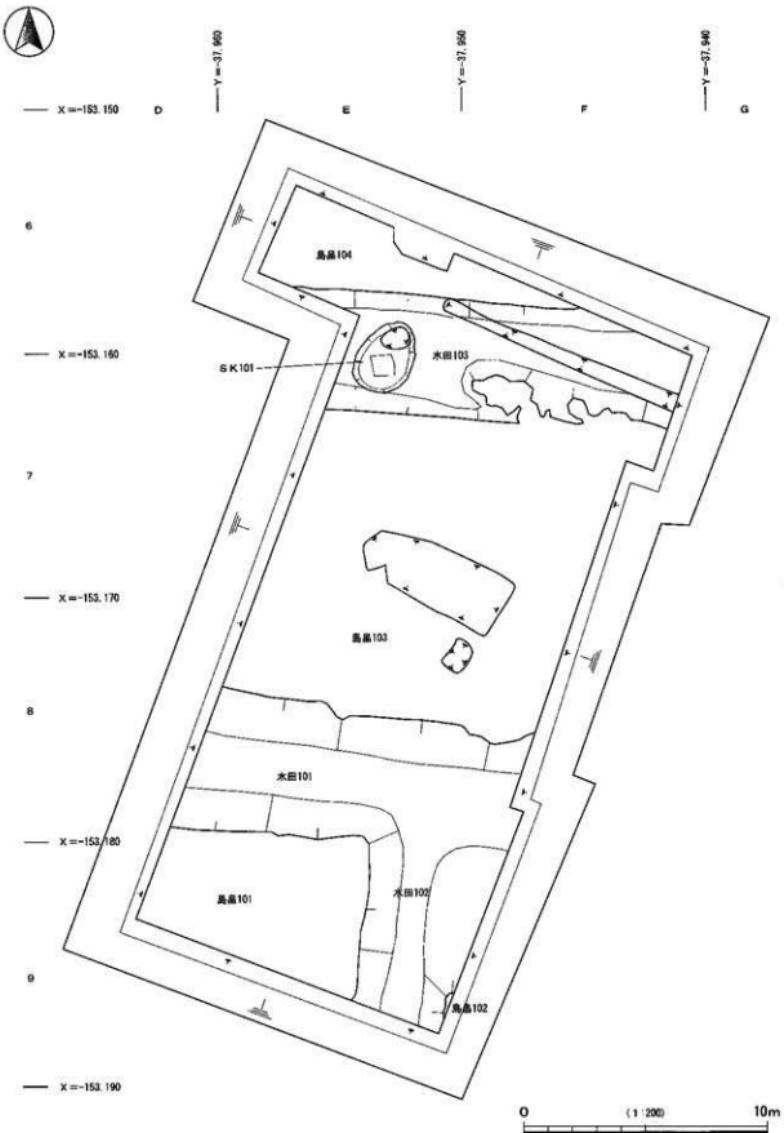
水田上面の標高はT.P.+7.7～7.8mを測る。島畠に挟まれた範囲を水田として耕作していた。水田101～103からは中世の土師器および近世の陶磁器や瓦の破片が出土した。このうち図化したもののは水田101出土の土師器小皿(1)・土鍾(2)、水田103出土の土師器小皿(3)・瓦器小皿(4)である。なお、検出した各水田の詳細については表2にまとめた。

表1 1区第1面島畠一覧表

遺構番号	地区	平面形状	規模(m)	断面形状	高さ(m)	堆積土
島畠101	VII-6-8-9D-E	南西部分は調査区外に至る東西幅9.0以上、南北幅6.7台形 検出した平面形状は東西方向以上に長い長方形			0.6	上から10YR4/4褐色細粒砂混粘土 7.5YR3/4暗青灰色粗粒砂混粘土 7.5YR4/3褐色細粒シルト質粘土
島畠102	VII-6-9C	東部部分は調査区外に至る東西幅6.0以上、南北延1.0台形 以上に長い長方形			0.7	上から10YR4/4褐色細粒砂混粘土 7.5YR3/4暗青灰色粗粒砂混粘土 7.5YR4/3褐色細粒シルト質粘土
島畠103	VII-6-7-BE-F	東西両側は調査区外に至る東西幅14.0以上、南北幅12.5台形 検出した平面形状は東西方向以上に長い長方形			0.5	上から10YR4/4褐色細粒砂混粘土 7.5YR3/4暗青灰色粗粒砂混粘土 7.5YR4/3褐色細粒シルト質粘土
島畠104	VII-6-6E-F	北西部分は調査区外に至る東西幅13.0以上、南北幅4.0台形 以上に長い長方形			0.6	上から10YR4/4褐色細粒砂混粘土 7.5YR3/4暗青灰色粗粒砂混粘土 7.5YR4/3褐色細粒シルト質粘土

表2 1区第1面水田一覧表

遺構番号	地区	平面形状	規模(m)	区画する島畠	耕作土
水田101	VII-6-8E-F	東西両側は調査区外に至る東西幅13.0以上、南北幅島畠101、島畠102、島畠103 検出した平面形状は東西方向4.0以上に長い長方形			上から10BG5/1暗青灰色細粒砂混粘土、 5BG5/1暗青灰色粗粒砂混粘土、 暗青灰色粗粒砂混粘土質シルト
水田102	VII-6-9D-F	南東は調査区外に至る東西幅6.0以上、南北幅7.0島畠101、島畠102 以上に長い長方形			上から10BG5/1暗青灰色細粒砂混粘土、 5BG5/1暗青灰色粗粒砂混粘土
水田103	VII-6-7E-F	東西両側は調査区外に至る東西幅14.0以上、南北幅島畠103、島畠104 以上に長い長方形			上から10BG5/1暗青灰色細粒砂混粘土、 5BG5/1暗青灰色粗粒砂混粘土



第4図 1区第1面平面図

## 第2面

## SK201~204

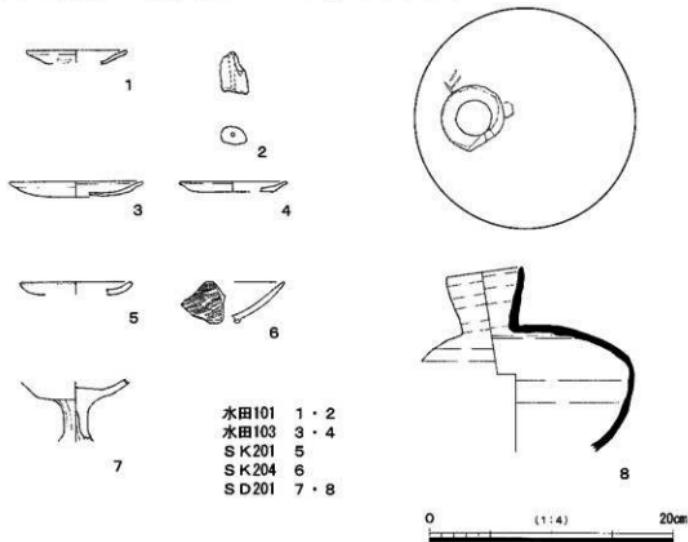
平面形状は橢円形と円形に分けられ、断面形状は逆台形で、埋土は全て単一層である。各土坑の検出状況からは規模や方向などの規則性は見受けられなかった。各土坑内からは土師器や須恵器の破片が出土した。このうち図化したものはSK201出土の土師器小皿(5)、SK204出土の黒色土器碗(6)である。なお、検出した各土坑の詳細については表3にまとめた。

## SP201・202

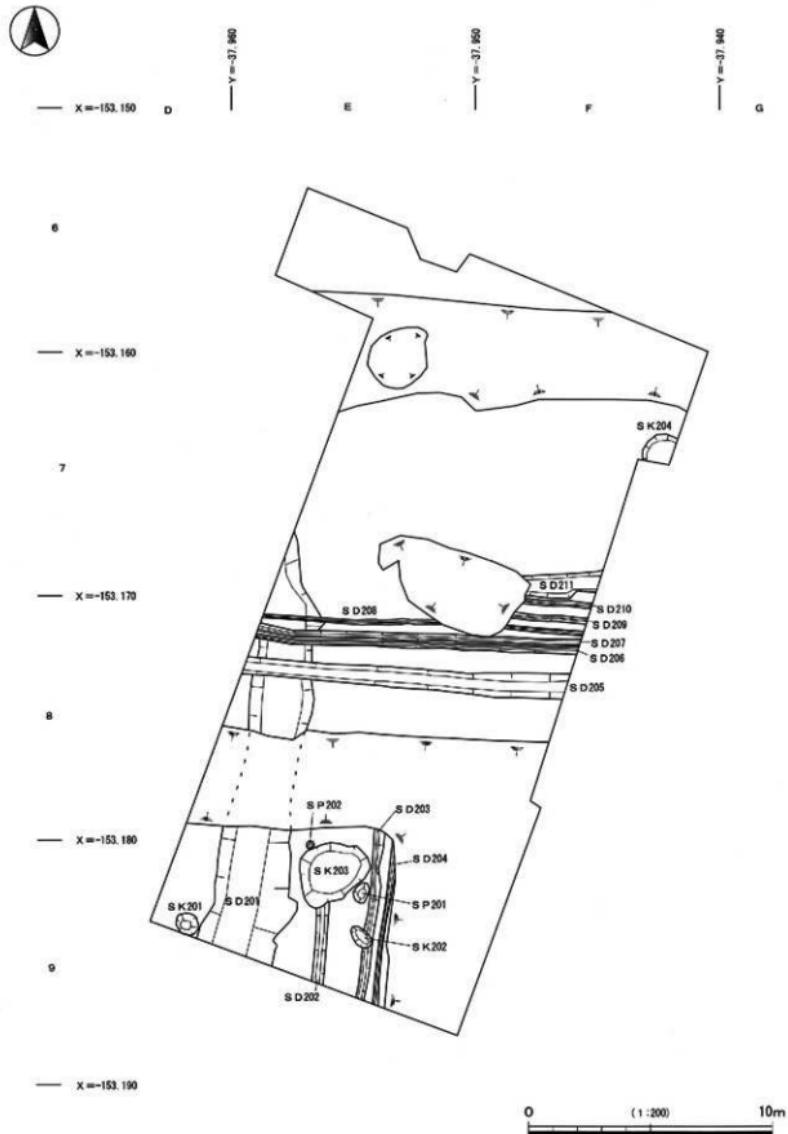
平面形状は橢円形と円形に分けられ、断面形状は逆台形で、埋土は全て単一層である。各小穴の検出状況からは規模や方向などの規則性は見受けられなかった。SP201からは土師器や須恵器の破片が出土した。なお、検出した各小穴の詳細については表4にまとめた。

## SD201~211

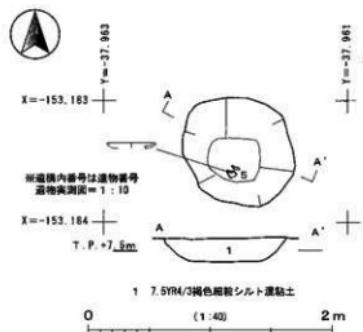
平面形状は南北と東西に直線に伸び、断面形状は逆台形である。埋土はSD201が3層、SD202~211は単一層である。SD202~211は形状および規模から耕作に伴う可能性がある。SD201・205・206からは土師器および須恵器の破片が出土した。このうち図化したものはSD201出土の土師器高杯(7)、須恵器平瓶(8)である。8は体部上位にヘラ記号がある。飛鳥時代(飛鳥III)に比定できる。なお、検出した各溝の詳細については表5にまとめた。



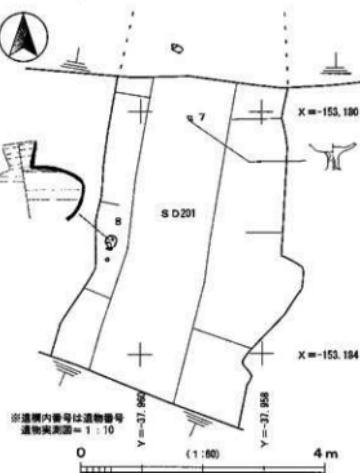
第5図 1区水田101・103、SK201・204、SD201出土遺物実測図



第6図 1区第2面平面図



第7図 1区SK201平・断面図



第8図 1区SD201遺物出土状況平面図

表3 1区第2面土坑一覧表

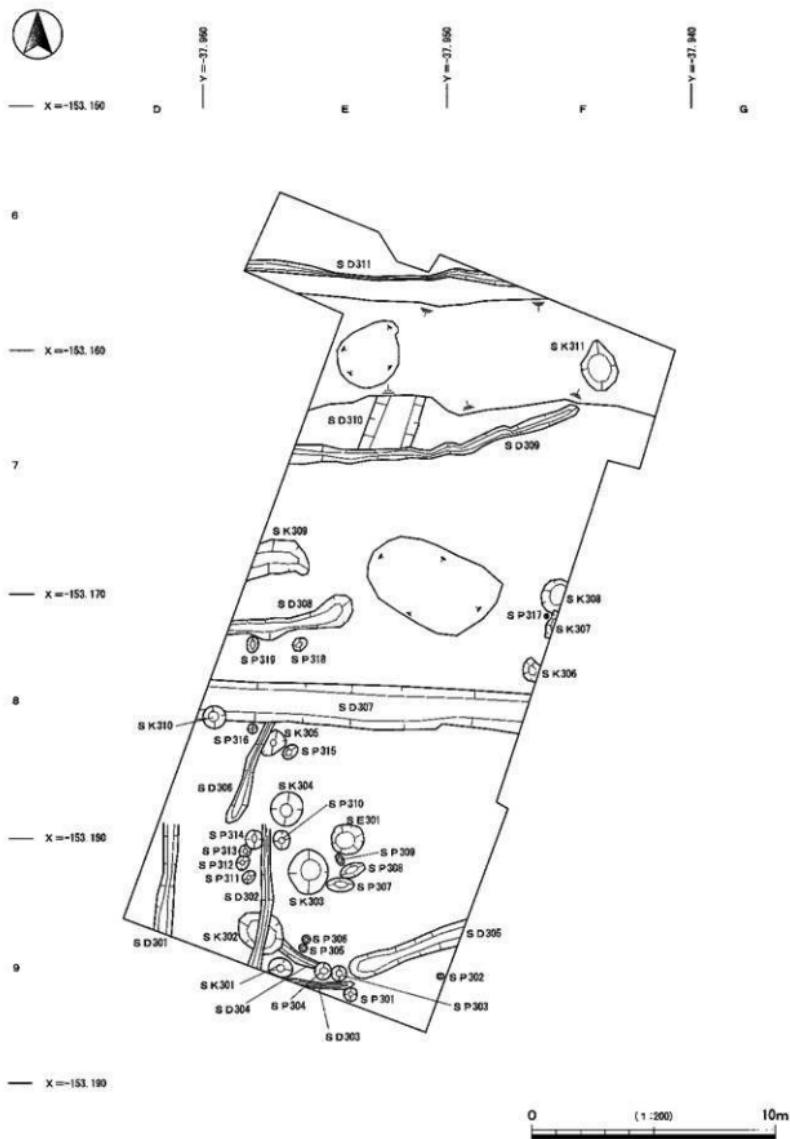
遺構番号	地区	平面形状	長径(m)	短径(m)	深(m)	断面形状	深さ(m)	埋土	出土遺物
SK201	Ⅳ-6-90	東西方向に長い楕円形	1.0	0.5	—	逆台形	0.19	7.5YR4/3褐色細粒シルト混粘土 シルト混粘土	上師器
SK202	Ⅳ-6-96	東西方向に長い楕円形	1.1	0.6	—	逆台形	0.06	7.5YR4/3褐色細粒 シルト混粘土	上師器、瓦
SK203	Ⅳ-6-96	東西方向に長い楕円形	2.9	2.7	—	逆台形	0.12	7.5YR4/3褐色細粒 シルト混粘土	土師器、瓦
SK204	Ⅳ-6-77	南北側は洞庭区外に来る 由した形状は半円形	—	—	1.2m以上	逆台形	0.1以上	10YR4/6褐色細粒砂 混粘土	上師器、瓦

表4 1区第2面小穴一覧表

遺構番号	地区	平面形状	長径(m)	短径(m)	深(m)	断面形状	深さ(m)	埋土	出土遺物
S P201	Ⅳ-6-96	南北方向に長い楕円形	0.8	0.6	—	逆台形	0.09	7.5YR4/3褐色細粒 シルト混粘土	上師器、瓦
S P202	Ⅳ-6-96	円形	—	—	0.3	逆台形	0.07	7.5YR4/3褐色細粒 シルト混粘土	なし

表5 1区第2面溝一覧表

遺構番号	地区	平面形状	幅(m)	断面形状	深さ(m)	埋土	出土遺物
S D201	Ⅳ-6-90 E	南北方向に直線に伸びる	2.5~3.5	逆台形	0.36	上から7.5YR7/6褐色細粒砂混粘土 7.5YR6/1褐色細粒砂混粘土 10YR5/8褐色細粒砂混粘土	上師器、須恵器
S D202	Ⅳ-6-96	南北方向に直線に伸びる	0.45~0.5	逆台形	0.05	7.5YR6/1褐色細粒砂混粘土	なし
S D203	Ⅳ-6-96	南北方向に直線に伸びる	0.35~0.4	逆台形	0.12	7.5YR6/1褐色細粒砂混粘土	なし
S D204	Ⅳ-6-96	南北方向に直線に伸びる	0.2~0.25	逆台形	0.08	7.5YR6/1褐色細粒砂混粘土	なし
S D205	Ⅳ-6-96-F	東西方向に直線に伸びる	1.0~1.2	逆台形	0.2	7.5YR7/6褐色細粒砂混粘土	土師器、須恵器
S D206	Ⅳ-6-96-F	東西方向に直線に伸びる	0.35~0.4	逆台形	0.06	5Y5/1灰色粗粒シルト混粘土	土師器、瓦等
S D207	Ⅳ-6-96-F	東西方向に直線に伸びる	0.2	逆台形	0.05	5Y5/1灰色粗粒シルト混粘土	なし
S D208	Ⅳ-6-96-F	東西方向に直線に伸びる	0.24	逆台形	0.05	5Y5/1灰色粗粒シルト混粘土	なし
S D209	Ⅳ-6-8F	東西方向に直線に伸びる	0.22	逆台形	0.06	5Y5/1灰色粗粒シルト混粘土	なし
S D210	Ⅳ-6-8F	東西方向に直線に伸びる	0.32	逆台形	0.06	5Y5/1灰色粗粒シルト混粘土	なし
S D211	Ⅳ-6-7-8F	東西方向に直線に伸びる	0.8~1.0	逆台形	0.1	5YR4/6褐色細粒砂混粘土	なし

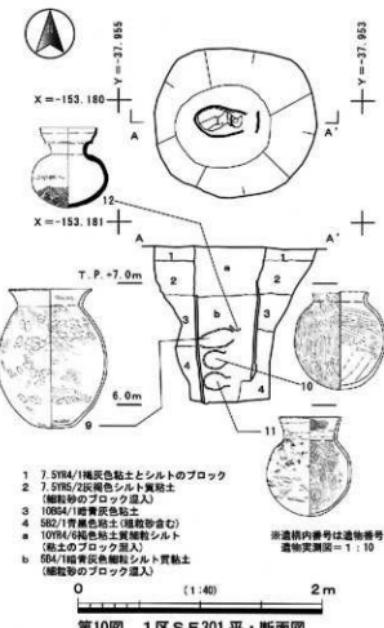


第9図 1区第3面平面図

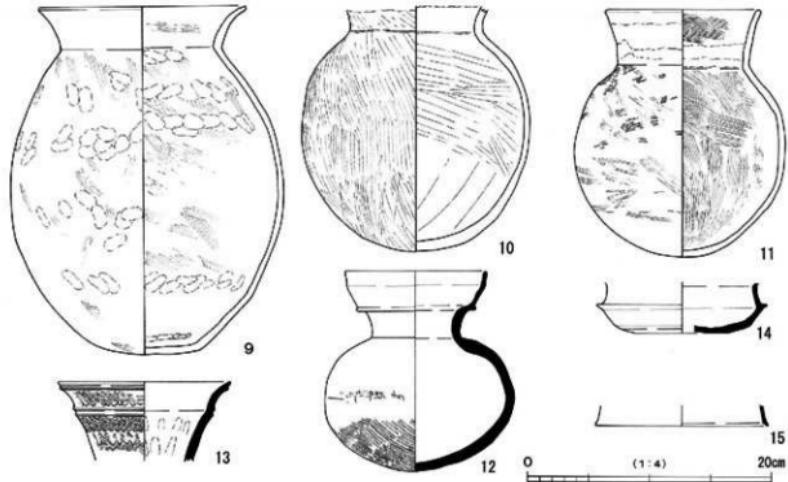
## 第3面

S E 301

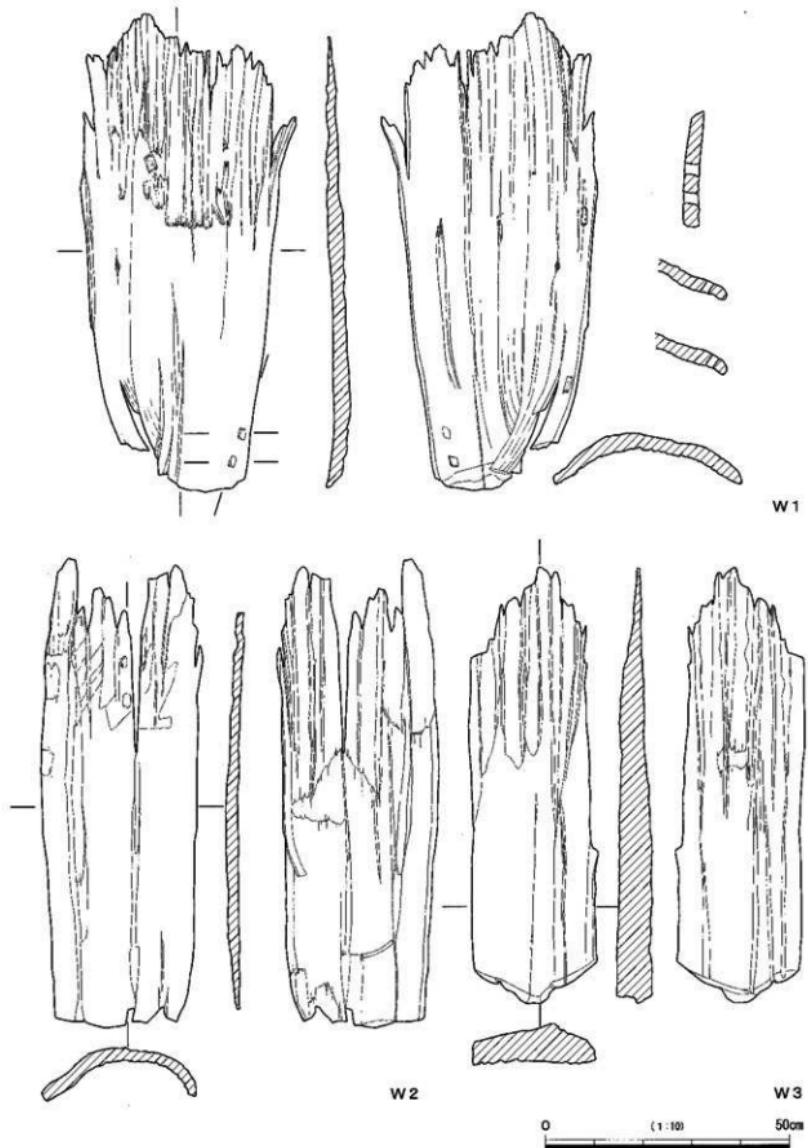
VII-6-8・9E地区で検出した。平面形状は東西方向に長い橢円形で、長径1.33m、短径1.22mを測る。断面形状は逆台形で、深さ約1.3mを測る。検出面から約0.3m下で井戸枠を検出した。井戸枠には木製の板を3枚(W1~3)使用していた。井戸枠の高さは約1.0mを測る。井戸枠内の埋土は上から10YR4/6褐色粘土質細粒シルト(粘土のブロック混入)、5B4/1暗青灰色細粒シルト質粘土(細粒砂のブロック混入)である。掘形の埋土は上から7.5YR4/1褐色粘土とシルトのブロック、7.5YR5/2灰褐色シルト質粘土(細粒砂のブロック混入)、10BG4/1暗青灰色粘土、5B2/1青黒色粘土(粗粒砂含む)である。井戸枠内からは須恵器の壺や土師器の甕などが出土した。このうち図化したものは土師器甕(9~11)、須恵器壺(12・13)・須恵器杯蓋(14)・須恵器杯蓋(15)、木製板材(W1~3)である。9~11は井戸枠内のはば中央に横向きで積重なった状態で出土した。



第10図 1区 S E 301 平・断面図



第11図 1区 S E 301 出土遺物実測図①



第12図 1区S E301出土遺物実測図②

表6 1区第3面土坑一覧表

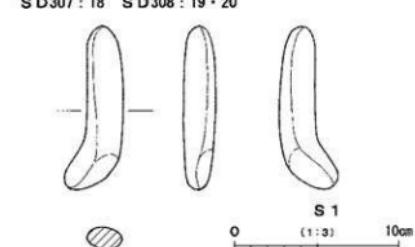
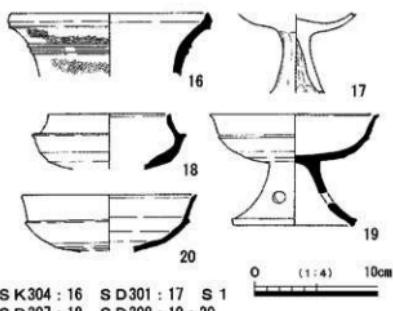
遺構番号	地区	平面形状	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	断面形状	埋土	出土遺物
S K301	VII-6-9E	東西方向に長い楕円形	1.05	0.8	0.11	逆台形	10YRS/6 黄褐色細粒シルト質粘土 粗粒シルトのロック混入	なし
S K302	VII-6-9E	東西方向に長い楕円形	1.9	1.6	0.12	逆台形	2.5Y5/1 黄褐色粗粒砂塵粘土	なし
S K303	VII-6-9E	円形			1.75	逆台形	0.2 10YR5/8 黄褐色粗粒砂塵粘土	土師器・須恵器
S K304	VII-6-9E	円形			1.3	逆台形	0.19 10YR5/8 黄褐色粗粒砂塵粘土	土師器・須恵器
S K305	VII-6-9E	南北方向に長い楕円形 S D 330に切られる	SD 1.1	0.8	0.11	逆台形	7.5YR5/1 暗灰色粗粒シルト混粘土	土師器
S K306	VII-6-8F	南北方向に長い楕円形	1.0	0.75	0.12	逆台形	2.5Y4/1 黄褐色粗粒砂塵粘土	なし
S K307	VII-6-8F	南北方向に長い楕円形 S K 326を切る	S K 1.2	0.7	0.05	逆台形	2.5Y4/1 黄褐色粗粒砂塵粘土	なし
S K308	VII-6-8F	南北方向に長い楕円形 S K 324に切られる	S K 1.5	1.2	0.04	逆台形	2.5Y3/2 黑褐色粗粒砂塵粘土	なし
S K309	VII-6-7E	東西方向に長い楕円形	2.6	1.3	0.26	逆台形	10YR4/6 暗色粗粒シルト混粘土	土師器・須恵器
S K310	VII-6-8D+E	円形 S D 307を切る			1.0	逆台形	5Y4/1 暗色粗粒シルト混粘土	土師器
S K311	VII-6-7F	南北方向に長い楕円形	2.1	1.5	0.12	逆台形	5Y5/1 暗色粗粒砂塵粘土	なし

表7 1区第3面小穴一覧表

遺構番号	地区	平面形状	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	断面形状	埋土	出土遺物
S P301	VII-6-9E	円形			0.5m	逆台形	10YR5/6 黄褐色細粒シルト質粘土 粗粒シルトのロック混入	なし
S P302	VII-6-9E	円形			0.2	逆台形	10YR5/6 黄褐色細粒シルト質粘土 粗粒シルトのロック混入	なし
S P303	VII-6-9E	円形			0.6	逆台形	10YR5/6 黄褐色細粒シルト質粘土 粗粒シルトのロック混入	なし
S P304	VII-6-9E	円形 S D 304を切る			0.65	逆台形	10YR5/6 黄褐色細粒シルト質粘土 粗粒シルトのロック混入	なし
S P305	VII-6-9E	円形			0.4	逆台形	10YR5/6 黄褐色細粒シルト質粘土 粗粒シルトのロック混入	なし
S P306	VII-6-9E	円形			0.3	逆台形	10YR5/6 黄褐色細粒シルト質粘土 粗粒シルトのロック混入	なし
S P307	VII-6-9E	東西方向に長い楕円形	0.93	0.6	0.06	2.5Y4/6 オリーブ褐色粗粒砂塵粘土	土師器	
S P308	VII-6-9E	東西方向に長い楕円形	0.95	0.6	0.07	2.5Y4/6 オリーブ褐色粗粒砂塵粘土	なし	
S P309	VII-6-9E	南北方向に長い楕円形	0.5	0.37	0.15	2.5Y4/6 オリーブ褐色粗粒砂塵粘土	なし	
S P310	VII-6-8-9E	円形			0.7	逆台形	10YR5/8 黄褐色粗粒砂塵粘土	土師器・須恵器
S P311	VII-6-9E	円形			0.45	逆台形	7.5YR5/1 暗灰色粗粒シルト混粘土	なし
S P312	VII-6-9E	円形 S K318を切る			0.55	逆台形	0.07 7.5YR5/1 暗灰色粗粒シルト混粘土	なし
S P313	VII-6-9E	円形 S K317とS K319に切られる			0.45	逆台形	0.08 2.5Y5/4 黄褐色粗粒シルト混粘土	なし
S P314	VII-6-8-9E	円形 S K318を切る			0.75	逆台形	0.08 7.5YR5/1 暗灰色粗粒シルト混粘土	なし
S P315	VII-6-9E	南北方向に長い楕円形	0.7	0.5	0.11	逆台形	7.5YR5/1 暗灰色粗粒シルト混粘土	なし
S P316	VII-6-8E	円形			0.35	逆台形	0.13 7.5YR5/1 暗灰色粗粒シルト混粘土	土師器
S P317	VII-6-8F	円形			0.36	逆台形	0.08 2.5Y4/1 黄褐色粗粒砂塵粘土	なし
S P318	VII-6-8E	南北方向に長い楕円形	0.6	0.4	0.09	逆台形	10YR7/1 暗灰色粗粒砂塵粘土	なし
S P319	VII-6-8E	南北方向に長い楕円形	0.6	0.47	0.05	逆台形	10YR7/1 暗灰色粗粒砂塵粘土	なし

出土遺物から遺構の時期は5世紀中頃に比定できる。9~11の体部外面には煤が、内面には焦げが付着しており、付着状況から、浮き置きで煮炊きしている可能性が高い。また、体部外面の上位には側面からの加熱の痕跡が見られる。

註1 9~11の表面観察においては、北陸学院大学小林正史教授からご教示いただいた。記して感謝いたします。



第13図 1区 S K304、S D301・307・308出土遺物実測図

### S K301~311

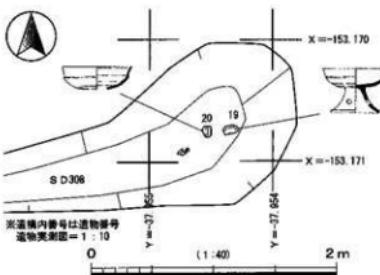
平面形状は橢円形と円形に分けられ、断面形状は逆台形で、埋土は全て單一層である。各土坑の検出状況からは規模や方向などの規則性は見受けられず遺構の性格は不明である。S K303~305・309・310からは土師器および須恵器の破片が出土した。このうち図化したものはS K304出土の須恵器壺(16)である。なお、検出した各土坑の詳細については表6にまとめた。

### S P301~319

平面形状は橢円形と円形に分けられ、断面形状は逆台形で、埋土は全て單一層で、深さ0.05~0.13mと浅い。各小穴はVII-6~8E地区以南で検出したが、建物などを構成する柱はなく、検出状況からは規模や方向などの規則性は見受けられなかった。S P301~303・307・308・313・314・316からは土師器および須恵器の破片が出土したが、図化できるものはなかった。なお、検出した各小穴の詳細については表7にまとめた。

### S D301~311

平面形状は東西と南北に直線に伸びるものと、弧状に伸びるものがあり、断面形状は逆台形である。埋土は全てが單一層である。S D307は深さ0.3mと比較的深く、この溝から南部に井戸、土坑、小穴が多く存在しており、居住域を区画する溝の可能性がある。S D301・305・307~311からは土師器および須恵器の破片が出土した。このうち図化したものはS D301出土の土師器高杯(17)、石製品(S 1)、S D307出土の須恵器杯身(18)、S D308出土の須恵器高杯(19・20)である。なお、検出した各土坑の詳細については表8にまとめた。



第14図 1区 S D308遺物出土状況平面図

表8 1区第3面溝一覧表

遺構番号	地区	平面形状	幅(m)	断面形状	深さ(m)	埋土	出土遺物
S D 301	VII-6-8-90	南北方向に直線に伸びる	0.5~0.7	逆台形	0.15	7.5YR4/3褐色細粒砂混粘土	土師器・須恵器・石
S D 302	VII-6-8-90	南北方向に直線に伸びる	0.3~0.4	逆台形	0.11	7.5YR4/3褐色細粒砂混粘土	なし
S D 303	VII-6-9E	東西方向に弧線に伸びる	0.26	逆台形	0.06	7.5YR4/3褐色細粒砂混粘土	なし
S D 304	VII-6-9E	東西方向に直線に伸びる S K 309とS K 308に切られる	0.3	逆台形	0.1	7.5YR5/1褐色細粒シルト混粘土	なし
S D 305	VII-6-9E-F	東西方向に直線に伸びる	0.8	逆台形	0.13	5Y4/1灰色細粒シルト混粘土	土師器
S D 306	VII-6-8E	南北方向に直線に伸びる	0.4~0.6	逆台形	0.11	10B6/3/1暗青灰色細粒シルト層	なし
S D 307	VII-6-8D-F	東西方向に直線に伸びる	1.5~1.7	逆台形	0.3	2.5Y5/6黃褐色細粒砂混粘土	土師器・須恵器
S D 308	VII-6-8E	東西方向に直線に伸びる	0.5~0.9	逆台形	0.12	7.5YR6/1褐色細粒砂混粘土	土師器・須恵器
S D 309	VII-6-7E-F	東西方向に蛇行して伸びる	0.6	逆台形	0.09	5Y5/1灰色細粒砂混粘土	土師器・須恵器
S D 310	VII-6-7E	南北方向に直線に伸びる	1.9	逆台形	0.14	10YR1/6褐色細粒砂混粘土	土師器・須恵器
S D 311	VII-6-6E-F	東西方向に蛇行して伸びる	0.1~0.5	逆台形	0.1	5Y5/1褐色細粒砂混粘土	土師器・須恵器

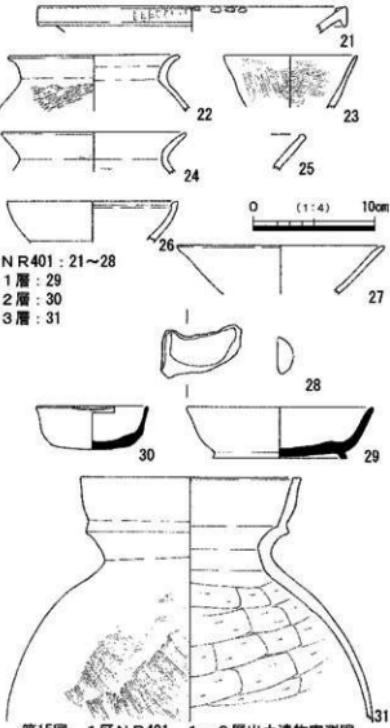
## 第4面

## N R 401

VII-6-8・9 d ~ f 地区で検出した。平面形状は南東→北西方向に蛇行して伸びる。幅は2区で検出したN R 401と合わせると約16.0mである。断面形状は逆台形で、深さ約0.85mを測る。埋土は細粒～粗粒シルト、細粒～粗粒砂の流水堆積である。埋土からは弥生土器、土師器が出土した。このうち図化したものは、弥生土器壺(21)・甕(22)、古式土師器壺(23)・壺(24～26)・高杯(27)、土師器の額か鍋の把手(28)である。遺構の時期は古墳時代前期後半～中期前半に比定できる。

## 遺構に伴わない出土遺物

1層からは土師器・瓦器・須恵器・瓦、2層からは土師器・須恵器、3層からは土師器・須恵器が出土した。このうち図化したものは1層出土の須恵器杯身(29)、2層出土の須恵器杯身(30)、3層出土の古式土師器(布留式)壺(31)である。30は飛鳥時代(飛鳥Ⅲ)に、31は古墳時代前期(布留式)に比定できる。



第15図 1区N R 401、1~3層出土遺物実測図



— X = -153.150

D

— Y = -37.960

E

— Y = -37.950

F

— Y = -37.940

G

6

— X = -153.160

下黒塙トレンチ

7

— X = -153.170

8

— X = -153.180

NR401

9

— X = -153.190

0 (1:200) 10m

第16図 1区第4面平面図

表9 出土遺物観察表(1)

遺物 番号 回版 番号	遺構	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
1 水田 101	土師器 小皿 口縁部	口径9.0 高さ1.2	底部は平らである。口縁部は外反し丸く終わる。口縁部および10VR7/3にぶい黄 底の内外面はニビナデを施す。口縁部の内面には煤が付着。縁色 している。	10VR7/3にぶい黄	1 mm の砂粒 を含む。	良好		
2 水田 101	土鉢	長さ3.4 幅2.3 厚み1.6 孔径0.3	平面形状は欠損しており不明である。断面形状は卵形で、中央2.5VR7/8褐色 に丸い孔があけられている。	2 mm の砂粒 を含む。	良好			
3 水田 103	土師器 小皿 口縁部	口径11.8 高さ1.3	底部は上げ底である。口縁部は2段に肩出し、外反し丸く終わる。2.5VS6/1灰白色 底の内外面はニビナデを施す。口縁部の内 外面上には煤が付着している。	2.5VS6/1灰白色	1 mm の砂粒 を含む。	良好		
4 水田 103	瓦器	口徑9.0 高さ0.9	底部は上げ底である。口縁部は外反し丸く終わる。口縁部より上2/0墨色 底の内外面はニビナデを施す。	2/0墨色	1 mm の砂粒 を含む。	良好		
5 SK 201	土師器 小皿 口縁部	口径9.6 高さ1.1	底部は平らである。口縁部の内外面は丸く終わる。口縁部およそ7.5VS6/6褐色	7.5VS6/6褐色	1 mm の砂粒 を含む。	良好		
6 SK 204	黒色土器 碗 口縁部		両面の黒色上器である。体部は内薄する。口縁部は丸く終わる。2/0墨色 底の内外面はニビナデを施す。	2/0墨色	1 mm の砂粒 を含む。	良好		
7 SD 201	土師器 高杯 脚部		体部は平らである。脚部は筒状で、「ハ」の字にひらく脚部がTYS5/9明赤褐色 付く。新部の内外面と脚部の内面はニビナデ。脚部の外表面はヘラミガキ。脚部の内面はヘラミガキである。	TYS5/9明赤褐色	1 ~ 2 mm の 砂粒を含む。	良好		
8 SD 201	須恵器 平瓶 口縁一部 體	口径6.6	体部は丸みのある逆台形である。口縁部は内側両方に外上方へ伸びる。 伸びる。端部は丸く終わる。口縁部および体部の内外面は明軽 ナデを施す。体部の外表面はヘラ状工具による記号文がある。	6B6/1青灰色	1 ~ 3 mm の 砂粒を含む。	良好		
9 SE 301	土師器 燒 光形	口径16.8 高さ28.4	体部は長い棒状形である。口縁部は外反する。端部は丸みのある7.5VS5/1褐灰色 ある面を形成する。口縁部の内面はケカナデのちヨコナデ。外表面 はヨコナデを施す。体部の外表面はヘカナデのちニビナデを施す。 体部外には煤が、内面には無げが付着している。	7.5VS5/1褐灰色	1 ~ 3 mm の 砂粒を含む。	良好		
10 SE 301	土師器 甕 ほぼ完形 (口縁部欠 損)	口径18.8	体部は横長の筒形である。口縁部は外反する。端部は丸みのある10VR6/3にぶい黄 色はケカナデのちヨコナデ。体部の内凹では棒状工具によくナ デ。上位はヘカナデを施す。外表面はケカナデを施す。体部外 には煤が、内面には無げが付着している。	10VR6/3にぶい黄 色	1 ~ 2 mm の 砂粒を含む。	良好		
11 SE 301	土師器 甕 ほぼ完形 性 17.2	口径12.4 高さ20.2	体部は横長の筒形である。口縁部は外反する。端部は面を形成する10VR6/3にぶい黄 する。口縁部の内外面はヨコナデを施す。粘土接合の跡點がある 。体部の内面はニビナデ後ヘカナデ。外見はタキキのちケ ナデを施す。	10VR6/3にぶい黄 色	1 ~ 3 mm の 砂粒を含む。	良好		
12 SE 301	須恵器 盃 充形	口径11.6 高さ16.2 体部最大 径 15.5	体部は横長の筒形である。口縁部は裏出しをもち内湾しながら 外上方へ伸びる。口縁部の内外面は回転ナデを施す。体部の 内外面は回転ナデを施す。外見はタキキのちケ ナデを施す。	6B6/1青灰色	1 mm の砂粒 を含む。	良好		
13 SE 301	須恵器 盃 口縁部	口径14.0	口縁部は外反する。端部は面を形成する。口縁部の内外面は回 転ナデを施す。外側の端部と中央部に2条の突起文を施し、そ の間に波状文を施す。	N5/0灰白色	1 ~ 3 mm の 砂粒を含む。	良好		
14 SE 301	須恵器 杯身 受部	受 頂 14.0	底部は上げ底である。体部は内薄する。受部は水平に伸び、端 部は尖りぎみに丸く終わる。口縁部は外反する。口縁部、受部 の外表面は回転ナデを施す。体部の内面は回転ナデ、外表面は回 転ナシケクリを施す。	6B6/1青灰色	1 mm の砂粒 を含む。	良好		
15 SE 301	須恵器 杯身 口縁部	口径14.0	口縁部は外下方へ弧線的に伸びる。端部の内面には回転状にく ぼむ形がある。口縁部の内外面は回転ナデを施す。	6B6/1青灰色	1 mm の砂粒 を含む。	良好		
W1 SE 301	板状木製 品	長さ98.0 幅43.3 厚み3.6	平面形状は長方形の板状である。下部に方形の孔が2箇所あけ られている。断面形状は二日月形である。				井戸 棚 No.1	
W2 SE 301	板状木製 品	長さ95.8 幅31.5 厚み3.0	平面形状は上部欠損していることから不明であるが、長方形の 板状になると思われる。断面形状は二日月形である。				井戸 棚 No.2	
W3 SE 301	板状木製 品	長さ90.2 幅25.4 厚み8.0	平面形状は上部欠損していることから不明であるが、長方形の 板状になると思われる。断面形状は丸形である。				井戸 棚 No.3	

表10 出土遺物観察表(2)

遺物 番号 図版 番号	遺構	基種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
16 SK 304 10	須恵器 盃 口縁部	口径16.0	口縁部は外反する。縁部は曲を形成する。縁面は凹縫状にくぼむ。 口縁部の内外面は凹縫ナデを施す。外底には2条の突脊文を施し、奥底の上位と下位に波状文を施す。	5B6/1青灰色	1~3mmの砂粒を含む。	良好		
17 SD 301	土師器 高杯 脚部		杯部は平らである。 脚部の脚部で、「ハ」の字に外下方へ伸びる。 杯部および脚部の内外面はユビナデを施す。脚部の内面にはしづばり目がある。	5W6/8橙色	1mmの砂粒を含む。	良好		
S 1 SD 301	石製品 片?	長さ8.4 幅3.0 厚さ1.6	L字に曲がる平皿形状で、断面は橢円形である。全面磨いており滑らかである。	10W8/2灰白色				
18 SD 307	須恵器 杯身 口縁部	口径10.0	体部は内方する。口縁部は内上方へ外反して伸びる。縁部は曲を形成する。受部は水平に伸びる。 口縁部の内外面および体部の内面は凹縫ナデ。体部の外側下位は凹輪ケズリ、上位は凹輪ナデを施す。	5B3/1暗青灰色	1~7mmの砂粒を含む。	良好		
19 SD 308 10	須恵器 高杯 口縁部	口径13.6 器高1.1 厚さ6.6	杯部は平らである。口縁部は外上方へ外反して伸びる。縁部は外へつまみ出し山面を形成する。脚部は浅形で、「ハ」の字に外下方へ伸びる。 脚部部は底を削る。杯部および脚部の内外面はユビナデを施す。脚部にはユビカシ孔が3方向にあけられている。	5B6/1青灰色	1mmの砂粒を含む。	良好		
20 SD 308	須恵器 高杯 口縁部	口径14.0 器高4.6	杯部は平らである。口縁部は外上方へ直線的に伸びる。縁部は外上方へつまみ出し山面を形成する。杯部の外側面は凹輪ナデを施す。	5G7/1明緑灰色	1~3mmの砂粒を含む。	良好		
21 NR 401	須恵器 (中附) 盃 口縁部	口径25.0	口縁部は直線的に外上方へ伸びる。縁部は曲を形成する。口縁部の端面は磨耗して不明瞭であるが、縦状文を施すと思われる。 口縁の縁部内面には凹輪形文を4粒+aを貼り付ける。	10W5/4に赤い 砂粒を含む。 (生焼西窓裏)	1~4mmの砂粒を含む。	良好		
22 NR 401	須生(上部 (後期) 壺 口縁部	口径13.8	口縁部は外反する。縁部は丸く終わる。 口縁部の内外面はヨコナデを施す。体部の内面はユビナデ、外側はタキガを施す。	2.5V8/3淡黄色	1~3mmの砂粒を含む。	良好		
23 NR 401	古式土師器 (布袋式) 盃 口縁部	口径10.8	口縁部は外上方に直線的に伸びる。縁部は丸く終わる。口縁部の内面は横方向のハケナデのちヨコナデ、外側斜方向のハケナデのちヨコナデを施す。	5T7/1灰白色	1~2mmの砂粒を含む。	良好		
24 NR 401	古式土師器 (布袋式) 甕 口縁部	口径15.0	口縁部は「ハ」の字に屈曲し外反する。二段脚の内面はユビナデ、外側はヨコナデのちハケナデを施す。体部の外側はハケナデを施す。体部の内面は粘土接合の痕跡がある。	10W8/6黄褐色	1mmの砂粒を含む。	良好		
25 NR 401	古式土師器 (布袋式) 甕 口縁部		口縁部は内溝ぎみに外上方へ伸びる。縁部は肥厚し面を形成する。縁面は凹縫状にくぼむ。 口縁部の内外面は凹輪ナデを施す。	10W7/8黄褐色	1~2mmの砂粒を含む。	良好		
26 NR 401	古式土師器 (布袋式) 甕 口縁部	口径14.0	口縁部は内溝する。縁部は肥厚し面を形成する。口縁部の内外面はヨコナデを施す。外側には焼が付着している。	2.5V8/1黄灰色	1~3mmの砂粒を含む。	良好		
27 NR 401	古式土師器 (布袋式) 高杯 口縁部	口径16.8	口縁部は外反する。縁部は丸く終わる。口縁部の内外面はヘラミガキ施すと思われるが、内部焼成のため調整は不明瞭である。	7.5V7/8黄褐色	1~2mmの砂粒を含む。	良好		
28 NR 401	土師器 瓢(ぬれ?) 把手		把手部分は外上方へ曲がり伸びる。縁部は丸く終わる。内外面はユビナデを施す。	2.5T7/2灰褐色	1~3mmの砂粒を含む。	良好		
29 1層	須恵器 杯身 口縁～底部	口径15.2 器高4.2 高 台 径 11.0	底部は平らである。口縁部は外上方に直線的に伸びる。縁部は丸く終わる。 縁面台形の高台が「ハ」の字に貼り付く。 口縁部および底部の内外面は凹輪ナデを施す。	5B7/1明青灰色	1~3mmの砂粒を含む。	良好		
30 2層 10	須恵器 杯身 ほぼ完全	口径9.0 器高3.5	底部は平らである。口縁部は外上方へ直線的に伸びる。縁部は丸く終わる。 口縁部は片口である。口縁部および体部の内外面は凹輪ナデを施す。	10T6/1灰色	1mmの砂粒を含む。	良好		
31 3層 10	古式土師器 甕 山根～体部	口径17.9	複合口縁の甕。縁部は2段階曲し直線的に外上方へ伸びる。 口縁部の内外面はヨコナデを施す。体部の内面はヘラケズリ、外側は左上がりのハケナデを施す。	10W7/4にぶい 黄褐色	1~5mmの砂粒を含む。	良好		

## 2区

第1面では、近代の井戸3基(S E101~103)、中世から近世の土坑11基(S K101~111)・溝22条(S D101~122)を検出した。また、全域に島畠が存在していたことが、断面で確認できた。第2面では、飛鳥~平安時代の土坑3基(S K201~203)・小穴1基(S P201)・溝14条(S D201~214)を検出した。第3面では、古墳時代中期の土坑5基(S K301~305)・小穴11基(S P301~311)・溝4条(S D301~304)を検出した。第4面では、古墳時代前期後半~中期前半の河川1条(N R401)を検出した。

また、下層確認トレンチNo.6では、第5面で古墳時代前期(布留式新相)の河川1条(N R501)、第6面で古墳時代前期(布留式新相)の河川1条(N R601)、第7面で古墳時代前期(布留式古~中相)の畦畔1条(畦畔701)、第8面で古墳時代前期(布留式古相)以前の溝3条(S D801~803)を検出した。

## 第1面

## S E101~103

平面形状は円形、楕円形、方形に分けられる。断面形状は逆台形である。埋土はS E101が単一層で、S E102・103が2層である。S E101からは須恵器、S E102から陶器や瓦の破片が出土した。なお、検出した各井戸の詳細については表11にまとめた。

## S K101~111

平面形状は円形、楕円形、長方形、不定形に分けられる。断面形状は逆台形で、S K101には一部に壅みがある。埋土はS K108が3層に分けられるが、他は単一層である。S K101~104・106・107・109・110からは土師器・須恵器・磁器・瓦等の破片が出土した。S K108は深さが2.6mを測り、素掘りの井戸になる可能性がある。なお、検出した各土坑の詳細については表12にまとめた。

## S D101~122

平面形状は東西と南北に直線に伸びるものと、弧状に伸びるものがある。断面形状は逆台形とU字形のものがある。埋土はS D101~117・119~122が単一層で、S D118が2層である。S D101~104・111・115~118・120・122からは土師器・須恵器・陶器・磁器・瓦の破片が出土した。このうち図化したものはS D122出土の土師器ミニチュア壺(32)である。なお、検出した各溝の詳細については表13にまとめた。

※第1面の上部には、島畠が存在していることを断面で確認し、東西方向に展開していることが判明した。なお、2区第1面で検出したS D117と118の間の上部に存在する島畠は、1区で検出した島畠101に対応する。



表11 2区第1面井戸一覧表

遺構番号	地区	平面形状	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	断面形状	埋土	出土遺物
S E101	VI-11-10	南北に長い楕円形	1.9m	1.6m		逆台形	1.3以上	椭形10VR3/3暗褐色粗粒砂泥粘土 井戸内10BG2/1青黑色粗粒砂泥粘土
S E102	VI-9-10C	方形	—	—	—	逆台形 2.3m	1.2以上	椭形10VR3/3暗褐色粗粒砂泥粘土 5G4/1暗褐色粗粒砂泥粘土 井戸側内10BG2/1青黑色粗粒砂泥粘土 5BG3/1暗褐色粗粒砂泥粘土
S E103	VI-6-9B	検出した平面形状は半円形	1.8以上	1.0以上	—	逆台形	1.7以上	椭形10VR3/3暗褐色粗粒砂泥粘土 5G4/1暗褐色粗粒砂泥粘土 井戸側内10BG2/1青黑色粗粒砂泥粘土 5BG3/1暗褐色粗粒砂泥粘土

表12 2区第1面土坑一覧表

遺構番号	地区	平面形状	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	断面形状	埋土	出土遺物
S K101	VI-9-10E	検出した平山形状は半円形	2.9以上	1.4以上	—	逆台形 ( <sup>←</sup> 延びる)	0.95	10BG3/1暗青灰色粗粒砂泥粘土 土師器、磁器、瓦等
S K102	VI-6-10D VI-11-1E	検出した平面形状は半円形(西側が突出する)	2.2以上	1.1以上	—	逆台形	0.12	10BG3/1暗青灰色粗粒砂泥粘土 陶器
S K103	VI-6-10D	不定形 S D102を切る	2.1	1.5	—	逆台形	0.31	5B3/1暗青灰色粗粒砂泥粘土 土師器等
S K104	VI-6-10D	不定形 S D102を切る	1.8	1.7	—	逆台形	0.72	5B3/1暗青灰色粗粒砂泥粘土 磁器
S K105	VI-6-10D	東西方向に長い菱形 S D103を切る	1.3	0.9	—	逆台形	0.23	5B3/1暗青灰色粗粒砂泥粘土 なし
S K106	VI-6-10D	円形(南側が突出する)	—	—	2.0	逆台形	0.66	5B3/1暗青灰色粗粒砂泥粘土 瓦等
S K107	VI-6-10D 東西方向に長い楕円形	2.9	2.5	—	逆台形	0.72	5B3/1暗青灰色粗粒砂泥粘土 土師器、須恵器等	
S K108	VI-6-10D VI-11-1C-D	検出した平面形状は半円形	3.2以上	1.5	—	逆台形	2.0	上から5B4/1暗青灰色粗粒砂泥粘土 シルト(粘土のブロック混入) 10BG3/1暗青灰色粗粒砂泥粘土 10F4/1灰白色粗粒砂泥粘土(細粒砂泥粘土のブロック混入)
S K109	VI-6-9C- D10C	検出した平面形状は不定形 S D104を切る	5.7以上	2.7	—	逆台形	0.37	7.5V3/1オリーブ灰色粗粒砂泥粘土 (粗粒砂泥粘土のブロック混入) 土師器、須恵器、瓦等
S K110	VI-10-9B- 9J	検出した平面形状は長方形	4.0	3.7	—	逆台形	0.5以上	7.5VR3/4暗褐色粗粒砂泥粘土 瓦等
S K111	VI-6-10C-D	東西方向に長い楕円形	1.0	0.8	—	逆台形	0.15	5B3/1暗青灰色粗粒砂泥粘土 なし

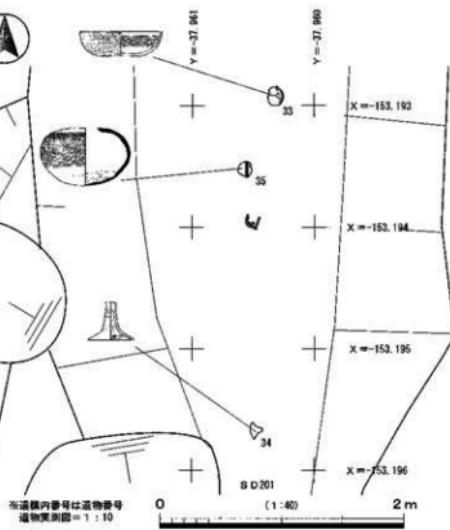
## 第2面

## S K201~203

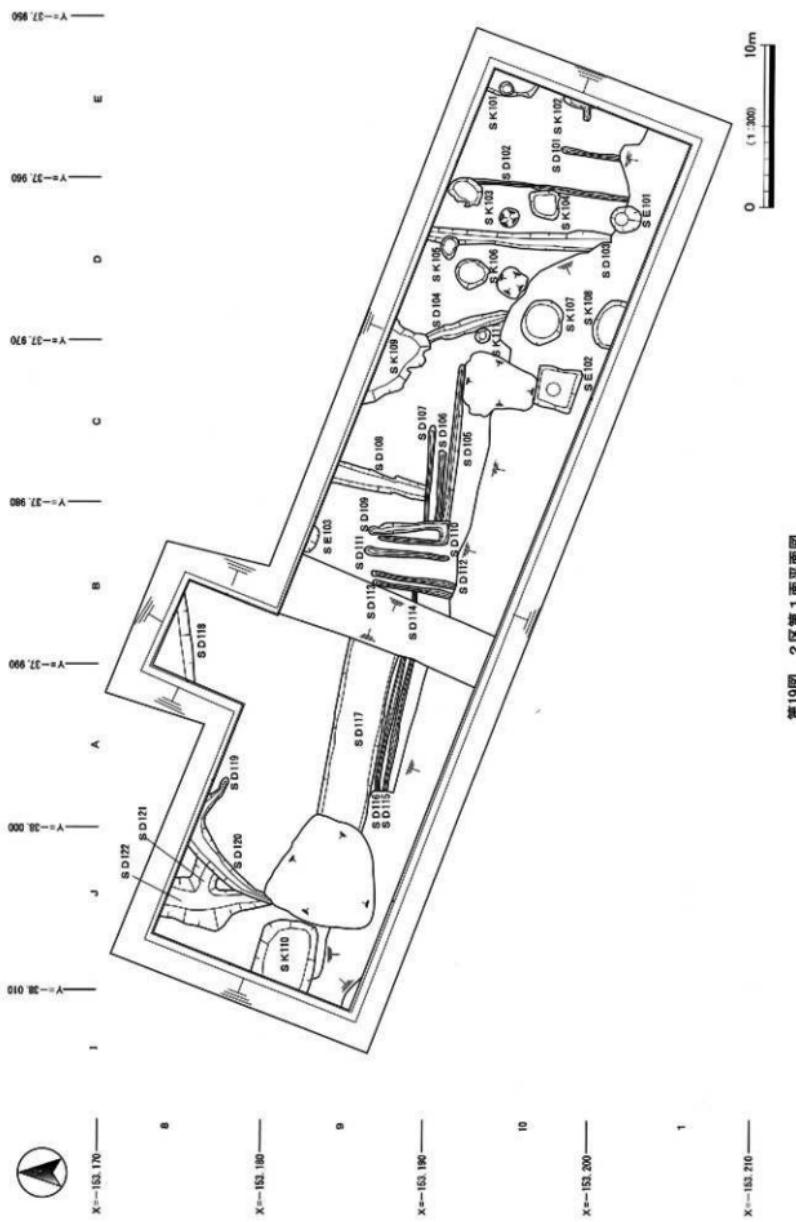
平面形状は円形である。断面形状は逆台形である。埋土は S K201・202が2層に分けられ、S K203が3層に分けられる。S K202からは土師器の破片が出土した。なお、検出した各土坑の詳細については表14にまとめた。

## S P201

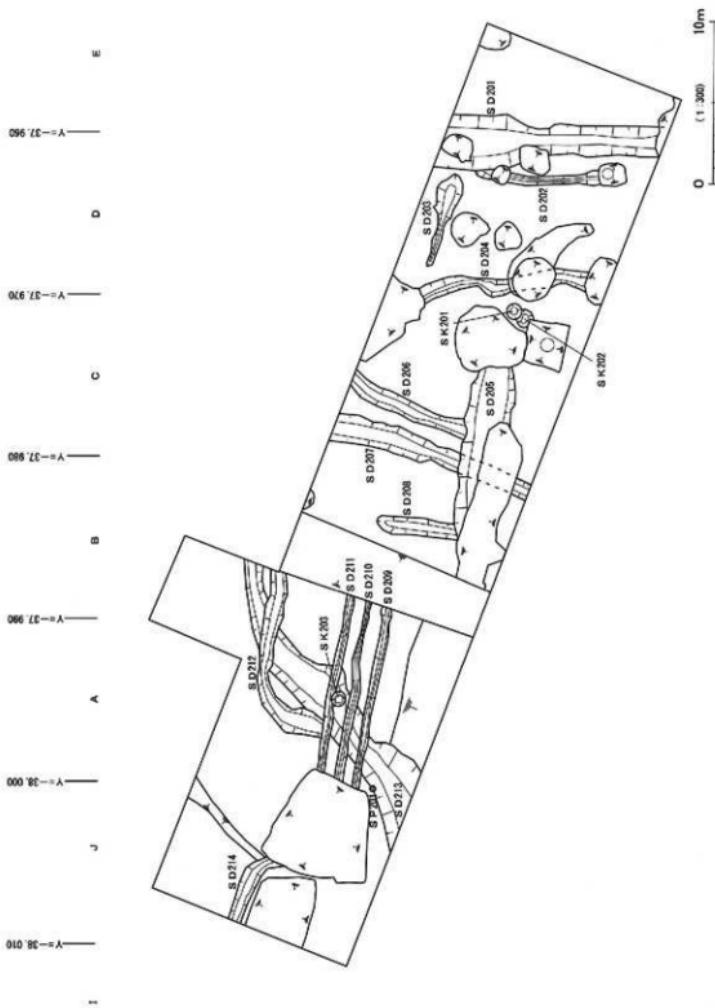
平面形状は円形である。断面形状は逆台形である。埋土は単一層で、土師器の破片が出土した。なお、検出した小穴の詳細については表15にまとめた。



第18図 2区 S D201遺物出土状況平面図



第19圖 2區第1面平面圖



第20圖 2區第2面平面圖



表13 2区第1面溝一覧表

堆積番号	地区	平面形状	幅(m)	断面形状	深さ(m)	埋土	出土遺物
S D101	VI-6-106	南北方向に直線に伸びる VI-11-1E	0.2	逆台形	0.1	10TR1/1褐色細粒砂混粘土	土師器
S D102	VI-6-106	南北方向に直線に伸びる VI-11-1D	0.3	逆台形	0.1	10TR1/1褐色細粒砂混粘土	土師器
S D103	VI-6-9-100	北側は調査区外に至る 南北-0.7~1.2 VI-11-1D 106に切られる	S K	逆台形	0.15	10Y3/1オリーブ黒色粗粒砂混粘土	土師器
S D104	VI-6-9-100	南北-0.5~1.0 -9010C-D S K110に切られる	0.5	逆台形	0.17	5Y6/8オリーブ色細粒シルト混粘土	土師器
S D105	VI-6-108	東西方向に直線に伸びる D109に切られる	0.5	逆台形	0.1	7.5Y6/2灰オリーブ色細粒砂混粘土	なし
S D106	VI-6-108	東西方向に直線に伸びる D109に切られる	0.3	逆台形	0.1	7.5Y6/2灰オリーブ色細粒砂混粘土	なし
S D107	VI-6-9-108	東西方向に直線に伸びる 南北-0.9~1.4 D109に切られる	0.2	逆台形	0.1	7.5Y6/2灰オリーブ色細粒砂混粘土	なし
S D108	VI-6-9-108	南北方向に直線に伸びる 南北-0.4~0.6 D105~107を切る S D110 と合流	0.4~0.6	逆台形	0.26	10Y3/1オリーブ黒色細粒砂混粘土	なし
S D110	VI-6-9-108	南北方向に直線に伸びる D109と合流	0.3	逆台形	0.1	5Y4/1灰色粗粒砂混粘土	なし
S D111	VI-6-9-108	南北方向に直線に伸びる 0.3~0.5	0.3~0.5	逆台形	0.1	5Y4/1灰色粗粒砂混粘土	土師器・須恵器
S D112	VI-6-9-108	南北方向に直線に伸びる 0.2	0.2	逆台形	0.1	5Y4/1灰色粗粒砂混粘土	なし
S D113	VI-6-9-108	南北方向に直線に伸びる 0.2	0.2	逆台形	0.1	5Y4/1灰色粗粒砂混粘土	なし
S D114	VI-6-96	東西方向に直線に伸びる 0.3	0.3	逆台形	0.1	7.5Y6/2灰オリーブ色粗粒砂混粘土	なし
S D115	VI-6-9A-B	東西方向に直線に伸びる 0.3	0.3	逆台形	0.1	7.5Y6/2灰オリーブ色粗粒砂混粘土	土師器・須恵器・陶器・瓦
S D116	VI-6-9A-B	東西方向に直線に伸びる 0.2	0.2	逆台形	0.1	7.5Y6/2灰オリーブ色粗粒砂混粘土	土師器・瓦器
S D117	VI-6-9A-B VI-10-9J	東西方向に直線に伸びる 直線に伸びる	3.0	逆台形	0.1	2.5Y3/6黄褐色粗粒砂混粘土 1から7.5Y6/1灰色粗粒砂混粘土	土師器・須恵器・陶器等
S D118	VI-6-8A-B	北側は調査区外 東西方向に2.2以上 直線に伸びる		逆台形	0.13以上	1から7.5Y6/1灰色粗粒砂混粘土 10Y4/1灰色粗粒砂混粘土	土師器
S D119	VI-6-8A-B	北側は調査区外 南北-0.4 方向に直線に伸びる S D120と合流	S D121-S D122を切る と合流	逆台形	0.17	5Y4/1灰色粗粒砂混粘土	なし
S D120	VI-10-8-9J	北側は調査区外 南北-0.8~1.5 方向に直線に伸びる S D121-S D122を切る と合流	U字形	0.12	5Y4/1灰色粗粒砂混粘土	土師器・須恵器	
S D121	VI-10-8J	南北-北西方向に直線に伸びる S D120に切られる S D122と合流	1.5	逆台形	0.15	10Y4/1灰色粗粒砂混粘土	なし
S D122	VI-10-8-9J	北側は調査区外 南北方向に 直線に伸びる S D120に切 られる S D121と合流	1.3~2.5	逆台形	0.29以上	10Y4/1灰色粗粒砂混粘土	土師器・須恵器・瓦器

## S D201~214

平面形状は東西と南北に直線に伸びるものと、弧状に伸びるものがある。断面形状は逆台形である。埋土はS D201・213が3層、それ以外は単一層である。S D201は1区のS D201と同一の溝である。S D201~205・207・212~214からは土師器・須恵器等が出土した。このうち図化したものはS D201出土の土師器杯(33)・土師器高杯(34)・須恵器壺(35)、S D202出土の須恵器杯身(36)、S D213出土の須恵器壺(37)である。33は飛鳥時代(飛鳥III)に比定できる。なお、検出した各溝の詳細については表16にまとめた。

表14 2区第2面土坑一覧表

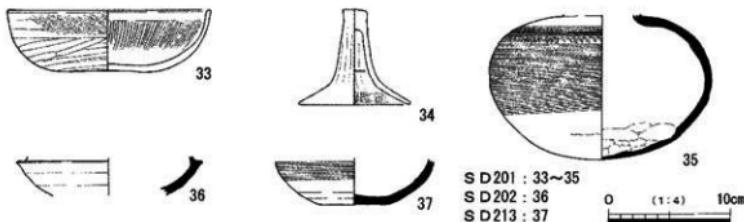
遺構番号	地区	平面形状	長径 (m)	短径 (m)	径 (m)	断面形状	深さ (m)	埋土	出土遺物
S K201	VI-6-10C	円形	—	—	1.0	逆台形	0.4	上から7.5Y4/4褐色細粒砂混粘土なし 10RG5/1青灰色細粒砂混粘土	
S K202	VI-6-10C	円形	—	—	1.3	逆台形	0.34	上から10R4/6褐色細粒シルト混粘土 585/1青灰色粘土	土師器
S K203	VI-6-9A	円形 S D211・S D213を切る	—	—	1.44	逆台形	0.68	上から5Y6/1灰色細粒砂混粘土なし (蛇口のブロック混入) 7.5Y5/1 褐色細粒砂混粘土 10RG5/1青灰 色粘土	

表15 2区第2面小穴一覧表

遺構番号	地区	平面形状	長径 (m)	短径 (m)	径 (m)	断面形状	深さ (m)	埋土	出土遺物
S P201	VI-10-9J	円形	—	—	0.3	逆台形	0.28	5Y4/15灰色細粒砂混粘土	土師器

表16 2区第2面溝一覧表

遺構番号	地区	平面形状	幅(m)	断面形状	深さ(m)	埋土	出土遺物
S D201	VI-6-10D-E VI-11-1D-E 202を切る	南北に直線に伸びる S D	1.6~3.4	逆台形	0.3	7.5YR6/6褐色細粒砂混粘土 7.5YR6/6褐色細粒砂混粘土 10YR5/8黄褐色粗粒砂混粘土	土師器・灰瓦
S D202	VI-6-10D VI-11-1D 201に切られる	南北に直線に伸びる S D	0.5~0.9	逆台形	0.15	2.5Y6/1黄色細粒砂混粘土	土師器・須恵器
S D203	VI-6-10D 東西方向に直線に伸びる	0.3~1.6	逆台形	0.15	10YR5/6黄色細粒砂混粘土	土師器・須恵器	
S D204	VI-6-9-10C 南北方向に蛇行し伸びる	0.5~1.0	逆台形	0.2	10YR4/4褐色粗粒砂	土師器	
S D205	VI-6-10E-C 東西方向に直線に伸びる	2.6	逆台形	0.4	7.5YR5/8明褐色粗粒砂混粘土	土師器・灰瓦	
S D206	VI-6-9-10C 南北方向に直線に伸びる	1.3	逆台形	0.13	5Y4/1灰色粘土	なし	
S D207	VI-6-9-10C 南北方向に直線に伸びる	1.0~1.7	逆台形	0.2	5Y7/1KC白色細粒砂混粘土	土師器・須恵器	
S D208	VI-6-9-10E 南北方向に直線に伸びる	1.1	逆台形	0.13	7.5YR6/1褐色細粒砂混粘土	なし	
S D209	VI-6-9A-B 東西方向に直線に伸びる VI-10-9J	0.5	逆台形	0.15	2.5Y5/6黄色細粒砂混粘土	なし	
S D210	VI-6-9A-B 東西方向に直線に伸びる	0.2~0.7	逆台形	0.1	2.5Y5/6黄色細粒砂混粘土	なし	
S D211	VI-6-9A-B S D213を切る S K 203に切られる	0.3~0.4	逆台形	0.15	2.5Y5/6黄色細粒砂混粘土	なし	
S D212	VI-6-9A-B 東西方向に弧状に伸びる S D213に切れる	1.0~1.5	逆台形	0.2	10RG5/1青灰色細粒シルト質粘土	土師器	
S D213	VI-6-9A VI-10-9J 東西方向に蛇行し伸びる S K203・S K204・S D 209-S D212に切られる	1.2~2.2	逆台形	0.4	上から2.5Y5/3褐色細粒シルト と細粒砂のラミナ 10YR4/6褐色 細粒シルトと粗粒シルトのラミ ナ 2.5Y5/1灰色粗粒砂	土師器・須恵器	
S D214	VI-10-9-9J 南北-東西方向に弧を描いて 伸びる	0.8	逆台形	0.18	10YR7/1灰白色粗粒シルト混粘土	土師器・瓦	



第21図 2区 S D201・202・213 出土遺物実測図

## 第3面

## S K301~305

平面形状は円形と梢円形に分けられ、断面形状は逆台形である。埋土は全て単一層で、各土坑からの遺物の出土はなかった。各土坑の検出状況からは規則性は見受けられず遺構の性格は不明である。なお、検出した各土坑の詳細については表17にまとめた。

## S P301~311

平面形状は円形と梢円形に分けられ、断面形状は逆台形である。埋土は全て単一層で、S P311からは土師器・須恵器の破片が出土した。各小穴はVII-11-1 EとVII-6-10 c区に集中し検出したが、検出状況からは規則性は見受けられず遺構の性格は不明である。なお、検出した各小穴の詳細については表18にまとめた。

表17 2区第3面土坑一覧表

遺構番号	地区	平面形状	長径 (m)	短径 (m)	径 (m)	断面形状	深さ (m)	埋土	出土遺物
S K301	VII-11-1E	円形	—	—	1.1	逆台形	0.09	S YR5/2灰褐色粗粒シルト質粘土(粗なし 粒砂のブロック混入)	
S K302	VII-6-10E	東西方向に長い梢円形	1.55	1.2	—	逆台形	0.16	S YR5/2灰褐色粗粒シルト質粘土(粗なし 粒砂のブロック混入)	
S K303	VII-6-10C	東西方向に長い梢円形	1.2	1.0	—	逆台形	0.17	10YR4/4 灰褐色粘土(粗粒シルト)のなし ブロック混入)	
S K304	VII-6-10C	南北方向に長い梢円形	1.6	1.0	—	逆台形	0.19	10YR4/4 灰褐色粘土(粗粒シルト)のなし ブロック混入)	
S K305	VII-6-9B	南北方向に長い梢円形	1.4	1.0	—	逆台形	0.19	7.5YR4/3褐色粗粒シルト質粘土(粗なし 粒砂のブロック混入)	

表18 2区第3面小穴一覧表

遺構番号	地区	平面形状	長径 (m)	短径 (m)	径 (m)	断面形状	深さ (m)	埋土	出土遺物
S P301	VII-11-1E	円形	—	—	0.4	逆台形	0.1	S YR5/2灰褐色粗粒シルト質粘土(粗なし 粒砂のブロック混入)	
S P302	VII-11-1E	円形	—	—	0.5	逆台形	0.11	S YR5/2灰褐色粗粒シルト質粘土(粗なし 粒砂のブロック混入)	
S P303	VII-11-1E	円形	—	—	0.85	逆台形	0.07	S YR5/2灰褐色粗粒シルト質粘土(粗なし 粒砂のブロック混入)	
S P304	VII-6-10E	円形	—	—	0.55	逆台形	0.08	S YR5/2灰褐色粗粒シルト質粘土(粗なし 粒砂のブロック混入)	
S P305	VII-6-10C	円形	—	—	0.5	逆台形	0.18	10YR4/4 灰褐色粘土(粗粒シルト)のなし ブロック混入)	
S P306	VII-6-10C	円形	—	—	0.55	逆台形	0.15	10YR4/4 灰褐色粘土(粗粒シルト)のなし ブロック混入)	
S P307	VII-6-10C	円形	—	—	0.62	逆台形	0.14	10YR4/4 灰褐色粘土(粗粒シルト)のなし ブロック混入)	
S P308	VII-6-10C	円形	—	—	0.33	逆台形	0.05	10YR5/1 灰灰色粘土(細粒砂のブなし ロック混入)	
S P309	VII-6-10C	円形	—	—	0.5	逆台形	0.07	10YR5/1 灰灰色粘土(細粒砂のブなし ロック混入)	
S P310	VII-6-10C	円形	—	—	0.65	逆台形	0.08	10YR5/1 灰灰色粘土(細粒砂のブなし ロック混入)	
S P311	VII-6-10B	東西方向に長い梢円形	0.8	0.6	—	逆台形	0.07	10YR5/1 灰灰色粘土(細粒砂のブ 土師器・須恵器 ロック混入)	

表19 2区第3面溝一覧表

遺構番号	地区	平面形状	幅(m)	断面形状	深さ(m)	埋土	出土遺物
S D 301	VII-6-10B VII-11-10	南北方向に蛇行し伸びる	0.6~2.3	逆台形	0.2	上から10YR4/4褐色粘土質細粒砂 (粘土のブロック混入) 7.5YR5/2灰褐色細粒シルトと粗 粒シルトのラミナ(内側は粘性が 強い)	土師器・須恵器
S D 302	VII-6-9-10B	南北方向に蛇行し伸びる D 303と合流する	S 0.4~1.25	逆台形	0.3	上から7.5YR6/2灰褐色細粒砂 7.5YR1/3褐色粘土質シルト N 4/0灰褐色細粒シルトと粗粒シルト のラミナ N3/0暗灰色粘土	土師器
S D 303	VII-6-10B	南北方向に直線に伸びる D 302と合流する	S 0.4	逆台形	0.08	7.5YR6/2灰褐色細粒砂	なし
S D 304	VII-6-8A-B	南北-東北方向に直線に伸びる	0.35	逆台形	0.08	5Y4/2灰褐色粗粒砂と細粒砂のラ ミナ	土師器

## S D 301~304

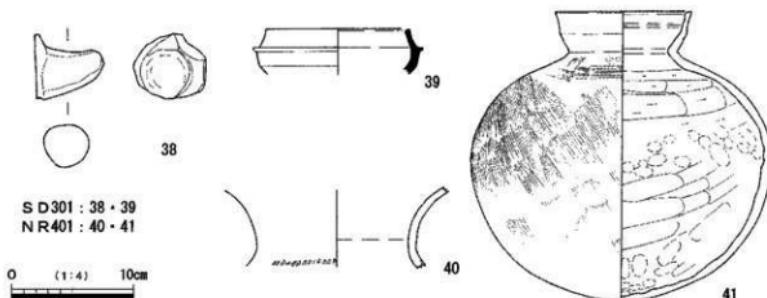
溝の平面形状は蛇行するものと直線に伸びるものに分けられる。断面形状は逆台形を呈す。埋土は流水堆積を示すシルトや砂の堆積であった。S D 301・302・304からは土師器や須恵器の破片が出土した。このうち図化したものはS D 301から出土した土師器の瓶か鍋の把手(38)、須恵器杯身(39)である。なお、検出した各溝の詳細については表19にまとめた。

## 第4面

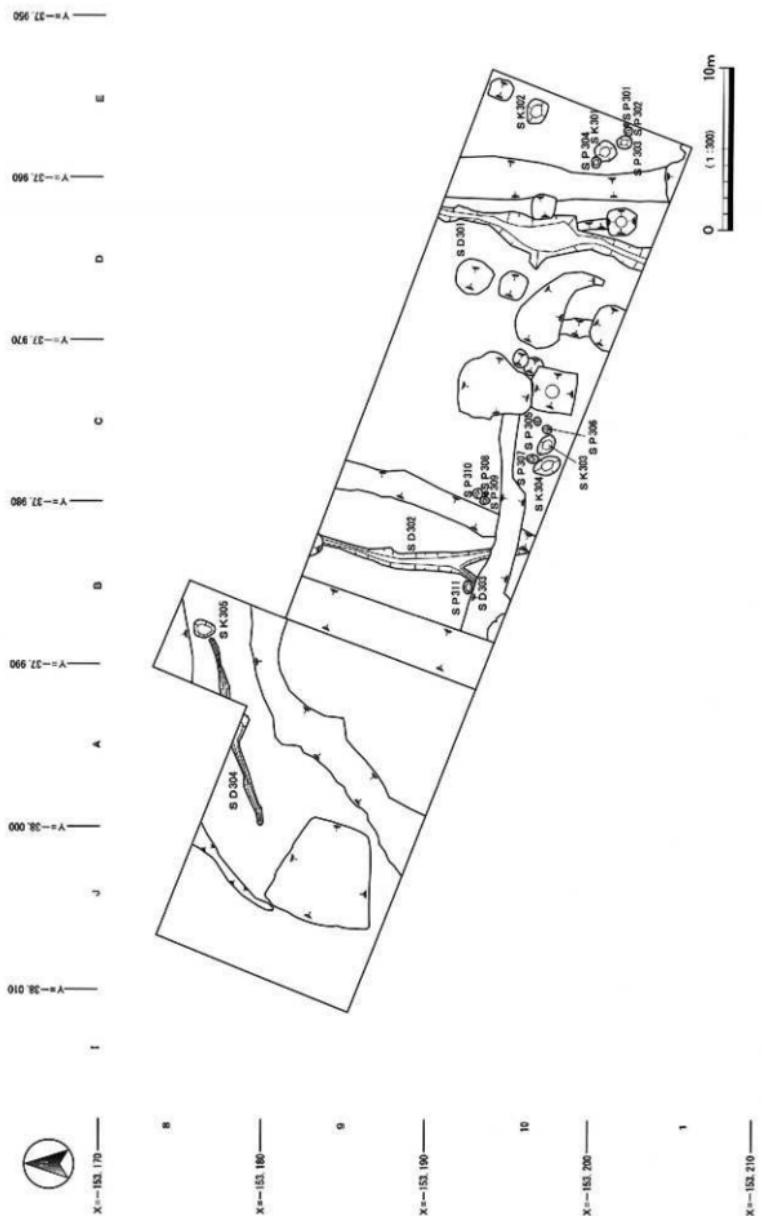
## N R 401

VII-6-8・9A・B 9BC 10C・D・E区 VII-11-1E区で検出した。平面形状は南北-東北方向に蛇行して伸び、幅は1区検出のN R 401と合わせると幅16.0mになる。断面形状は逆台形で、深さ約0.85m以上を測る。埋土は細粒シルトへ粗粒シルト、細粒砂へ粗粒砂の流水堆積である。埋土からは弥生土器、土師器が出土した。このうち図化したものは弥生土器壺(40)、古式土師器壺(41)で、41は布留式期に比定できる。

河川の時期は古墳時代前期後半～中期前半に比定できる。

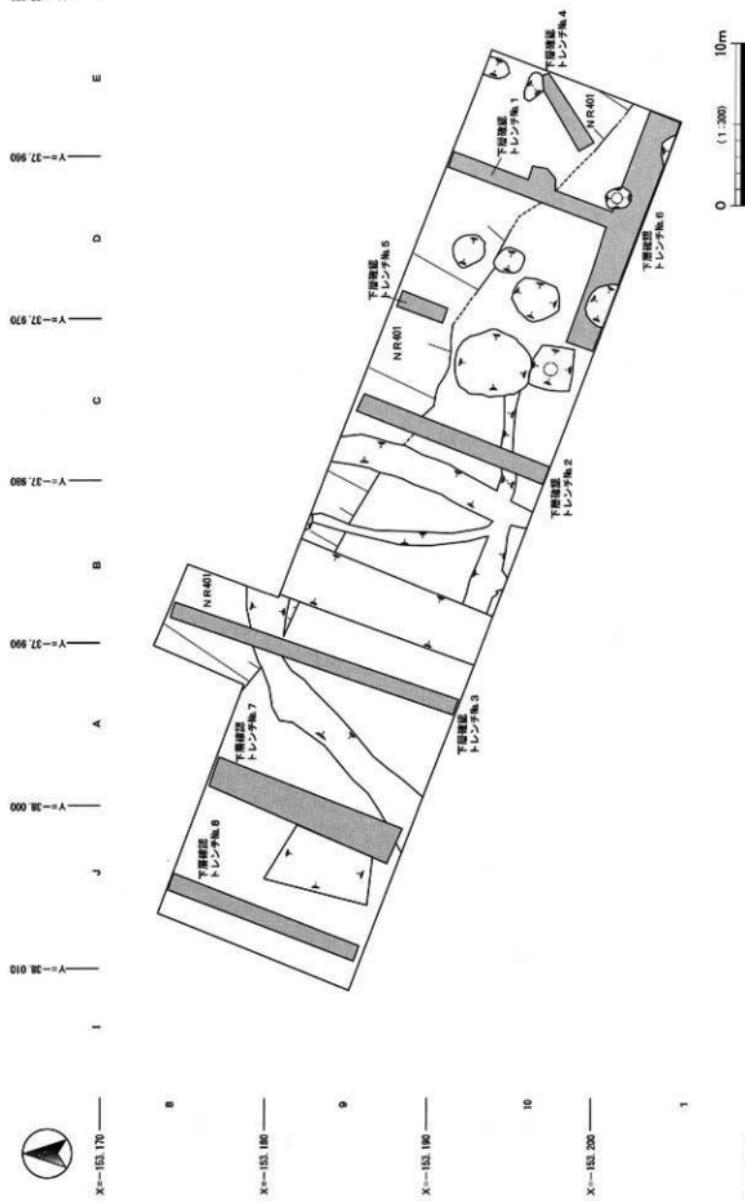


第22図 S D 301、N R 401 出土遺物実測図



第23回 2区第3面平面図

第24図M.2区第4面平面図



## 第5面

N R501

VII-11-1 E区で検出した。平面形状は南北方向に直線に伸び、幅4.0mを測る。断面形状は逆台形で、深さは0.34mを測る。埋土は上から7.5YR6/2灰褐色粗粒砂と細粒砂、10YR5/2灰黃褐色粗粒砂で、自然木が出土した。この遺構は古墳時代前期(布留式新相)に比定できる。

## 第6面

N R601

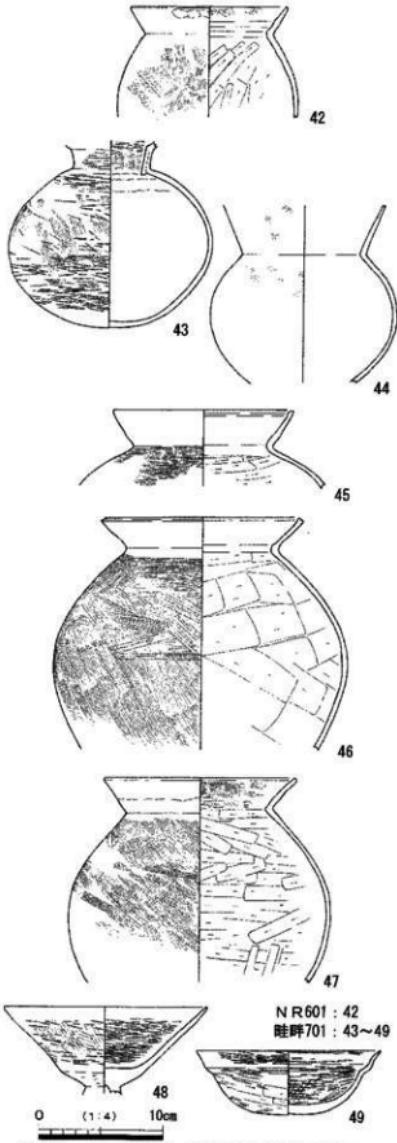
VII-11-1 E区で検出した。平面形状は南北方向に直線に伸び、幅3.2mを測る。断面形状は逆台形で、深さは0.43mを測る。埋土は上から10YR5/8黄褐色細粒砂と粗粒砂、10YR7/1灰白色細粒砂と粗粒シルト、10BG4/1暗青灰色細粒シルトと粗粒シルトで、土器・木製品が出土した。このうち図化したものは古式土器壺(42)である。この遺構は古墳時代前期(布留式新相)に比定できる。

## 第7面

畦畔701

VII-11-1 E区で検出した。平面形状は南東から北西に直線に伸び、上幅1.0~2.0m、下幅3.0~4.0mを測る。断面形状は台形で、高さ0.6mを測る。盛土は5B4/1暗青灰色粗粒砂混粘土で、南西側の裾部からは古式土器・木製品が出土した。このうち図化したものは古式土器壺(43~44)、甕(45~47)、高杯(48)、鉢(49)、用途不明木製品(W4)、アカ取り(W5)である。

43~49は古墳時代前期(布留式古~中相)のものである(原田1993)。W5は、アカ取りと呼ばれる木製品で、類例には、センター調査の久宝寺遺跡出土のものがある(亀井他2007)。また、センター調査の弓削ノ庄遺跡(田中他2005)や、(財)大阪市文化財協会調査の長原遺跡(大庭2005)でもアカ取りは出土している。この遺構



第25図 2区N R601、畦畔701出土遺物実測図

は古墳時代前期(布留式古相)に比定できる。

#### 第8面

##### S D801

VII-11-1 E 区で検出した。平面形状は南西から北東に直線に伸びる。幅0.4mを測る。断面形状は逆台形で、深さ0.07mを測る。埋土はN2/0黒色細粒シルト(炭化物を多く含む)で、遺物の出土はなかった。この遺構は古墳時代前期(布留式古相)以前に比定できる。

##### S D802

VII-11-1 E 区で検出した。平面形状は南西から北東に直線に伸びる。幅0.4mを測る。断面形状は逆台形で、深さ0.12mを測る。埋土はN2/0黒色細粒シルト質粘土(炭化物を多く含む)で、遺物の出土はなかった。この遺構は古墳時代前期(布留式古相)以前に比定できる。

##### S D803

VII-11-1 E 区で検出した。平面形状は南西から北東に直線に伸びる。幅0.34mを測る。断面形状は逆台形で、深さ0.09mを測る。埋土はN3/0暗灰色粘土(炭化物を多く含む)で、遺物の出土はなかった。この遺構は古墳時代前期(布留式古相)以前に比定できる。

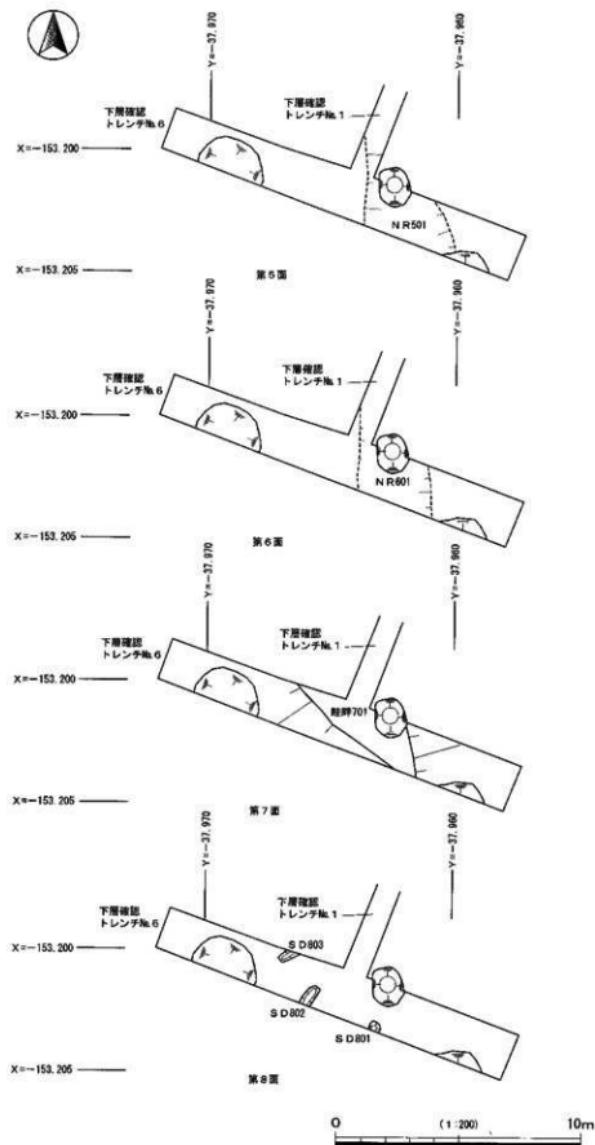
#### 遺構に伴わない出土遺物

1層からは土師器・瓦器・須恵器・瓦・朝顔形円筒埴輪・円筒埴輪、2層からは土師器・須恵器・円筒埴輪、4層からは古式土師器が出土した。このうち図化したものは1層出土の土師器甌(50)・須恵器鉢(51)・朝顔形円筒埴輪(52)・円筒埴輪(53)、2層出土の土師器二重口縁壺(54)・須恵器杯身(55)・円筒埴輪(56)、4層出土の古式土師器高杯(57)である。

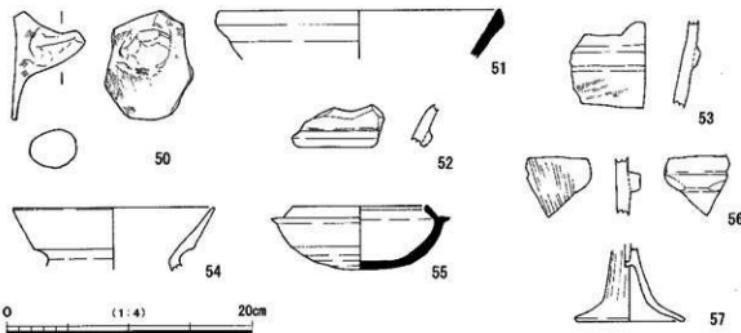
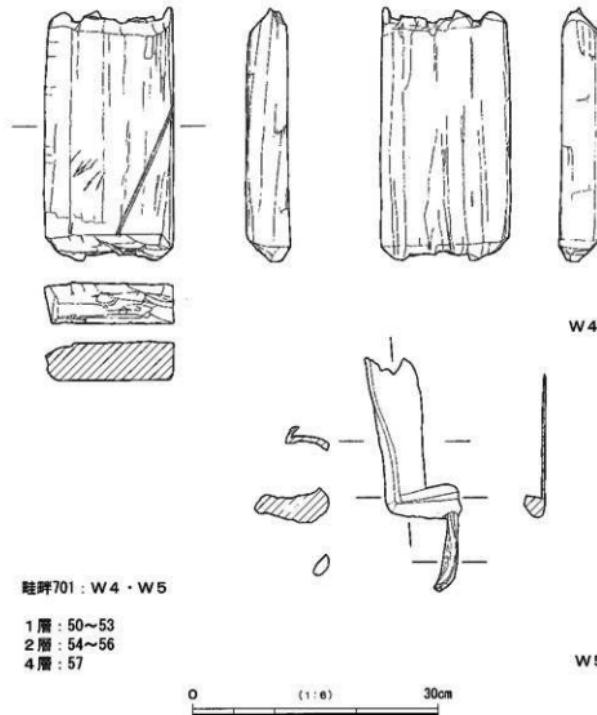
57は布留式中相の布留Ⅲ(原田1993)に比定できる。

#### 参考文献

- ・龟井 晴他 2007『八尾市 久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書VII—寝屋川流域下水道竜華水みらいセンター水処理施設等建設事業に伴う発掘調査他ー』(財)大阪府文化財センター調査報告書 第156集 財团法人大阪府文化財センター
- ・田中龍男他 2005『弓削ノ庄遺跡 他』大阪外環状線(東大阪市)連続立体交差事業に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書 (財)大阪府文化財センター調査報告書 第133集 財团法人大阪府文化財センター
- ・大庭重信 2005『大阪市平野区 長原遺跡発掘調査報告書X II』市営長吉長原東住宅6・9号館建設に伴う発掘調査報告書 財团法人大阪市文化財協会
- ・原田昌則 1993「久宝寺遺跡(第1次調査)」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告』(財)八尾市文化財調査研究会 報告37 (財)八尾市文化財調査研究会



第26図 2区第5面～第8面平面図



第27図 2区莊701、1・2・4層 出土遺物実測図

表20 出土遺物観察表(3)

遺物 番号 図版 番号	造構	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
32 SD 122	土師器 ミニチャイ ム	口径2.2 器高3.2	口縁は短く外反する。端部は丸く終わる。体部は先端のある算 盤玉形。口縁部および体部の内外面はユビナデを施す。	10Y8/1灰白色	1 ms の 砂粒を含む。	良好		
10								
33 SD 201	土師器 杯	口径16.3 器高5.0	底部は平らである。口縁部は内側する。端部は外側へつまみ出 し丸く終わる。底部の内面はユビナデ、外面はヘラミガキを施 す。口縁部の内面はユビナデのち放射状のヘリミガキ、外面は ハケナデを施す。	5YR6/8橙色	1 ~ 2 mm の 砂粒を含む。	良好		
10								
34 SD 201	土師器 高杯	高径9.0	端部は「匂」の字に伸びる。端部は丸く終わる。脚部は中空で ある。脚部の内面はユビナデを施し、シボリはある。外表面は 縦方向のヘラミガキを施す。脚部の内面はハビナデ、外表面はユ ビナデを施す。	5YR7/8橙色	1 ~ 2 mm の 砂粒を含む。	良好		
10 SD 201	須恵器 壺?	径18.2	体部最大。体部は横長の球形である。体部の内面は上位から下位に回転ナデ、下 位はヨコナデを施す。外表面の上位から下位は回転カギリ、下位は同色 転カギリを施す。外表面の上位には出線文を2枚施す。出線文の間に は横状工具によるキザミ目を施す。	10BG4/1暗青灰	1 ~ 3 mm の 砂粒を含む。	良好		
36 SD 202	須恵器 舟身?	受 頭 15.2	体部は内側する。受部は水平に伸びる。受部は丸く終わる。外表面 はヨコナデを施す。	5B4/1暗青灰色	1 ms の 砂粒を含む。	良好		
37 SD 213	須恵器 壺?		底部は平らである。体部は内側する。外表面および底部の内面は5B4/1暗青灰色 ヨコナデを施す。体部の外表面下位は回転カギリ、中位は 回転カギリ目を施す。	5B4/1暗青灰色	1 ~ 3 mm の 砂粒を含む。	良好		
38 SD 301	土師器 鍋か懸?		把手部分は外上方へ舟形が伸びる。端部は丸く終わる。内外面 はヨコナデを施す。	5TR6/8褐色	1 ~ 3 mm の 砂粒を含む。	良好		
39 SD 301	須恵器 舟身	11.8	体部は内側する。受部は水平に伸びる。受部は丸く終わる。外表面 はヨコナデを施す。受部の上位から下位は直線的に伸びる。腹部は面形成する。口縁 部、受部の内外面はヨコナデを施す。体部の内面は回転ナデ、 外表面はヨコナデヘラケズリを施す。	5B6/1青灰色	1 ~ 2 mm の 砂粒を含む。	良好		
40 NR 401	弥生土器 (後期) 壺	頭 頭 13.0	頭部は体部からゆるやかに曲がり外反する。頭部の内外面はヨ コナデを施す。頭部の外表面下位にキザミ目を施す。	10YR6/8明黄 色	1 ~ 2 mm の 砂粒を含む。	良好		
41 NR 401	土師器 壺	口径11.5 器高23.5	端部は2段に屈曲する複合口縁である。端部は肥厚し面を形成 する。体部は横長の球形である。二重唇の内外面はヨコナデ を施す。体部の内面下位にはユビナデ。上位はヘラケズリとユビ ナデを施す。外表面はヨコナデを施す。	10YR7/8黄褐色	1 ~ 4 mm の 砂粒を含む。	良好		
42 NR 601	古式土師器 壺	口径12.4 体部最大 径14.6	II部は体部から簡便し内側する。端部は丸く終わる。口縁部 はヨコナデを施す。外表面はユビナデを施す。体部の内面はヘラ ケズリ。外表面はハケナデを施す。口縁部、体部の内外面には媒 が付着している。	10YR5/1褐灰色	1 mm の砂粒 を含む。	良好		
43 魁 701	古式土師器 壺	径6.5	体部は横長の球形である。口縁部は直立する端部から屈曲し外 方に伸びると思われる。体部の内面はヨコナデ、外表面はハケナデのも じヨコナデを施す。体部の内面はユビナデ、外表面はハケナデを施す。 体部の外表面には媒が付着している。	10YR6/1褐灰色	1 mm の砂粒 を含む。	良好		
44 魁 701	古式土師器 壺	10.2	体部は球形である。口縁部は「く」の字に屈曲し直線的に外 方に伸びる。口縁部の内面はヨコナデ、外表面はハケナデのもじ ヨコナデを施す。体部の内面はユビナデ、外表面はハケナデを施す。 体部の外表面には媒が付着している。	5YR3/1黒褐色	1 mm の砂粒 を含む。	良好		
45 魁 701	古式土師器 壺	口径14.4	口縁部は体部から屈曲し内側する。端部は内側に肥厚し面を形成 する。口縁部の内外面はヨコナデを施す。体部の内面はヘラ ケズリを施す。ヘラケズリは屈曲部まで及んでいない。外表面は ハケナデを施す。体部の外表面には媒が付着している。	5YR5/1褐灰色	1 mm の砂粒 を含む。	良好		
46 魁 701	古式土師器 壺	口径15.6 体部最大 径23.8	体部は球形である。体部最大径は中位にある。口縁部は内側に 肥厚し面を形成し屈曲にくぼむ。二重唇の内外面はヨコ ナデを施す。体部の内面はヘラケズリを施しヘラケズリは屈曲 部によんでいない。外表面はハケナデを施す。体部の外表面には 媒が付着している。	5YR6/1黄灰色	1 ~ 3 mm の 砂粒を含む。	良好		

表21 出土遺物観察表(4)

遺物 番号 回版 番号	遺塊	器種	法量 (cm)	形態・調整等	色調	胎土	焼成	備考
47 10	縁跡 701	古式土師器 甕	口径15.3 体部最大径 21.3	体部は球形である。体部最大径は半位にある。口縁部は外反する。 壠部は上方へつまみ出し、壠を形成する。口縁部の内面はハケナデのちヨコナデ、外面はヨコナデを施す。体部の内面はヘラケズリを施し、ヘラケズリは屈曲部までおよんでいる。外 面はん上がりのハケナデを施す。体部の外面には煤が付着して いる。	2.5Y6/1黄灰色	1 ~ 3 mmの 砂粒を含む。	良好	
48	縁跡 701	古式土師器 高杯	口径16.3	杯部は平らである。口縁部は外上方へ直線的に伸びる。壠部は尖りぎみに丸く終わる。口縁部の内面はヘラミガキのちヨコナデを施す。口縁部の外面はハケナデとヘラミガキのちヨコナデを施す。杯部の外面はヘラケズリを施す。杯部の外面には黒斑がある。	10YR7/2にぶい 黄褐色	1 mmの砂粒 を含む。	良好	
49 10	縁跡 701	古式土師器 鉢	口径15.0 器高5.0	口縁部は2段に屈曲する。壠部は丸く終わる。口縁部の内面はヘラミガキのちヨコナデを施す。壠部の内面は横方向のヘラミガキのち放状付のヘラミガキを施す。外面下部はヘラケズリ、上部はヘラミガキを施す。	5YR6/8褐色	1 mmの砂粒 を含む。	良好	
W4 10	縁跡 701	板状木製品	長さ31.5 幅16.0 厚み6.3	長方形の板状木製品。壠辺端部に方形のくぼみが数箇所みられる。				
W5 10	縁跡 701	アカ取り	長さ29.0 幅9.0 厚み2.6	木から割り落とし加工している。塵取りに似た形の木製品である。				
50	1層	土師器 瓶?		把手は外上方に伸びる。壠部は曲を形成する。体部の内面はヨビナデ。外面はハケナデを施す。把手部はナデを施す。	5Y7/1灰白色	1 ~ 2 mmの 砂粒を含む。	良好	
51	1層	須志器 鉢	口径23.8	口縁部は外上方にやや内側に向かって伸びる。壠部は壠を形成する。口縁部の内面はヨコナデを施す。	NG/0灰白色	1 mmの砂粒 を含む。	良好	
52	1層	刷毛形円筒 埴輪		タガの断面は円形である。内面はヨビナデ、外面はヨコハケを施す。タガ部はヨコナデを施す。	7.5YR6/8褐色	1 ~ 3 mmの 砂粒を含む。	良好	
53	1層	円筒埴輪		タガの断面は台形である。内面はヨビナデ、外面はヨコハケを施す。タガ部はヨコナデを施す。	7.5YR7/8黄褐色	1 ~ 3 mmの 砂粒を含む。	良好	
54	2層	土師器 二重口縁皿	口径16.4	口縁部は2段に屈曲し外反する。壠部は丸く終わる。口縁部の内外面はヨコナデを施す。	10YR8/8褐色	1 ~ 4 mmの 砂粒を含む。	良好	
55	2層	須志器 杯身	口径11.0 器高5.2	底部は平らである。口縁部は内凹する。壠部は丸く終わる。口縁部の内面はヨコナデを施す。体部の外面上位は四軸ナデ、下位は四軸ヘラケズリを施す。	5Y6/1青灰色	1 mmの砂粒 を含む。	良好	
56	2層	埴輪 円筒埴輪		タガの断面は台形である。内面はたんがりのハケナデ、外面はヨコナデを施す。タガ部はヨコナデを施す。	10YR8/3浅黃褐色	1 mmの砂粒 を含む。	良好	
57	4層	古式土師器 高杯	幅径8.7	脚部は「ハ」の字に外下方へ伸びる。壠部は脚部から折れ曲がりひらく。壠部は壠を形成する。壠部の内面はヨビナデを施し、しぼり目がある。外面は壠方向のヘラミガキを施す。壠前の内 外面はヨビナデを施す。	10YR7/8黄褐色	1 ~ 2 mmの 砂粒を含む。	良好	

### 第3章　まとめ

#### 古墳時代前期(布留式古相以前、古相～中相、新相)

古墳時代前期の遺構には、1・2区で検出した河川(NR401)がある。NR401は南東～北西方向にほぼ直線に流れており、古墳時代中期前半に埋没した。NR401は西側の研究会第28次調査地のNR201・NR202(原田他2004)につながり、さらに西の寝屋川流域下水道竜華水みらいセンターワーク処理施設等建設事業に伴う発掘調査で検出した05421流路(亀井他2007)ともつながる河川である。このことは研究会第28次調査報告書の第40図(原田他2004)および研究会第23次調査報告書の第181図(原田他2006)に掲載しており、同河川付近における集落の分布を復元しているので参考されたい。また、NR401とほぼ同時期の遺構には南西部の研究会第24次調査地3～4調査区で検出した河川NR31001がある(原田他2001)。NR31001はNR401より上流に存在しており、NR31001からの分流であった可能性が高いと考えられる。

NR401以前では、2区の下層確認トレレンチNo.6で布留式古相～中相に比定できる河川(NR601・NR501)を、その下層で布留式古～中相に比定できる畦畔701、さらに布留式古相以前の溝を検出した。

畦畔701は、研究会第24次調査の第4面で捉えた水田遺構の畦畔40001(原田他2001)につながる同一の遺構であると思われる。また、畦畔701の下面で検出した溝は、周囲の調査状況から、畑作に関連した取溝であった可能性がある。これらのことから布留式古相～新相までは本調査地周辺には生産域が存在していたと推測できる。

#### 古墳時代中期

古墳時代中期の遺構は1区の南部と2区の東部で検出した。これらの遺構はNR401が埋没した後の自然堤防上に構築されている。特に1区で検出したSE301は5世紀中ごろに比定できる。

同時期の遺構には研究会第24次調査地の2調査区の土坑SK31009、3調査区の溝SD31036、SD31037などが挙げられる(原田他2001)。また、北の大坂竜華都市拠点土地区画整理事業(都市機能更新事業)に伴う発掘調査でも古墳時代中期：第2～2面で土坑SK092を検出している(西村2003)ことから、本調査地付近一帯に居住城があった可能性が考えられる。

#### 飛鳥～平安時代

飛鳥時代には南北方向に直線に伸びる溝(SD201)を1区の南西部と2区の東部で検出した。この溝は南側の第24次調査地の2調査区で検出したSD31014と同一の遺構と思われる。SD31014は古墳時代中期中葉～後期中葉の遺物が出土しており、後期中葉には埋没したと推測されている(原田他2001)。しかし、今回の調査では飛鳥時代の遺物が出土していることから、同遺構は古墳時代中期に構築され、飛鳥時代に埋没したと推測される。

飛鳥時代の遺構には、研究会第28次調査の1調査区で検出したSK102がある。同遺構からは飛鳥時代中期の土師器杯や須恵器杯蓋および、奈良時代前半の須恵器台杯長頸壺が出土し、飛鳥時代中期(7世紀後半)～奈良時代前期(8世紀前半)まで遺構は存続していたと考えられている(原田他2004)。

これらから、飛鳥時代中期(7世紀後半)～奈良時代前期(8世紀前半)の居住城は第28次調査地の東側に存在していたと考えられる。

平安時代の遺構には1区の北東部で検出したSK206、2区の西部で検出したSD213がある。SD213は研究会第24次調査の1調査区で検出した溝SD21001(原田他2001)につながり、さらに、西の大坂竜華都市拠点地区竜華東西線建設に伴う発掘調査の104河川(西村2004)につながる同一の遺構である。

本調査地に近接して存在する同時代の遺構には、研究会第24次調査3調査区で検出した井戸SE21002(平安時代前期後半 9世紀末~10世紀初頭)、井戸SE21003(平安時代前期 8世紀末~9世紀初頭)、1調査区で検出した据立柱建物SB22001(平安時代後期以前)(原田他2001)および、研究会第28次調査の土坑SK105(平安Ⅱ期古 9世紀第1四半期~第3四半期)、土坑SK106(平安Ⅳ期古 11世紀後半)などが挙げられる(原田他2004)。また、大阪竜華都市拠点地区画整理事業(都市機能更新事業)に伴う発掘調査でも古墳時代後期~古代面:第2-1面でSK088(8世紀初頭と11世紀の遺物が出土)を検出している(西村2003)。さらに、研究会第23次調査15調査区で検出した土坑SK201(平安時代中期 11世紀前半)、16調査区の土坑SK203(平安時代Ⅰ期 8世紀末~9世紀初頭)などもある(原田他2006)。

各遺構の検出状況は疎らで、時期幅があるが、上記した遺構は比較的近接して存在していることから、平安時代の居住域は本調査地付近一帯に存在していたと推測される。

#### 中世~近代

本調査地においては島畠や水田が広がっていた。検出した島畠は3~4層に、水田も2~3層に分けることが可能で、各層の上面は耕作に伴い攪拌を受けている。

2区では、井戸、土坑、溝を検出した。この内、井戸と土坑は、ほとんどが東部で検出している。井戸は水田や島畠に供給する灌漑用であった可能性が考えられる。

#### 参考文献

- ・西村 歩他 2003『八尾市亀井地内所在 久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書V』-大阪竜華都市拠点地区画整理事業(都市機能更新事業)に伴う発掘調査-(財)大阪府文化財センター調査報告書 第103集 (財)大阪府文化財センター
- ・原田昌則他 2001『久宝寺遺跡第24次発掘調査報告書-大阪竜華都市拠点地区竜華東西線3工区の掘削工事に伴う-』(財)八尾市文化財調査研究会報告69 (財)八尾市文化財調査研究会
- ・原田昌則他 2004『I 久宝寺遺跡(第28次調査)』『久宝寺遺跡 (財)八尾市文化財調査研究会報告77』(財)八尾市文化財調査研究会
- ・西村 歩他 2004『八尾市 久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書VI』-大阪竜華都市拠点地区竜華東西線建設に伴う発掘調査-(財)大阪府文化財センター調査報告書 第118集 (財)大阪府文化財センター
- ・原田昌則他 2006『I 久宝寺遺跡(第23次調査)』『久宝寺遺跡 (財)八尾市文化財調査研究会報告89』 (財)八尾市文化財調査研究会
- ・亀井 啓他 2007『八尾市 久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書VII-寝屋川流域下水道竜華水みらいセンター処理施設等建設事業に伴う発掘調査他-』 (財)大阪府文化財センター調査報告書 第156集 財团法人大阪府文化財センター
- ・坪田真一他 2008『3. 久宝寺遺跡第70次調査(KU2006-70)』『平成19年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』(財)八尾市文化財調査研究会

# 図 版



調査地周辺(南西から)【中央はJR久宝寺駅 奥は生駒山地】



調査地周辺(東から)



1区 機械掘削(西から)



1区 調査状況(南西から)



2区 調査状況(南西から)

図版  
2



1区 第1面全景(南から)



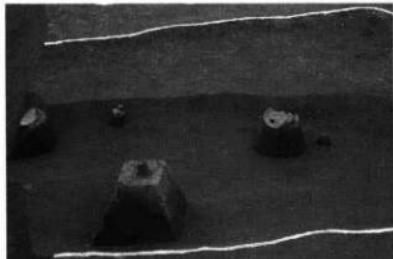
1区 第2面全景(南から)



1区 第3面全景(南から)



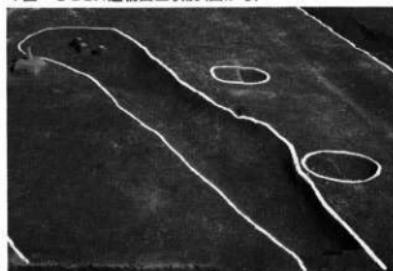
1区 第4面全景(南から)



1区 SD 201遺物出土状況(西から)



1区 SE 301遺物出土状況(南から)



1区 SD 308(西から)



1区 SE 301(南から)



1区 SD 308遺物出土状況(南西から)



1区 SE 301井戸枠検出状況(南から)



1区 NR 401(南から)



1区 SE 301調査状況(南西から)



2区 第1面全景(西から)



2区 第2面全景(西から)



2区 第3面全景(西から)



2区 第4面全景(西から)



2区 SD201(北から)

2区 SD201  
遺物出土状況(北から)

2区 SD201  
調査状況(南から)

図版 8



2区 NR401(北から)



2区 下層トレンチNo.6  
畦畔701検出状況(南から)



2区 下層トレンチNo.6  
畦畔701遺物出土状況(北から)



9



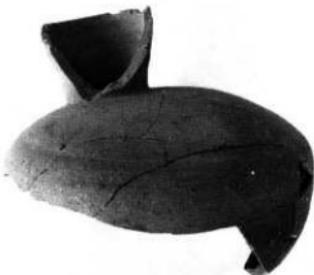
10



11



12



8

13



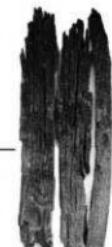
—



W1



—



W2



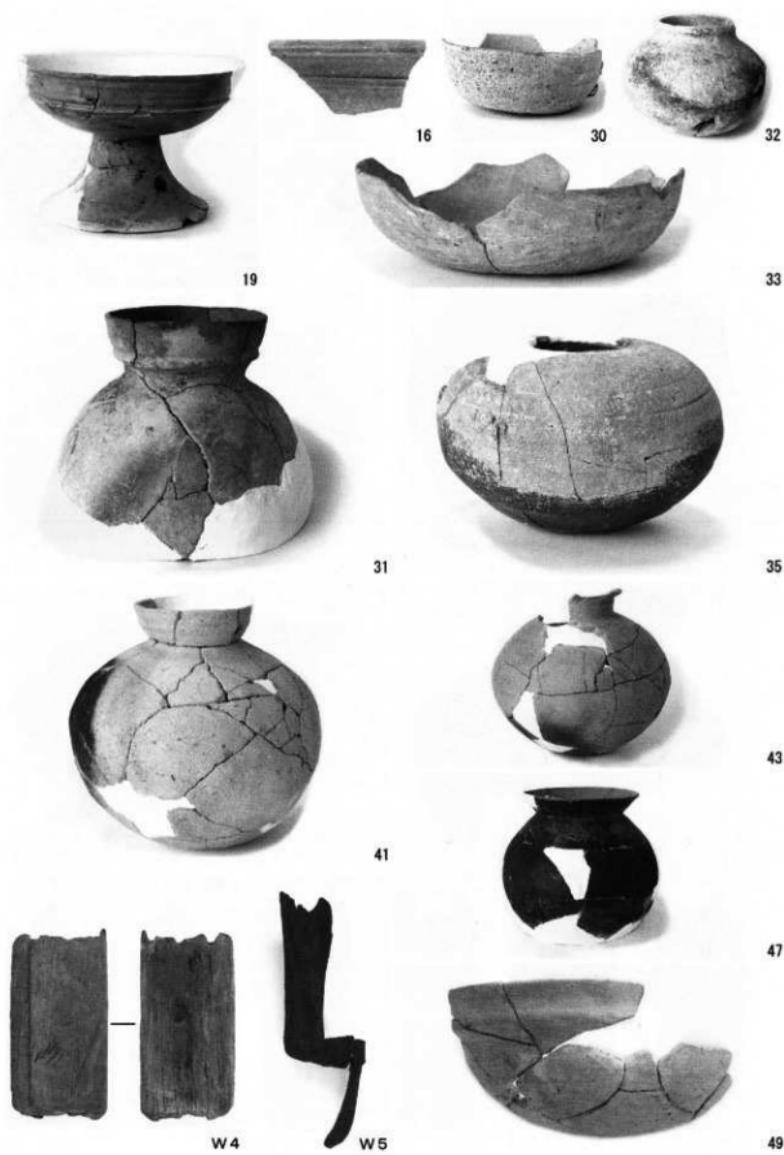
—



W3

1区 S D201(8)、S E301(9~13 W1~W3)出土遺物

図版 10



1区 S K304(16)、S D308(19)、2層(30)、3層(31)、2区 S D122(32)、S D201(33・35)、N R401(41)、  
畦畔701(43・47・49・W4・W5)出土遺物

# 報告書抄録

ふりがな 書名	きゅうほうじいせき ざいだんほうじん やおしんかざいちょうさけんきゅうかいほうこく122 久宝寺遺跡 財團法人 八尾市文化財調査研究会報告122
副書名	I 久宝寺遺跡(第13次調査) II 久宝寺遺跡(第14次調査) III 久宝寺遺跡(第18次調査) IV 久宝寺遺跡(第27次調査) V 久宝寺遺跡(第59次調査)
巻次	
シリーズ名	財團法人 八尾市文化財調査研究会報告
シリーズ番号	122
編集者名	I・IV・V 西村公助 II・III 坪田真一
編集機関	財團法人 八尾市文化財調査研究会
所在地	〒581-0821 大阪府八尾市幸町四丁目58-2 TEL・FAX 072-991-4700
発行年月日	西暦2009年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所 在 地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査 原因
			北緯	東経	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査 原因	
きゅうほうじいせき 久宝寺遺跡 (第13次調査)	おおさかみやわしじんわちょう 大阪府八尾市神武町	27212 23	34度37分 33秒	135度34分 47秒	1991.12.16～ 1992.01.23	500	設計機 他建設
きゅうほうじいせき 久宝寺遺跡 (第14次調査)	おおさかみやわしじんわちょう 大阪府八尾市神武町	27212 23	34度37分 34秒	135度34分 34秒	1992.05.26～ 08.10	660	店舗付 共同住 宅建設
きゅうほうじいせき 久宝寺遺跡 (第18次調査)	おおさかみやわしじんわちょう 大阪市平野区加美東7丁目	27212 23	34度37分 32秒	135度34分 42秒	1994.09.01～ 10.12	810	配送セ ンター 建築
きゅうほうじいせき 久宝寺遺跡 (第27次調査)	おおさかみやわしじんわちょう 大阪府八尾市龜井町3丁目	27212 23	34度37分 25秒	135度34分 35秒	1999.05.17～ 07.21	485	排水処 理場・工 業用水 槽等建 設
きゅうほうじいせき 久宝寺遺跡 (第59次調査)	おおさかみやわしおおあがめい 大阪府八尾市大字龜井	27212 23	34度37分 17秒	135度34分 59秒	2004.08.05～ 11.30	1539	共同住 宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構・地層			主な遺物	特記事項
久宝寺遺跡 (第13次調査)	集落	古墳時代初頭～前期 古墳時代前期 奈良～平安時代 鎌倉時代 近世	堅穴住居 井戸 上坑 小穴 潟 井戸 土坑 清 沢 清 井戸	古式土師器 石器 古式土師器 木製品 土師器 須恵器 瓦器 土師器 須恵器 瓦器 陶器器			黒漆を塗った環形付 木製品が出土した。
久宝寺遺跡 (第14次調査)	集落	弥生時代後期末～古墳 時代前期 古墳時代前前期 飛鳥～奈良時代	堅穴住居 独立柱建物 井戸 土 坑 潟 ピット 堅穴住居 井戸 上坑 清 ピッ ト 掘立柱建物 清 ピット		古式土師器		
久宝寺遺跡 (第18次調査)	集落	古墳時代初頭～前期 古墳時代前前期	堅穴住居 井戸 上坑 清 ピッ ト 土 清	古式土師器			船岡半島に類似がある 台脚付壇壝蓋や把手 付鉢が出土。
久宝寺遺跡 (第27次調査)	集落	古墳時代初頭～前期 古墳時代前前期	堅穴住居 十坑 小穴 潟	古式土師器			北陸系、山陰系、阿 波系、瀬戸内系の土器 が出土した。
久宝寺遺跡 (第59次調査)	集落	古墳時代初頭～前期 古墳時代中期 飛鳥～平安時代 中世～近世 近代	小穴 潟 岩畔 沢川 井戸 土坑 小穴 清 土坑 小穴 潟 井戸 土坑 清 島畠 水田 井戸 土坑	古式土師器 古式土師器 須恵器 上部器 須恵器 上部器 黑色 土器			

要約	13次調査では、古墳時代前期の河川から多量の土器とともに黒漆を塗った環形付木製品が出土した。14次調査では、弥生時代後期末～古墳時代前期にかけての住居を確認した。18次調査では、古墳時代前期の土坑および清から台脚付短壝蓋・把手鉢が出土した。これらの土器は朝鮮半島産の土器の特徴と類似し、同島との交流を物語るものである。27次調査では、古墳時代前前期の遺構から北陸系、山陰系、阿波系、瀬戸内系などの土器が出土した。59次調査では飛鳥時代および古墳時代中期の遺構を確認し、居宅域の存在が判明した。
----	--

財団法人八尾市文化財調査研究会報告122

## 久宝寺遺跡

- I 久宝寺遺跡(第13次調査)
- II 久宝寺遺跡(第14次調査)
- III 久宝寺遺跡(第18次調査)
- IV 久宝寺遺跡(第27次調査)
- V 久宝寺遺跡(第59次調査)

発行 平成21年3月  
編集 財団法人八尾市文化財調査研究会  
〒581-0821  
大阪府八尾市幸町四丁目58番地の2  
TEL・FAX (072) 994-4700

印刷 株式会社 熨斗秀興堂  
〒577-0827  
東大阪市衣摺5丁目20-10  
TEL 06 (6727) 1166  
表紙 レザック66 <260kg>  
本文 ニューエイジ <70kg>  
図版 マットアート <110kg>

